

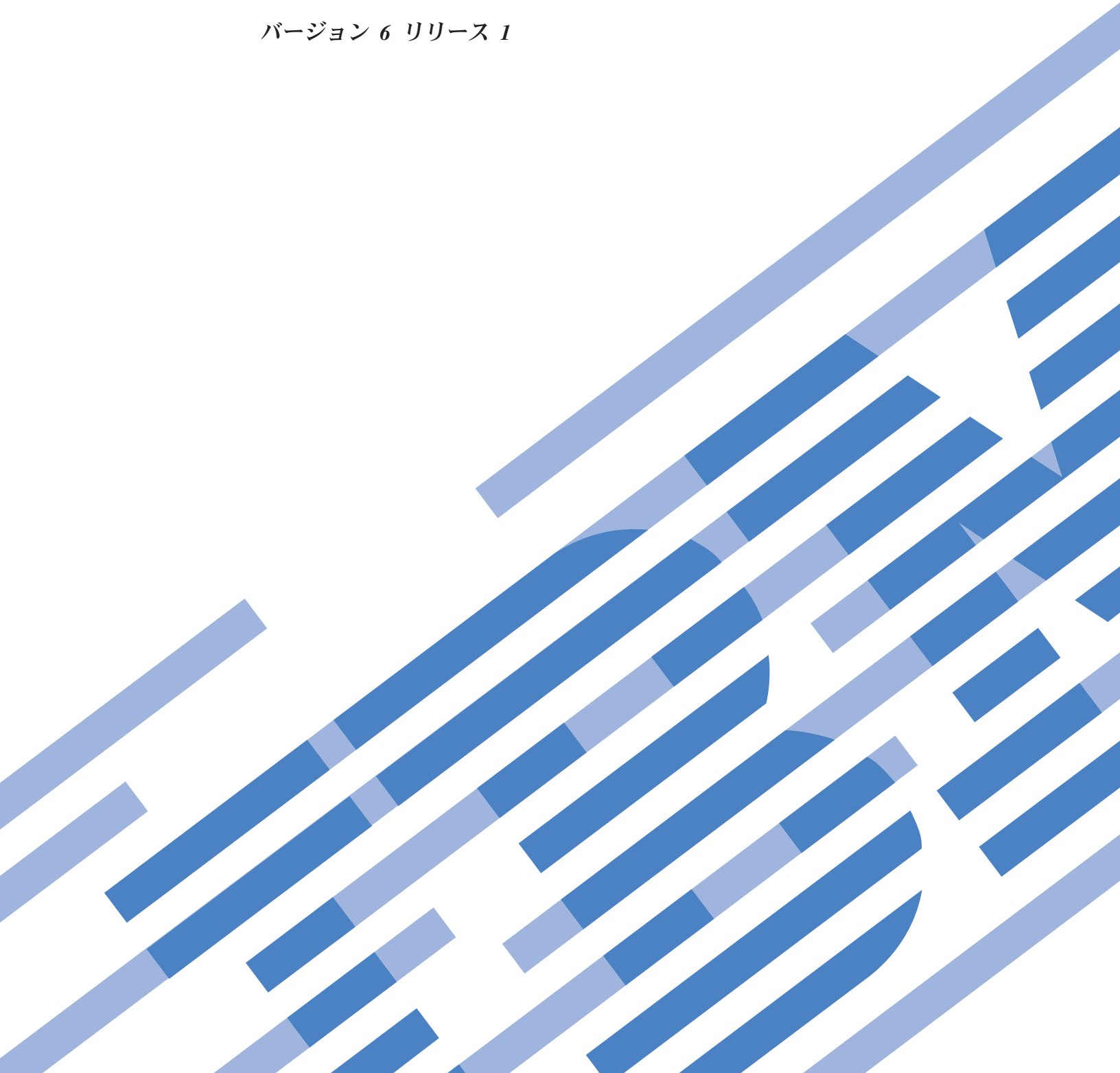


System i

System i 接続

System i Access for Windows:  
インストールおよびセットアップ

バージョン 6 リリース 1







**System i**

**System i 接続**

**System i Access for Windows:  
インストールおよびセットアップ**

*バージョン 6 リリース 1*

## お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、83 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、System i Access for Windows (プロダクト番号 5761-XE1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： System i  
Connecting to System i  
System i Access for Windows: Installation and setup  
Version 6 Release 1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2008. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2008

---

## 目次

<b>第 1 章 概要</b> . . . . .	<b>1</b>	PC のセットアップ . . . . .	13
System i Access for Windows: インストールおよびセ		関連情報 . . . . .	78
ットアップ . . . . .	1	System i Access for Windows: 使用 . . . . .	79
1 V6R1 の新機能 . . . . .	2	<b>付録. 特記事項</b> . . . . .	<b>83</b>
System i Access for Windows 用の PDF ファイル:		プログラミング・インターフェース情報 . . . . .	85
インストールおよびセットアップ . . . . .	2	商標 . . . . .	85
System i Access for Windows のライセンス情報 . . . . .	2	使用条件 . . . . .	85
System i Access for Windows 用のシステムのセッ			
トアップ . . . . .	4		



---

## 第 1 章 概要

IBM® System i™ Access for Windows® は、System i Access Family の主要製品です。IBM System i Access for Windows は、PC を System i プラットフォームに接続するための強力な機能セットを提供します。インストール手順およびセットアップ手順を実行した後で、IBM System i Access for Windows を使用して、記載されているいずれかのタスクを行うことができます。

System i Access for Windows は、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、および Windows Server 2003 の各オペレーティング・システムと互換性があります。この製品により、System i のリソースをデスクトップ PC で使用できるように拡張することで、エンド・ユーザーやアプリケーション・プログラマーがビジネス情報、アプリケーション、およびリソースを企業のどこからでも活用できるようになります。統合グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) 機能は、System i プラットフォーム上のリソースにアクセスするユーザーの生産性を高めます。V5R2 までは、この製品は Client Access Express と呼ばれていました。

System i Access for Windows には、以下の機能があります。

- TCP/IP 上で使用する Windows クライアントです。
- ご使用のシステムを管理するために System i ナビゲーター を含む 5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターを組み込んだ、全機能搭載のクライアントで、DB2® UDB for System i ファイル、およびその他多くのリソースへのアクセスが可能になります。
- Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を利用したセキュアな接続を用いて、System i プラットフォームと通信できます。さらに、クライアント・サイドの SSL 暗号化スイッチを介して、FIPS 準拠 (連邦情報処理標準) をサポートします。
- インストールが簡素化されており、管理者はより柔軟で高度な管理を行うことができます。
- Java と互換性があります。
- System i Support for Windows Network Neighborhood (i5/OS® NetServer™) 機能に統合されたファイルおよび印刷サービス機能を使用します。
- ODBC、Active X、ADO、OLE DB、および ADO.NET の API などの、多数のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を含みます。

### 関連概念

System i Access for Windows: 管理

System i Access for Windows: プログラミング

---

## System i Access for Windows: インストールおよびセットアップ

System i Access for Windows を使用するには、System i プラットフォームと PC の両方に、System i Access for Windows をインストールして構成しておく必要があります。

このトピックでは、システム管理者が System i プラットフォームのインストールおよび構成を行い、PC への System i Access for Windows のインストールはユーザーが行うことを前提としています。

注: コード例を使用することにより、読者は『コードに関するライセンスおよび特記事項』の条件に同意されることになります。

### 関連概念

System i Access for Windows: 管理

System i Access for Windows: プログラミング

## Ⅰ V6R1 の新機能

Ⅰ System i Access for Windows の当りリリースでの新規および変更されたインストールやセットアップ情報を  
Ⅰ 確認してください。

- Ⅰ • Windows Installer テクノロジーが使用されています。
- Ⅰ • Windows Vista のサポートが追加されています。
- Ⅰ • 以前は、調整インストール・ウィザードにより、管理者は、ユーザーがインストールできる System i  
Ⅰ Access for Windows のコンポーネントを制御できました。この機能は、Windows Installer のトランスフ  
Ⅰ ォームで置き換えられました。『インストール・パッケージを調整する方法』のトピックの中の 39 ペー  
Ⅰ ジの『トランスフォーム』を参照してください。
- Ⅰ • サイレント・インストールは、ユーザー・レベル・インターフェースで置き換えられました。
- Ⅰ • 共通プロパティを使用してユーザーの環境を制御することができます。詳しくは、47 ページの『共通  
Ⅰ プロパティ』を参照してください。
- Ⅰ • サービス・パックは、マイナー・アップグレードによってインプリメントされます。詳しくは、64 ペー  
Ⅰ ジの『サービス・パックを複数の PC にインストールするための準備』を参照してください。
- Ⅰ • Visual Basic の EZ セットアップおよび ADO ウィザードは除去されました。

## System i Access for Windows 用の PDF ファイル: インストールおよびセットアップ

この情報の PDF を表示および印刷することができます。

本書の PDF 版を表示またはダウンロードするには、「System i Access for Windows インストールおよび  
セットアップ」を選択します。

### PDF ファイルの保存

表示用または印刷用の PDF ファイルをワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ご使用のブラウザで PDF のリンクを右クリックします。
2. PDF をローカルに保存するオプションをクリックします。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進みます。
4. 「保存」をクリックします。

### Adobe® Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、ご使用のシステムに Adobe Reader がインストールされている

必要があります。Adobe Web サイト (英語) ([www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html](http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html))  からコピー  
を無料でダウンロードできます。

## System i Access for Windows のライセンス情報

IBM System i Access for Windows はライセンス・プログラムです。フィーチャーによっては、System i  
Access Family (5761-XW1) ライセンスがなければ、使用できないものもあります。すべてのフィーチャー  
は、System i Access for Windows プログラムと一緒にインストールされます。



System i Access Family ライセンス・プログラム (5761-XW1) を使用するには、ライセンスの使用制限を判断し、System i プラットフォームで使用制限を更新して、ライセンス・キー情報を入力する必要があります。

次のフィーチャーは、System i Access Family ライセンスおよび i5/OS ライセンスがなければ使用できません。

- 5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター
- データ転送

**重要:** System i Access Family 5761-XW1 には、ソフトウェア・ライセンス・キーが必要です。System i Access Family は、特定のリリースに対して i5/OS ソフトウェアのすべてのオーダーに同梱されているキー付きメディアに含まれています。5761-XW1 を注文すると、ライセンス・キーが付与されます。5761-XW1 を注文していない場合、キー付きメディアの製品を 70 日間試用することができます。70 日の試用期間が終了すると、その製品を注文してソフトウェア・ライセンス・キーを付与されなければ、その製品は使用不可になります。ソフトウェア・ライセンス・キーは 18 桁の許可コードであり、キー付きメディアのソフトウェア製品や機能を、指定した System i プラットフォームで使用できるようにするものです。

5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターおよびデータ転送フィーチャー以外のすべてのフィーチャーを使用する場合には、i5/OS ライセンスのみが必要です。

実行するインストールのタイプを選択すると、インストールされるフィーチャーが決まります。選択できるインストールのタイプと、フィーチャーがインストールするライセンスを必要とするかどうかを以下に示します。

- インストール・タイプの「**全機能**」および「**PC5250 ユーザー**」には、System i Access Family ライセンスを必要とするフィーチャーが含まれます。
- 「**カスタム**」インストールでは、インストールするフィーチャーを選択できます。選択するフィーチャーによっては、System i Access Family のライセンスを必要としない場合があります。ライセンスが必要なフィーチャーはセットアップ・プログラムでリストされます。

**注:** 5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター・フィーチャーまたはデータ転送フィーチャーのインストールにはライセンスは必要ありませんが、これらのフィーチャーを実行するためにはライセンスが必要です。

## ライセンスの使用制限

System i Access for Windows クライアントは、System i プラットフォームにアクセスして同時にアクティブになる PC の台数の分だけライセンスが交付されます。1 ライセンスは、System i Access for Windows を実行する 1 台の PC 上で、ライセンスを交付された機能の使用期限と System i Access for Windows プロパティ・ページで指定された時間を合わせた期間だけ有効です。この期間が切れると、そのライセンスを他の PC が使用できる状態になります。1 台の PC が複数の System i プラットフォーム上のライセンス・プログラムにアクセスしている場合は、その PC がライセンスを受けた機能を用いて接続しているそれぞれの System i プラットフォームごとにライセンスが必要です。

1 台の PC 上で System i Access for Windows を使用する場合、その PC には System i プラットフォームに対して複数のセッションが確立できますが、System i Access Family ライセンスは 1 つしか使用しません。例えば、複数の 5250 エミュレーションまたはデータ転送セッションを開始できますが、PC に必要なライセンスは 1 つだけです。

System i Access for Web (5761-XH2) も、System i Access Family のライセンスを必要とする製品です。System i Access for Web 製品を System i Access for Windows と同じ PC で使用する場合は、製品ごとに別個のライセンスを使用することに注意してください。したがって、その製品の両方を使用するときには、1 台の PC で、少なくとも 2 つの System i Access Family ライセンスが必要です。System i Access for Web のライセンス使用について詳しくは、『System i Access for Web ライセンス情報』のトピックを参照してください。

ライセンス交付は、個々のクライアント・レベルではなく、System i Access Family のレベルで管理されます。したがって、ライセンスの使用制限まで、System i Access for Windows および System i Access for Web クライアントを任意の組み合わせで使用できます。

System i Access ライセンスの使用制限を判断するには、次のようにします。

1. 接続しようとする System i プラットフォームで WRKLCINF コマンドを入力します。製品のリストが表示されます。
2. プロダクト 5761XW1 ベース (フィーチャー 5050) の隣の入力フィールドに、5 と入力します。これで、System i Access Family ライセンス製品の詳細に、使用制限が表示されます。使用制限は、System i Access Family について購入したライセンスの数と等しくなければなりません。購入した数を超える数については、IBM の使用許諾契約違反となります。

### **System i Access Family ライセンス・プログラムを使用します。**

System i Access Family ライセンス・プログラム (5761-XW1) を使用するには、使用制限を更新して、ライセンス・キー情報を入力する必要があります。

1. ご使用のシステム上の 5761-XW1 製品の更新するには、次のようにします。
  - a. 接続しようとする System i プラットフォームで WRKLCINF コマンドを入力します。製品のリストが表示されます。
  - b. プロダクト 5761XW1 ベース (フィーチャー 5050) の隣の入力フィールドに、2 と入力します。使用制限を System i Access 用に購入したライセンス数に変更します。System i Access 用にプロセッサ・ベース・オプションを購入した場合は、使用制限の値として \*NOMAX と入力してください。購入した数を超える数を入力すると、IBM の使用許諾契約違反となります。
2. ライセンス・キー情報を入力するには、次のようにします。
  - a. 接続しようとする System i プラットフォームで WRKLCINF コマンドを入力します。製品のリストが表示されます。
  - b. プロダクト 5761XW1 オプション 1 (フィーチャー 5101) の隣の入力フィールドに、1 と入力します。
  - c. ライセンス・キー情報を入力します。ライセンス・キー情報を入力する方法については 6 ページの『インストールする必須プログラムとオプション・プログラム』を参照してください。

## **System i Access for Windows 用のシステムのセットアップ**

System i Access for Windows を使用するには、ソフトウェアをシステムと PC の両方にインストールし、構成する必要があります。

システムに System i Access for Windows サービス・パックをインストールするには、その前に、システムに System i Access for Windows をインストールしておく必要があります。システムへのインストールが完了したら、System i プラットフォームからクライアント PC に、System i Access for Windows をインストールすることができます。

以下の情報は、System i プラットフォームに System i Access for Windows をインストールし、構成する際に必要な手順のガイドとして使用してください。

#### 関連概念

13 ページの『PC のセットアップ』

System i Access for Windows が i5/OS 上でインストールおよび構成された後で、ご使用の PC 上で System i Access for Windows をインストールおよび構成する必要があります。

#### 関連資料

78 ページの『関連情報』

System i Access for Windows に関するその他の情報源が記載されています。

## i5/OS に System i Access for Windows をインストールする前提条件

ここでは、i5/OS にインストールすべき必須プログラムとオプション・プログラムの判別方法をステップを追って説明します。

必須プログラムとオプション・プログラムのすべてを、同時にインストールする必要があります。

以下のトピックから選択して、お客様の System i プラットフォームが System i Access for Windows をインストールする要件を満たしていることを確認してください。

### i5/OS のリリース要件:

System i Access for Windows は、システムの特定のバージョンおよびリリースをサポートします。

System i Access for Windows V6R1 (5761-XE1) は、i5/OS V5R4 以降を備えたシステムにのみインストールできます。この基準を満たさないシステムにインストールする場合は、5761-XE1 をインストールする前に、「i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、更新、または削除」の指示に従う必要があります。

- | また、ご使用の PC に System i Access for Windows をインストールした後で、その PC が接続する他の
- | システムをアップグレードする必要が生じる場合があります。IBM は、i5/OS V5R3 以降を備えたシステ
- | ムへの PC 接続のみをサポートします。これらのシステムがこの基準を満たしていない場合は、「i5/OS
- | および関連ソフトウェアのインストール、更新、または削除」の指示に従って、これらのシステム上の
- | i5/OS をサポートされるリリースにアップグレードする必要があります。

System i プラットフォーム上でインストールするには、セキュリティー・レベルが機密保護担当者 (\*SECOFR) でなければなりません。これは、System i プラットフォーム上での最高のセキュリティー・レベルです。このセキュリティー・レベルが必要なのはインストールだけであり、通常の System i Access for Windows の使用には必要ありません。

#### 関連情報

i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードまたは削除

### i5/OS のストレージ要件:

ご使用のシステムには、System i Access for Windows をインストールするのに十分なストレージがなければなりません。

表 1. System i Access for Windows のインストールに必要なシステム上のスペース

容量	目的
168MB	32 ビットのプロセッサのインストール・イメージ
174MB	64 ビットの AMD プロセッサのインストール・イメージ

表 1. System i Access for Windows のインストールに必要なシステム上のスペース (続き)

容量	目的
153MB	64 ビットの Itanium® プロセッサのインストール・イメージ
28.5MB*	オンライン・ヘルプ情報、オンラインのユーザズ・ガイド、メッセージ
* このサイズは言語バージョン (NLV) が 2924 (英語) の場合です。サイズは、言語バージョン (NLV) ごとに異なります。	

ご使用のシステムで使用可能なストレージ容量の検査方法については、『新しいサーバーまたは論理区画への i5/OS および関連ソフトウェアのインストール』を参照してください。

### インストールする必須プログラムとオプション・プログラム:

使用する System i Access for Windows の機能に応じて、インストールすべきプログラムがあります。

このトピックを読み進みながら、インストールする必要があるプログラムを書き留めておいてください。インストール手順をウォークスルーするときに、プログラム名が必要になります。

注: System i プラットフォーム上の System i Access for Windows 1 次言語は、インストールした最初の System i Access for Windows 言語に設定されます。しかし、その後で i5/OS 1 次言語に一致する System i Access for Windows 言語をインストールする場合は、その言語が System i プラットフォーム上で新しい System i Access for Windows 1 次言語になります。

### 必須のライセンス・プログラム・オプション

表 2. System i Access for Windows 用にインストールする必須プログラム

プログラム	オプション	説明
5761-SS1	12	ホスト・サーバー
5761-XE1	BASE	System i Access for Windows
5761-XW1	BASE、1	System i Access Family
5761-TC1		TCP/IP ユーティリティ
注: インストールする各製品は最新レベルでなければなりません。		

### 注:

- データ転送または PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーションを使用する場合に、インストールする必要があるのは、System i Access Family 5761-XW1 ベースおよびオプション 1 のみです。
- 5761-XE1 を必ずしもシステムにインストールする必要はありません。しかしながら、System i Access for Windows の以下のパーツを使用したい場合は、5761-XE1 をインストールする必要があります。
  - サービス・バック管理
  - System i プラットフォームを介したインストール
- 5761-XW1 を使用するには、次のようにして、システム上にある 5761-XW1 製品の使用制限を更新します。
  - 接続しようとする System i プラットフォームで WRKLICINF コマンドを入力します。製品のリストが表示されます。

- b. プロダクト 5761XW1 ベース (フィーチャー 5050) の隣の入力フィールドに、2 と入力します。使用制限を System i Access Family 用に購入したライセンス数に変更します。System i Access Family 用にプロセッサ・ベース・オプションを購入した場合は、使用制限の値として \*NOMAX と入力してください。購入した数を超える数を入力すると、IBM の使用許諾契約違反となります。
4. 5761-XW1 を使用するには、次のようにしてライセンス・キー情報を入力します。
    - a. 接続しようとする System i プラットフォームで WRKLCINF コマンドを入力します。製品のリストが表示されます。
    - b. プロダクト 5761XW1 オプション 1 (フィーチャー 5101) の隣の入力フィールドに、1 と入力します。ライセンス・キー情報を入力します。

注: フィーチャー 5101 の使用制限およびプロセッサ・グループの ADDLICKEY 値:

- ADDLICKEY 画面の「**使用制限 (Usage Limit)**」フィールドでは、使用制限の更新時に 5761XW1 ベース (フィーチャー 5050) に対して入力された使用制限に関係なく、ご使用のキー・シートに示されたとおりに、常に値 \*NOMAX を入力します。\*NOMAX の使用制限の値は、ソフトウェア・キーの一部として必要ですが、使用ベースのライセンスのもとにライセンス交付されたユーザー数を表すものではありません。
- ADDLICKEY 画面の「**プロセッサ・グループ (Processor Group)**」フィールドに、ユーザー・ベース・ライセンスの値 \*ANY を入力します。プロセッサ・ベース・ライセンスには、ライセンス交付を受けたプロセッサ・グループに対応するプロセッサ・グループ値があります。

## オプション・ライセンス・プログラム

System i Access for Windows では、Secure Sockets Layer (SSL) サポートが使用可能です。SSL を使用するには、以下にリストした製品を注文してインストールしてください。これらの製品については、お客様の国または地域、あるいは System i プラットフォームが稼働する国または地域に応じた正しい暗号化を使用していることを、お客様の責任においてご確認ください。

- 5761-SS1 - デジタル証明書マネージャー (Boss Option 34)
- 5761-DG1 (HTTP Server)

注:

1. あるバージョンのクライアント暗号化が PC に既にインストール済みの場合は、V5R4M0 以降、SSL サポートは System i Access for Windows のアップグレード版に自動的にインストールされません。
2. SSL コンポーネントには、RSA Data Security, Inc. の暗号化ソフトウェアが含まれています。

SSL の構成について詳しくは、「System i Access for Windows: 管理」の SSL の説明を参照してください。

## 関連タスク

8 ページの『i5/OS への System i Access for Windows のインストール』

i5/OS 上に System i Access for Windows をインストールする場合は、i5/OS 上に必須プログラムとオプション・プログラムもインストールする必要があります。

## 関連情報

インストールする必須プログラムとオプション・プログラム

インストールする必須プログラムとオプション・プログラムの追加情報については、このトピックを参照してください。

## i5/OS への System i Access for Windows のインストール

i5/OS 上に System i Access for Windows をインストールする場合は、i5/OS 上に必須プログラムとオプション・プログラムもインストールする必要があります。

必須プログラムとオプション・プログラムのすべてを、この時点でインストールする必要があります。インストールするプログラムを判別するには、6 ページの『インストールする必須プログラムとオプション・プログラム』を参照してください。

1. ワークステーションのユーザーをサインオフし、すべての接続を終了します。
2. \*SECOFR 権限で System i プラットフォームにサインオンします。
3. ライセンス・プログラムが入っているメディアをインストール装置にロードします。ライセンス・プログラムが数種のメディアに入っている場合、どれをロードしても問題ありません。
4. 5761-SS1 (オプション 12: ホスト・サーバー) をインストールする場合、System i プラットフォームを制限状態にする必要があります。System i プラットフォームを制限状態にするには、次のようにします。
  - a. System i コマンド・プロンプトで、CHGMSGQ QSYSOPR \*BREAK SEV(60) と入力して、Enter キーを押します。
  - b. 「メッセージの表示」画面が表示されたら、Enter キーを押します。System i コマンド・プロンプトに戻ります。
  - c. System i コマンド・プロンプトで、ENDSBS \*ALL \*IMMED と入力して、Enter キーを押します。
  - d. System ended to restricted condition というメッセージが表示されます。続行するには、Enter キーを押してください。
  - e. System i コマンド・プロンプトで、CHGMSGQ QSYSOPR SEV(95) と入力して、Enter キーを押します。
  - f. 「メッセージの表示」画面が表示されたら、Enter キーを押します。System i コマンド・プロンプトに戻ります。

これで、System i プラットフォームは制限状態になります。

**注:** すべてのプログラムをインストールしたら、**STRSBS** コマンドを指定して制御サブシステムを開始し、**制御サブシステム (QCLTLSBSD)** システム値を指定することによって、制限状態を終了できます。

5. System i コマンド・プロンプトで、GO LICPGM と入力してから、オプション 11 を選択します。オプション 11 については、i5/OS Information Center の「リストからの表示、インストール、削除、および保管のためのオプション」を参照してください。
6. インストールする必要があるそれぞれのライセンス・プログラムの隣にある「オプション」欄に 1 を入力します。インストールする必要があるプログラムのリストについては、6 ページの『インストールする必須プログラムとオプション・プログラム』のトピックを参照してください。続行するには、Enter キーを押してください。
7. 「ライセンス・プログラムのインストールの確認」画面が表示されます。Enter キーを押して、選択項目を確認します。「インストール・オプション」画面が表示されます。
8. 以下の値を指定して、Enter キーを押します。

パラメーター	値
インストール装置	インストール装置の名前。例えば、OPT01。
インストールするオブジェクト	1

パラメーター	値
自動 IPL	N

9. ライセンス・プログラムがインストールされます。
  - インストールの状態を示す画面が表示されます。この状態の画面に応答する必要はありません。
  - 選択したライセンス・プログラムが複数のボリューム上にある場合、インストール・プログラムから新しいボリュームを求めるプロンプトが表示されます。次のメディア・ボリュームをロードし、G を押してから、Enter キーを押します。追加のメディア・ボリュームがない場合は、X を押してから、Enter キーを押します。
10. インストールが完了すると、「ライセンス・プログラムの処理」画面が表示されます。
  - インストールが正しく実行されると、「ライセンス・プログラムの処理が完了しました。」というメッセージが表示されます。F3 を押して、System i コマンド・プロンプトに戻ります。
  - インストールが失敗すると、「ライセンス・プログラムの処理が完了していません。」というメッセージが表示されます。「i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、アップグレード、または削除」を参照して、問題を判別してください。
11. System i コマンド・プロンプトに CHKPRDOPT 5761XE1 と入力して、System i Access for Windows が正しくインストールされていることを確認します。System i Access for Windows が正しくインストールされている場合は、「CHKPRDOPT がエラーを検出しなかった」というメッセージが表示されません。
12. 最新の累積 PTF パッケージを System i プラットフォームにインストールしてください。PTF のインストールについては、『PTF の入手およびインストール』を参照してください。(最新の累積パッケージがインストールされていて、5761-XE1 がまだインストールされていない場合は常に、5761-XE1 をインストールした後に、累積 PTF パッケージからすべての 5761-XE1 サービス・パック PTF をインストールする必要があることに注意してください。)

## PTF の入手およびインストール

ご使用のシステムに対して最新の PTF とサービス・パックを入手すれば、サービスに不要な連絡をすることなく、より安定した稼働環境を作ることができます。

System i Access for Windows 用の修正は、配布用のプログラム一時修正 (PTF) にパッケージ化されたサービス・パックに組み込まれています。System i プラットフォームに最新の PTF をダウンロードして、System i Access for Windows クライアントの稼働環境をより安定させ、既知の問題を修正することができます。ホスト・システムに PTF をインストールした後は、**サービス・レベルを検査する時点機能**を使用して、クライアント PC にサービス・パックを配布できます。

サービス・パック PTF は、System i プラットフォーム上の System i Access for Windows インストール・イメージを更新します。すべてのインストールにおいて、ホスト System i プラットフォームの最新のサービス・パック・レベルが反映されます。


**注:** インストール、サービス・パックの更新、および新規リリースへのアップグレードを行えるのは、機密保護管理者権限を持つユーザーのみです。ただし、管理者権限を持たないエンド・ユーザーに、スケジュールされたタスクをリモートでアクセスする許可を与えることはできません。

## System i プラットフォームにインストールする最新 PTF の入手

PTF 注文の送信 (SNDPTFORD) コマンドを使用して、ご使用の System i プラットフォームの PTF を注文します。サービス・パック PTF は、ほとんどの場合、電子的に送信できるサイズの限界を超えているの

で、SNDPTFORD の送達方法パラメーター、DELIVERY を \*ANY に変更することで、メディアに入れた PTF を受け取ることができます。(このパラメーターのデフォルト値は \*LINKONLY です。)あるいは、Fix Central を使用します。

サービス・パック CD を電子的に注文し、それを、インストール元の仮想光ディスク装置の統合ファイル・システムに直接置くこともできます。このオプションを使用するには、IBM サービスとの事前の取り決めが必要です。

これらの PTF 注文オプションについては、「IBM System i support」(<http://www.ibm.com/servers/eserver/support/series/index.html>)  を参照し、「Popular links (一般リンク)」の下の「Fixes (修正)」を選択します。

#### 関連概念

65 ページの『サービス・レベルの検査機能』

サービス・レベルの検査は、System i Access for Windows の 1 機能です。この機能を使用して、システム上で System i Access for Windows と関連コンポーネントへの更新を検出したり、クライアント PC にサービス・パックを配布したりすることができます。

#### 関連タスク

29 ページの『リモートでスケジュールされたタスクの使用』

Windows オペレーティング・システムのスケジュールされたタスク機能をリモート・アクセスで使用すると、ユーザーは管理者特権なしで、System i Access for Windows のインストールおよびアップグレード、ならびにサービス・パックのインストールを行うことができます。

#### 関連資料

72 ページの『PC へのサービス・パックのインストール』

最新のサービス・パックを確実にインストールすることによって、既に修正が適用された問題について不必要にサービスに連絡することを避け、System i Access for Windows クライアントに、より安定した稼働環境を作ることができます。

67 ページの『サービス・パックのダウンロード・サイト』

PC 上で実行できるサービス・パックは、System i Access for Windows サービス・パックのページおよび IBM FTP サイトから入手できます。

## i5/OS プラットフォーム上の TCP/IP の構成

TCP/IP は、System i プラットフォームへの PC の接続方法に応じて、適切に構成する必要があります。

TCP/IP は i5/OS に付属のライセンス・プログラムです。このトピックでは、System i プラットフォームに TCP/IP がインストールされていることを前提としています。ご使用のシステムに TCP/IP (5722-TC1) をインストールする手順は、『追加のライセンス・プログラムのインストール』に記載されています。

TCP/IP がシステム上で既にセットアップされている場合は、System i Access for Windows 用に TCP/IP を追加して構成する必要はありません。

注: VPN は、セキュアなリモート接続用のオプションです。System i の VPN については、「仮想プライベート・ネットワーク」を参照してください。

## LAN 使用のための TCP/IP の構成

LAN を介して System i Access for Windows を使用する場合、TCP/IP を LAN で使用するために構成する必要があります。System i プラットフォームでの TCP/IP の構成については、『TCP/IP セットアップ』を参照してください。



## PPP または SLIP 接続用の TCP/IP の構成

SLIP または PPP を使用して PC を System i プラットフォームに接続する場合は、2 地点間 TCP/IP の構成について、『PPP 接続』に関するトピックを参照してください。

## i5/OS 上の i5/OS NetServer の構成

i5/OS NetServer を使用して、i5/OS 上の System i Access for Windows インストール・イメージを PC ユーザーが使用できるようにすることができます。

各ユーザーがご使用の System i プラットフォームから System i Access for Windows をインストールできるようにするために、ご使用の System i プラットフォーム上に i5/OS NetServer を構成します。

System i Access for Windows は、System i Support for Windows Network Neighborhood (i5/OS NetServer) によって提供される、ネットワーク・ドライブまたはネットワーク・プリンター機能を使用します。i5/OS NetServer を介して、System i Access for Windows は、Microsoft® Windows オペレーティング・システムに組み込まれたファイルおよびプリンターの共用機能を利用することができます。

注:

1. i5/OS NetServer では Kerberos チケットによるユーザー認証が可能になります。Kerberos とはサーブド・パーティーによる認証メカニズムで、クライアントは Kerberos サーバー (もしくは鍵配布センター) に対して身元を証明し、その後返信されてくるチケットを受け取ります。その後クライアントはそのチケットを使用して、ネットワーク上の他のシステムに対して、暗号で身元を証明することができます。Kerberos チケットは、ユーザー ID とパスワードを認証データとして渡すことなく、システムがユーザーを認証するために使用されます。Microsoft は Windows 2000 および Windows XP クライアントに Kerberos 認証機能を提供しています。

Kerberos チケットについては、『ネットワーク認証サービスのプロトコル』を参照してください。

2. i5/OS NetServer からのドメイン・ログオン・サポートについては、『i5/OS NetServer のドメイン・ログオンのサポート』を参照してください。

PC は、追加のソフトウェアなしに、i5/OS NetServer にアクセスし、これを活用できます。しかし、i5/OS NetServer のプロパティを PC クライアントから管理する必要がある場合は、System i Access for Windows の System i ナビゲーター 機能のネットワーク機能をインストールする必要があります。

注: i5/OS NetServer のファイル共用および印刷共用機能を構成する場合は、以下の説明を参照してください。

- i5/OS NetServer ファイル共用
- i5/OS NetServer 印刷共用

追加の構成に関する説明は、『i5/OS NetServer 始めに』に記載されています。

## i5/OS NetServer の構成

ネットワーク内のユーザーがファイル共用およびプリンター共用を使用する場合は、次のような System i 構成が必要です。

注:

- 以下の指示は、TCP/IP が System i プラットフォーム上にインストールされて構成されていることを前提としています。インストールおよび構成が行われていない場合は、5 ページの『i5/OS に

System i Access for Windows をインストールする前提条件』および 10 ページの『i5/OS プラットフォーム上の TCP/IP の構成』にある指示に従ってください。

- 以下の構成の説明では、アクセスする PC には System i ナビゲーターがインストールされていることを前提としています。

System i ナビゲーター を用いて i5/OS NetServer をサポートするように System i プラットフォームを構成するには、以下のようにします。

1. i5/OS NetServer ウィザードを使用します。 ウィザードを開くには、以下の手順に従います。
  - a. System i プラットフォームで System i ナビゲーター への接続を開きます。
  - b. 「ネットワーク」を展開します。
  - c. 「サーバー」を展開します。
  - d. 「TCP/IP」をクリックします。
  - e. 「i5/OS NetServer」を右クリックしてから、「構成」をクリックします。
2. ウィザードで提供されているプロンプトに従ってください。

注: i5/OS NetServer 構成の追加情報については、i5/OS NetServerを参照してください。

3. TCP/IP アドレスの管理および解決を容易にするため、i5/OS NetServer の項目をドメイン・ネーム・サーバー (DNS) に追加します。

注: 構成の説明は、System i ナビゲーター のオンライン・ヘルプと『PC クライアントの構成および接続』に記載されています。

4. i5/OS NetServer のプロパティに変更を加えても、i5/OS NetServer を次に始動するまで有効になりません。i5/OS NetServer を始動または停止するには、次のようにします。
  - a. System i プラットフォームで System i ナビゲーター への接続を開きます。
  - b. 「ネットワーク」を展開します。
  - c. 「サーバー」を展開します。
  - d. 「TCP/IP」をクリックします。
  - e. 「i5/OS NetServer」を右クリックしてから、「始動」または「停止」をクリックします。

## i5/OS からの System i Access for Windows の除去

ディスク・スペースを節約したり、あるいは使用しなくなった機能を除去する場合は、i5/OS から機能を削除することができます。

1. 機密保護担当者 (\*SECOFR) 権限をもつユーザー ID で System i プラットフォームにサインオンします。
2. System i コマンド・プロンプトに DLTLICPGM と入力します。 次のパラメーターおよび値を指定し、その他のパラメーターにはデフォルトを使用します。

パラメーター	値
製品	5761XE1
ライセンス・プログラムの言語	このフィールドのデフォルト値は *ALL です。特定の言語を除去する場合は、xxxx と入力します (ここで xxxx は言語バージョン (NLV) ID です)。

注: インストール済みの System i Access for Windows のオプション・プログラムは、個別のアンインストールが必要です。

## PC のセットアップ

System i Access for Windows が i5/OS 上でインストールおよび構成された後で、ご使用の PC 上で System i Access for Windows をインストールおよび構成する必要があります。

注: インストール、サービス・パックの更新、および新規リリースへのアップグレードを行えるのは、機密保護管理者権限を持つユーザーのみです。Windows のスケジュールされたタスク機能をリモート・アクセスで使用すると、ユーザーは機密保護管理者権限なしで、インストール、サービス・パックの更新、およびアップグレードを行うことができます。

### 関連概念

4 ページの『System i Access for Windows 用のシステムのセットアップ』

System i Access for Windows を使用するには、ソフトウェアをシステムと PC の両方にインストールし、構成する必要があります。

### 関連タスク

76 ページの『LDAP へのディレクトリー情報の公開』

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) へのディレクトリー情報の公開により、ディレクトリーに関する i5/OS 情報を LDAP に加えることができます。その結果、アプリケーションはこの情報を使用することができます。

## System i Access for Windows 用に PC をセットアップする前提条件

PC をセットアップする前に、PC が、System i Access for Windows を使用する前提条件を満たしていることを確認してください。詳細については、「System i Access for Windows PC and Disk Requirements」Web ページ ([www.ibm.com/eservers/series/access/pcreq.html](http://www.ibm.com/eservers/series/access/pcreq.html)) を参照してください。

表 3. PC 要件 - プロセッサー、メモリー、およびサービス・パック・レベル

オペレーティング・システム	System i Access for Windows	System i Access for Windows (System i ナビゲーター 付き)
Windows 2000	Pentium® 133 MHz および 64 MB (最小)	Pentium 850 MHz (最小) および 256 MB (最小、推奨は 512 MB またはそれ以上)
Windows XP Professional	Pentium 233 MHz および 128 MB (最小)	Pentium 850 MHz および 256 MB (最小、推奨は 512 MB またはそれ以上)
Windows XP Professional、x64 エディション	Windows XP Professional、x64 エディションでサポートされるすべての CPU、および 256 MB RAM (最小)	1 GHz および 512 MB RAM
Windows XP Tablet	300 MHz および 256 MB RAM	1 GHz および 512 MB RAM
Windows Vista Business、Enterprise、または Ultimate (32 ビット版)	1 GHz CPU および 1 GB RAM	1 GHz CPU および 1 GB RAM
Windows Vista Business、Enterprise、または Ultimate (64 ビット版)	1 GHz CPU および 1 GB RAM	1 GHz CPU および 1 GB RAM (Itanium プロセッサーはサポートされていません)
Windows サーバー 2003、32 ビット PC	Pentium 133 MHz および 128 MB (最小)	Pentium 850 MHz および 256 MB (最小、推奨は 512 MB またはそれ以上)
Windows サーバー 2003、x64 エディション	Pentium 733 MHz および 192 MB (最小)	Pentium 850 MHz および 256 MB (最小、推奨は 512 MB またはそれ以上)


注:

1. Microsoft Windows Server 2003 は、いくつかのエディションが提供されています。エディションによっては、ハードウェア要件が異なります。各エディションの基本要件情報について、Microsoft の Web サイトを参照してください。
2. System i 接続管理 (接続プロパティの追加、除去、および変更) にのみ System i ナビゲーターを使用する計画の場合は、System i ナビゲーター の基本フィーチャーをインストールしないことをお勧めします。このフィーチャーをインストールすると、System i 接続を管理するときに、メモリー使用量が増大します。
3. Windows Vista Home Basic エディションおよび Windows Vista Home Premium エディションはサポートされていません。
4. Microsoft がサポートする Windows サービス・パック・レベルで実行する必要があります。

表 4. その他の PC 要件

PC 要件	値
ディスク・スペース - インストール	<ul style="list-style-type: none"><li>• PC5250 ユーザー - 27 MB (概算)</li><li>• 全機能 - 256 MB (概算)</li><li>• カスタム - インストールするフィーチャーに応じて異なる</li></ul>
アダプター・カード	TCP/IP をサポートする通信アダプター・カード

注:

1. ディスク・スペース - インストールの値は概算です。最新の値については、「PC requirements」 ([www.ibm.com/eservers/iseries/access/pcreq.html](http://www.ibm.com/eservers/iseries/access/pcreq.html))  を参照してください。
2. System i Access for Windows セットアップ・プログラムが作成する一時ファイルを収めるには、Windows オペレーティング・システムがインストールされるドライブに 3 MB のスペースが必要です。
3. System i ナビゲーター のファイル・システム機能を使用するときは、System i プラットフォームから追加のファイルがダウンロードされます。
4. サービス・パック・パッチ用に追加のスペースが必要です。

ご使用 PC のオペレーティング・システムのアップグレードについては、「Windows オペレーティング・システムのアップグレード」を参照してください。

**関連タスク**

『Windows オペレーティング・システムのアップグレード』  
PC 上のオペレーティング・システムをアップグレードします。

**関連情報**



System i Access for Windows の PC およびディスク要件

**Windows オペレーティング・システムのアップグレード:**

PC 上のオペレーティング・システムをアップグレードします。

ご使用の PC のオペレーティング・システムを、サポートされる Windows オペレーティング・システムのいずれかにアップグレードする場合は、以下の手順に従います。

1. System i Access for Windows のアンインストール
2. Windows オペレーティング・システムのアップグレード
3. System i Access for Windows のインストール

## PC への TCP/IP のセットアップ

TCP/IP は、System i プラットフォームへの接続を試みる前に正しくインストールされ、構成されている必要があります。

注:

1. このトピックでは、System i プラットフォームに TCP/IP が構成されていることを前提としています。ご使用のシステムで TCP/IP が構成されていない場合は、10 ページの『i5/OS プラットフォーム上の TCP/IP の構成』を参照してください。
2. 仮想プライベート・ネットワーク (VPN) は、セキュアなリモート接続用のオプションです。VPN は、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows Server 2003 を実行する PC、および i5/OS V5R1 以降の System i プラットフォームでサポートされます。System i の VPN については、「仮想プライベート・ネットワーク」を参照してください。

PC に TCP/IP をセットアップするには、以下のタスクを完了してください。

### ネットワーク・アダプターまたはモデムのインストール:

ご使用の PC 上で TCP/IP をセットアップするには、ネットワーク・アダプターまたはモデムが PC 上にインストールされていなければなりません。

LAN を介して System i プラットフォームに接続する場合は、ネットワーク・アダプターをインストールする必要があります。シリアル回線インターネット・プロトコル (SLIP) または PPP 接続を使用して、リモート・ロケーションから System i プラットフォームに接続する場合は、モデムをインストールする必要があります。ネットワーク・アダプターまたはモデムのインストールについては、ハードウェアに付属している製造元の資料を参照してください。多くの場合、製造元の資料には、ハードウェアのデバイス・ドライバのインストールに関する情報も提供されています。

### PC へのダイヤルアップ・ネットワーキングのインストール

SLIP または PPP 接続によって (モデムを使用して) System i プラットフォームに接続する場合は、ダイヤルアップ・ネットワークおよびリモート・アクセス・サービスを PC にインストールする必要があります。LAN を介して System i プラットフォームに接続している場合、またはダイヤルアップ・ネットワークが既に PC 上にインストールしてある場合には、17 ページの『TCP/IP 構成の確認』に進んでください。ダイヤルアップ・ネットワークおよびリモート・アクセス・サービスをインストールする際の説明は、以下の Microsoft の Web サイトにあります。

1. [www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) へ進みます。
2. 「検索」をクリックします。
3. 検索フィールドに Dial-Up Networking と入力し、Enter を押して検索します。

注:

1. 不要なダイヤルアップ・ネットワーキングが表示された場合は、インターネットに接続するか、あるいはダイヤルアップ・ネットワーキング構成の変更を必要とする場合があります。
2. 自動ダイヤルの完全なサポートを得るには、Internet Explorer 2.x 以上をインストールしている必要があります。Internet Explorer のプロパティ内には、「必要に応じてインターネットに接続す

る」という設定があります。このプロンプトによって、TCP/IP スタックの自動ダイヤル機能という設定を使用可能にも、あるいは使用不可にもできます。

### PC 上の TCP/IP サポートの構成:

Windows オペレーティング・システムに付属している Microsoft TCP/IP サポートを構成する必要があります。セットアップによっては、システム名を HOSTS ファイルに追加するか、または平衡型接続により TCP/IP を構成する必要が生じることもあります。

### Windows オペレーティング・システム上の TCP/IP の構成:

TCP/IP のための Windows クライアントの構成には、TCP/IP ネットワーク・プロトコルのインストールおよび構成が含まれます。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」の順にクリックします。
2. 「コントロール パネル」で「ネットワークおよびダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。
3. 「ローカル・エリア接続」を右マウス・ボタン・クリックします。
4. 「プロパティ」をクリックします。インターネット・プロトコル (TCP/IP) がリスト中に表示されない場合は、次のようにします。
  - a. 「インストール」をクリックします。
  - b. 「プロトコル」を選択してから、「追加」をクリックします。
  - c. 「インターネット・プロトコル (TCP/IP)」を選択します。
  - d. 「OK」をクリックします。「ローカル・エリア接続プロパティ」ウィンドウに戻ります。
5. 「インターネット・プロトコル (TCP/IP)」を選択してから、「プロパティ」をクリックします。
6. 「次の IP アドレスを使用」を選択します。ネットワーク管理者に問い合わせ、このタブの正しい設定値を決定します。ご使用の PC が自動的に IP および DNS アドレスを取得していない場合は、次のようにします。
  - a. PC の IP アドレス (例えば 199.5.83.205) を入力します。
  - b. サブネット・マスク (例えば、255.255.255.0) を入力します。
  - c. デフォルトのゲートウェイ (例えば、199.5.83.1) を入力します。
  - d. 優先する DNS サーバー (例えば、199.5.100.75) を入力します。
  - e. 代替 DNS サーバー (例えば、199.5.100.76) を入力します。
7. Windows インターネット・ネーム・サーバーを使用している場合は、「拡張」タブをクリックし、「WINS アドレス」を選択して、次のようにします。
  - a. 「追加」をクリックします。
  - b. プライマリ WINS サーバー (例えば 199.5.83.205) を入力します。
  - c. セカンダリ WINS サーバー (例えば 199.5.83.206) を入力します。
  - d. 残りの設定はデフォルトのままにしておく必要があります。
8. 「ローカル・エリア接続プロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。PC の再始動は必要ありません。

### HOSTS ファイルにシステム名を追加:

ドメイン・ネーム・サーバーを使用しない場合は、ご使用のシステムをネットワークに識別させるために、通信に使用する System i の名前を HOSTS ファイルに追加する必要があります。

また、ファイルおよび印刷サービスに i5/OS NetServer を使用する場合は、i5/OS NetServer のサーバー名を LMHOSTS ファイルに追加する必要があります。LMHOSTS ファイルを更新する方法については、『i5/OS NetServer を使用するための PC の構成』を参照してください。

HOSTS ファイルを作成または変更するには、次のようにします。

注: 次の例のディレクトリーは、Windows オペレーティング・システムによっては %windows%system32 でなく %wintnt%system32 となります。

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. ディレクトリーを、HOSTS ファイルがあるディレクトリーに変更します。HOSTS ファイルは、このディレクトリーに残しておく必要があります。例えば、次のように入力します。

```
c:¥>cd %windows%system32¥drivers¥etc
```

3. オプション: HOSTS という名前のファイルがこのディレクトリーに既に存在する場合は、この手順を飛ばしてください。サンプル・ファイル (Windows 提供) をコピーして、HOSTS というファイルを作成します。ファイルは、同じディレクトリー内にあつて、hosts.sam と呼ばれます。

例えば、次のように入力します。

```
c:¥windows¥system32¥drivers¥etc>copy hosts.sam hosts
```

4. HOSTS ファイルを編集します。例えば、次のように入力します。

```
c:¥windows¥system32¥drivers¥etc>edit hosts
```

HOSTS サンプル・ファイルの指示に従って、接続する System i プラットフォームの IP アドレスおよび名前を追加します。

5. HOSTS ファイルを保管します。

注: PC5250 の場合、ネーム・サーバーまたはホスト・テーブルを使用していない場合は、System i Access for Windows と共に配布される 5250 エミュレーターを開始できません。ご使用のエミュレーション画面の左下隅に、657 通信エラー (TELNET 5250 サーバー ホスト-ドメイン名の解決 (Resolving TELNET 5250 server host-domain name) ) が表示されます。

TCP/IP を使用するマシンがほとんどない場合は、HOSTS ファイルを使用するようにしてもかまいません。この場合は、各コンピューター上の最新のリストを自分で維持管理する必要があります。System i アドレスが変わった場合は、HOSTS ファイル項目があれば、変更する必要があります。

## TCP/IP 構成の確認:

TCP/IP の構成後に、構成が正しいか確認する必要があります。

System i プラットフォームへ PING コマンドを実行して、TCP/IP が PC 上で正しくセットアップされているか確認できます。

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. PING system と入力します。ここで、system は接続先の System i プラットフォームの名前です。
3. TCP/IP 構成が正しい場合は、System i プラットフォームから応答メッセージが表示されます。これらの応答メッセージが表示されない場合は、以下のように PING コマンドが失敗した理由がいくつか考えられます。
  - PING を試みているアドレスに誤りがあります。System i プラットフォームのアドレスを検査してください。

- HOSTS ファイルまたは DNS 項目中の System i プラットフォーム用にリストされた IP アドレスに誤りがあります。これは、System i プラットフォームへの PING を名前 (その逆は IP アドレス) で実行しようとしたときにのみ、起こります。その場合は、PING *nnn.nnn.nnn.nnn* を試みてください。ここで、*nnn.nnn.nnn.nnn* は接続先の System i プラットフォームの IP アドレスです。System i プラットフォームの IP アドレスはシステム管理者から入手できます。このアドレスで PING が成功した場合は、HOSTS ファイルまたは DNS 項目を正しいアドレスで更新してください。
- PC のアダプターのプロパティに設定された LAN アダプター・アドレスが誤りです。
- System i プラットフォームへ物理的に接続していません。
- System i プラットフォームまたはネットワーク名が正しくありません。
- PC 上の TCP/IP の構成が正しくありません。
- TCP/IP が System i プラットフォーム上で正しくインストールまたは構成されていないか、開始していません。これらの問題はシステム管理者に報告する必要があります。
- System i プラットフォームがダウンしています。
- System i プラットフォームが、PING できないファイアウォールの中にあります。telnet *systemname* を試みます。
- 上記のいずれでも問題が明らかにならない場合は、再始動して構成プロセスをやり直してください。

## i5/OS NetServer を使用するための PC の構成

PC を IBM System i Support for Windows Network Neighborhood (i5/OS NetServer) クライアントとして構成すると、ネットワークを介してリソース (例えば、ファイルやプリンターなど) を共用することができます。

ネットワーク上での System i Access for Windows のインストールは、i5/OS NetServer を使用して行えます。このサポートには PC への追加のソフトウェアは何も必要ありません。i5/OS NetServer は、X/Open Company の業界標準の Server Message Block (SMB) プロトコルを使用して使用可能になる、Windows オペレーティング・システムに組み込まれたファイルおよび印刷共用機能を利用します。

### i5/OS NetServer を使用するために PC を構成する前提条件

i5/OS NetServer を使用するために PC を構成するには、以下を満たしている必要があります。

- TCP/IP が System i プラットフォームと PC の両方で構成されている (10 ページの『i5/OS プラットフォーム上の TCP/IP の構成』および 15 ページの『PC への TCP/IP のセットアップ』を参照)。
- i5/OS NetServer が System i プラットフォーム上で構成されている (11 ページの『i5/OS 上の i5/OS NetServer の構成』を参照)。

### i5/OS NetServer クライアントとしての PC の構成

i5/OS NetServer サポートのために PC を構成する際には、使用しているオペレーティング・システムによって手順が変わります。以下のセクションのうち、使用しているオペレーティング・システムのセクションに進んでください。

#### Windows 2000 設定の検査:

1. Windows デスクトップで、「マイ ネットワーク」を右マウス・ボタンでクリックします。次に、「プロパティ」をクリックします。
2. 「ネットワーク ID」をクリックします。固有のコンピューター名と有効なドメイン (ワークグループ) 名が構成されていることを確認します (推奨は i5/OS NetServer と同じ名前)。このダイアログを閉じます。



3. 「ローカル・エリア接続」アイコンを右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」をクリックします。TCP/IP プロトコルが存在して正しく構成されていることを確認します。
4. 『TCP/IP サポートの検査』の手順に進みます。

#### Windows XP/Windows Server 2003 設定の検査:

1. Windows デスクトップで、「マイ ネットワーク」を右マウス・ボタンでクリックします。次に、「プロパティ」をクリックします。
2. 「ローカル・エリア接続」アイコンを右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」をクリックします。TCP/IP プロトコルが存在して正しく構成されていることを確認します。
3. 『TCP/IP サポートの検査』の手順に進みます。

#### TCP/IP サポートの検査:

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. PC クライアントから i5/OS NetServer への接続を検査する方法は 2 つあります。次のように入力して、PC が i5/OS NetServer と通信できるかどうか確認します。

```
NBTSTAT -a i5/OS-NetServer-server-name
```

NBTSTAT コマンドが失敗する場合は、次のコマンドによって IP アドレスの解決ストラテジーが正しいかどうかを確認します。

```
PING i5/OS-NetServer-server-name
```

3. 結果が失敗である場合は、i5/OS NetServer の項目を PC のローカル LMHOSTS ファイルに追加します。以下の手順を実行します。
  - a. %WINDOVS%system32\drivers\etc ディレクトリーを見て、LMHOSTS ファイルの有無を調べます。

#### 注:

- ご使用のオペレーティング・システムによっては、ディレクトリーは %WINDOVS%system32 ではなくて %WINNT%system32 の場合もあります。
- 指定されたディレクトリーに LMHOSTS ファイルがなかった場合には、2 通りのオプションがあります。
  - 新しい LMHOSTS ファイルを作成します。
  - その同じディレクトリーにある LMHOSTS.SAM をコピーするか、LMHOSTS に名前変更します。

完全な手順については LMHOSTS.SAM ファイルに記載されています。

- b. 次のコマンドを実行して、更新された LMHOSTS ファイルから PC キャッシュを再ロードします。

```
NBTSTAT -R
```
4. 以下のいずれかを実行します。
    - Windows 2000 を使用している場合は、『Windows 2000 から i5/OS NetServer および共有リソースを検出』に進みます。
    - Windows XP を使用している場合は、20 ページの『Windows XP/Windows Server 2003 から i5/OS NetServer および共有リソースを検出』に進みます。

#### Windows 2000 から i5/OS NetServer および共有リソースを検出:

1. Windows デスクトップで、「マイ ネットワーク」を右マウス・ボタンでクリックします。
2. 「コンピュータの検索」を選択します。
3. NetServer 名を入力し、「検索開始」をクリックします。

## Windows XP/Windows Server 2003 から i5/OS NetServer および共有リソースを検出:

1. Windows デスクトップで、「マイ ネットワーク」を右マウス・ボタンでクリックします。
2. 「コンピュータの検索」を選択します。
3. NetServer 名を入力し、「検索」をクリックします。

## i5/OS NetServer ファイルおよび印刷共有の構成:

i5/OS NetServer のファイルおよび印刷共有機能を構成する場合は、以下の説明を参照してください。

- i5/OS NetServer ファイル共有
- i5/OS NetServer 印刷共有
- 

追加の構成に関する説明は、『i5/OS NetServer 始めに』に記載されています。

## インストールの注意点

System i Access for Windows をご使用のコンピューターにインストールする前に、以下の情報を考慮してください。

**重要:** System i Access for Windows をインストールする前に、すべてのアプリケーションを終了することをお勧めします。これには、バックグラウンドで実行されていることがあるアプリケーション (例えば、スワイウェア、アドウェア、アンチウィルス、その他のマルウェア検出プログラムなど) が含まれます。


- このインストールを実行するための管理権限および特権が必要です。
- 新規リリースのインストールを行えるのは、機密保護管理者権限を持つユーザーのみです。Windows のスケジュールされたタスク機能をリモート・アクセスで使用すると、ユーザーは管理者特権なしで、インストールを行うことができます。
- System i Access for Windows は、マシンごとのインストールのみをサポートします。ユーザーごとのインストールはサポートしません。
- System i Access for Windows は、Windows Installer アドバタイズメント機能をサポートしません。
- デフォルトの宛先フォルダーを使用することをお勧めします。ただし、このフォルダーを変更する場合は、以下を考慮してください。
  - ドライブのルート・ディレクトリーを選択することは望ましくありません。
  - System i Access for Windows 製品に関連していないファイルが既に入っているディレクトリーを選択することは望ましくありません。
  - ネットワーク・ドライブを選択してはなりません。ネットワーク・ドライブへのインストールはサポートされていません。
- setup.exe または cwblaunch.exe を使用してこの製品をインストールする必要があります。ただし、cwbininstall.msi を使用してインストールすることを選択した場合は、Windows Installer エンジン 3.0 を手動でインストールする必要があり、非デフォルト・インストール言語を選択することができず、さらにロギングが自動的に開始されないことを知っておいてください。
- AFP™ および SCS プリンター・ドライバ・フィーチャーは、手動でインストールする必要があります。詳しくは、22 ページの『プリンター・ドライバのインストール』のトピックを参照してください。
- System i Access for Windows は、ODBC、OLE DB、および Secure Sockets Layer (SSL) のフィーチャーの 64 ビット版をサポートします。64 ビット版は別個のフィーチャーとしては表示されませんが、

Windows の 64 ビット版にインストールされる際にこれらのフィーチャーの 32 ビット版とともにそのまま組み込まれます。32 ビット版をアンインストールすると、64 ビット版も同時にアンインストールされます。

- System i Access for Windows は、32 ビット版と 64 ビット版の AFP プリンター・ドライバーをサポートしますが、32 ビット版の AFP プリンター・ドライバーを 64 ビット版の Windows にインストールすることはできません。64 ビット版の AFP プリンター・ドライバーをインストールできるのは、64 ビット IA64 (Itanium ファミリー) 版の Windows に限られます。

- SCS プリンター・ドライバーは、64 ビット版の Windows にはインストールできません。

- System i Access for Windows .NET プロバイダーは、32 ビットと 64 ビットの両方のアプリケーションから呼び出すことができます。このプロバイダーが実行されるモードは、このプロバイダーを呼び出すアプリケーションに応じて決まります。

- .NET 管理対象プロバイダーのインストールより前に、.NET Framework 2.0 がまず PC 上になければなりません。.NET Framework のダウンロードとインストールについては、[www.msdn.com](http://www.msdn.com)  を参照してください。


- Toolbox for Java™ がインストールされていない場合は、IBM 鍵管理ショートカットを開くことができません。これは、このショートカットでは JRE をインストールする必要があるためです。IBM 鍵管理ショートカットは、SSL の一部です。ユーザーが最小構成を希望するが、ただし SSL は必要とする場合は、ユーザーは JRE のインストールを希望することはありません。これは、JRE は大量のスペースを占有するからです。IBM 鍵管理ショートカットを使用できない場合、またはこのショートカットが欠落している場合は、SSL を除去してから、Toolbox for Java と SSL の両方をインストールしてください。


- System i ナビゲーターのフィーチャーおよび Java Programmer's Tools は、Itanium ハードウェアではインストールまたはサポートされません。

- System i Access for Windows では、MDAC がインストールされません。しかし、System i Access ODBC ドライバーおよび System i Access for Windows OLE DB プロバイダーには、PC 上の MDAC レベルに関して特定の要件がいくつかあることに注意してください。System i Access for Windows のこのリリースによってサポートされる Windows オペレーティング・システムには、既に必須 MDAC レベルが入っています。

必須 MDAC レベル :

- System i Access ODBC ドライバー - MDAC 2.5 以降 (接続プーリングおよび MTS サポート用)
- System i Access OLE DB プロバイダー - MDAC 2.5 (全機能用)

- System i Access for Windows を、Microsoft Windows Terminal Server Edition または Terminal Services を実行している PC 上にインストールするには、APAR III1373 情報にあるインストールの指示に従ってください。APAR の入手については、「Information APARs」  を参照してください。

- System i Access for Windows のインストール時またはアンインストール時に問題が生じるというまれなケースでは、通常のインストールまたはアンインストールの方法を使用しても製品の修復または除去を行うことができない場合もあります。Microsoft では、このような状態に対応するクリーンアップ・ツールを用意しています。このツールについては、Windows Installer CleanUp ユーティリティについて  で説明されています。

このツールは、System i Access for Windows を用いてインストールされたファイルはいずれも除去しません。除去するのは、該当のプログラムに関連する Windows Installer 構成情報のみです。クリーンアップ・ユーティリティの実行後に、再度インストールを行うことができますが、ファイルの重複コピーを防ぐために、前と同じ場所にインストールする必要があります。

## 関連概念

『プリンター・ドライバーのインストール』

プリンター・ドライバーをインストールする場合は、プリンター・ドライバーを使用する前に処置を講じる必要があります。これは、プリンター・ドライバーが Microsoft によってデジタル署名されず、インストール時に自動的に追加または更新できないためです。

58 ページの『System i Access for Windows の PC へのインストール』

このトピックの情報は、PC に System i Access for Windows をインストールする手順を確認する場合に使用します。

### プリンター・ドライバーのインストール:

プリンター・ドライバーをインストールする場合は、プリンター・ドライバーを使用する前に処置を講じる必要があります。これは、プリンター・ドライバーが Microsoft によってデジタル署名されず、インストール時に自動的に追加または更新できないためです。

プリンター・ドライバー・ファイルは、インストール・ウィザードの実行時に選択される宛先パスの下のサブディレクトリーにコピーされます。そのため、それぞれのヘルプ・テキストにある Microsoft の指示に従って、プリンター・ドライバーを追加または更新する必要があります。プロンプトが出されたら、プリンター・ドライバー用に、以下のいずれかのディレクトリーの場所 (デフォルトの宛先パスにインストールしたと仮定) を指定してください。

• AFP の場合: c:\Program Files\IBM\Client Access\CWBAFP ディレクトリー

• SCS の場合: c:\Program Files\IBM\Client Access\CWBSCS ディレクトリー

64 ビットの Windows オペレーティング・システムでは、AFP プリンター・ドライバーのみがインストール可能です。

System i Access for Windows 製品を複数回のリリースにわたってアップグレードした PC 上にインストールする場合は、プリンター・ドライバーの構成時にいくつかの古い情報が表示されることがあります。古くなった情報を .inf ファイルから除去するには、インストールの完了後に以下を実行します。

1. コマンド・プロンプト・ウィンドウを開く。
2. ディレクトリーをインストール・ディレクトリーに変更する。デフォルトのインストール・ディレクトリーは c:\Program Files\IBM\Client Access です。
3. cwbrminf と入力して、「Enter」を押す。

### SSL に関する考慮事項

System i Access for Windows をご使用のコンピューターにインストールする前に、以下の情報を考慮してください。

多くのカスタマー (例えば、銀行や病院など) が新しいセキュリティー・ポリシーの設定を行う場合、カスタマーは、クライアント PC にインストールしようとする追加のコンポーネントの数を何度も減らしています。現在、カスタマーが、リモート・ロケーションからのポート 23 をブロックし、ポート 992 (PC5250 SSL 接続ポート) のみを許可する選択をした場合は、カスタマーは認証局 (CA) を、System i ナビゲーターによってダウンロードするのではなく、代替方法を使用して System i システムからインストールする必要があります。これを行うためには、カスタマーが IBM 鍵管理ユーティリティーを使用する必要があります。

IBM 鍵管理により、Secure Sockets Layer (SSL) 接続と併用するための鍵データベースを処理することができます。これにより、System i システムから PC に証明書を登録することができます。すべての機能を使用可能にするために、このツールでは以下のコンポーネントがインストールされていなければなりません。

- | • 必須プログラム
- | • SSL
- | • Toolbox for Java

| 最小限必要なコンポーネントのインストールに失敗すると、IBM 鍵管理の障害が生じます。 PC で IBM 鍵管理の証明書の登録および管理をする予定がない場合には、Toolbox for Java をインストールする必要はありません。

| 例えば、SSL 接続で PC5250 エミュレーターを使用し、IBM 鍵管理の証明書の登録および管理を行うためには、少なくとも次の System i Access for Windows のコンポーネントをインストールしなければなりません。

- | • 必須プログラム
- | • PC5250 エミュレーター
- | • SSL
- | • Toolbox for Java

#### | 関連概念

| 58 ページの『System i Access for Windows の PC へのインストール』  
 | このトピックの情報は、PC に System i Access for Windows をインストールする手順を確認する場合  
 | に使用します。

### | インストール・イメージを複数の PC にインストールするための準備

| この製品のインストール方法および各ユーザーの PC にインストールされるものを制御するために、インストール・イメージを調整することができます。

| インストール・イメージを提供するいくつかの方法があります。列挙されているいずれかの配置方法を使用したインストール・イメージの配置の説明については、該当のリンクに従ってください。

| 表 5. 配置の方法

従うプロセス	該当する配置方法
PTF を System i Access for Windows に適用し、各ユーザーがこのロケーションから更新情報を受け取ります。 インストール時に各ユーザーが System i ナビゲーターのプラグインをインストールできるようにする必要があります。	NetServer からの配置 注: 列挙されているいずれかのプロセスに従う場合は、NetServer からインストール・イメージを配置します。
インストール・イメージを、エンド・ユーザーが System i Access for Windows のインストール元に行うことができるネットワーク共有にコピーします。	ネットワーク・ドライブからの配置
Group Policy Software Installation 機能を使用した Active Directory 環境での配置	Group Policy を使用した Active Directory 上での配置
Microsoft の System Management Server の使用 各ユーザーに事前定義パラメーターを指定した setup.exe を実行させる必要があります。	SMS を使用した配置 バッチ・プログラムの使用
いくつかの組織的基準に応じて、さまざまなトランスフォームをさまざまなユーザーに適用する予定があります。	

表 5. 配置の方法 (続き)

従うプロセス	該当する配置方法
別の配置ツールの使用	<p>その他の配置方法: サード・パーティー・ベンダーによって開発された使用可能な配置システムがいくつかあります。</p> <p>これらのシステムのいずれかを使用する場合は、独立系ソフトウェア・ベンダーによって提供される資料を参照してください。</p>

いずれの配置方法についても、管理インストール・イメージを作成することができます。管理インストール・イメージにより、フル・イメージ・サービス・パックではなく、Windows Installer パッチを適用することができます。

### 関連情報

管理インストール・イメージ

管理ソース・イメージを作成するために System i Access for Windows の管理インストールを実行することができます。このイメージを各ユーザーがアプリケーションをインストールする元のネットワーク上に配置するか、またはデプロイメント・システムを使用する場合はこのイメージを配布パッケージのソースにすることができます。

### i5/OS NetServer からの配置:

PTF を System i Access for Windows に適用し、各ユーザーがこのロケーションから更新情報を受け取る場合は、i5/OS NetServer から System i Access for Windows インストール・イメージを配置することができます。インストール時に各ユーザーが System i ナビゲーターのプラグインをインストールできるようにしたい場合は、i5/OS NetServer を使用することもできます。各ユーザーが必要な機能のみをインストールできるように、インストール・パッケージを変更するためのトランスフォームを作成することができます。

**前提条件:** 下記の手順を実行する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- System i Access for Windows が、i5/OS 上にインストール済みおよび構成済みでなければなりません。インストールおよび構成がまだ済んでいない場合、System i Access for Windows の i5/OS へのインストールの手順を実行してください。
- i5/OS NetServer が、i5/OS 上に構成済みでなければなりません。構成がまだ済んでいない場合、i5/OS 上の i5/OS NetServer の構成の手順を実行してください。
- ご使用の PC が i5/OS NetServer を使用するよう構成されている必要があります。構成がまだ済んでいない場合、i5/OS NetServer を使用するための PC の構成の手順を実行してください。

1. 調整すべきインストール・イメージを検出します。
2. オプション: インストールのデフォルトの動作を変更するためにインストール・イメージを調整します。
3. 以下の手順を使用して System i Access for Windows をインストールするように各ユーザーに指示します。これらの手順は、オペレーティング・システムによって異なることがあります。
  - a. Windows デスクトップで、「マイ ネットワーク」を右クリックしてから、「コンピュータの検索」をクリックします。
  - b. System i Access for Windows のインストールに使用する i5/OS NetServer の名前を入力し、「検索」をクリックします。

注: 各ユーザーが名前で i5/OS NetServer を検出できない場合は、代わりに IP アドレスを入力する必要があります。

- c. コンピューター名が表示されたら、ダブルクリックします。Windows Explorer が始動します。
- d. 「QIBM」 → 「ProdData」 → 「Access」 → 「Windows」の順に進み、**cwblaunch.exe** をダブルクリックして、セットアップ・プログラムを開始します。プログラムは、PC プロセッサに基づいて、使用する適切なソース・イメージを決定します。
- e. System i Access for Windows インストール・ウィザードが開始されます。ウィザードの指示に従います。

注: System i Access for Windows を初めてインストールする場合は、サービス・レベルの検査機能が、最初のインストールが行われたドライブおよびディレクトリーから、新規サービス・パックと新規リリースを自動的に受け取ります。サービス・パックまたは新規リリースを別の場所に保管する予定の場合は、インストールの完了後に、新しいソースの場所を設定するために「System i Access for Windows のプロパティー」の「サービス」ページを使用するように各ユーザーに指示します。

### 管理インストール・イメージ:

管理ソース・イメージを作成するために System i Access for Windows の管理インストールを実行することができます。このイメージを各ユーザーがアプリケーションをインストールする元のネットワーク上に配置するか、またはデプロイメント・システムを使用する場合はこのイメージを配布パッケージのソースにすることができます。

管理インストールでは、ターゲット・コンピューター上にはアプリケーションが実際にはインストールされません。すなわち、ソース・ファイルがキャビネット・ファイルからネットワーク・ロケーションまで広がるだけです。結果のイメージは管理イメージと呼ばれます。管理イメージは、生成に使用した元の圧縮イメージと機能的には同じです。

Windows Installer パッチを管理イメージに適用することにより、管理イメージを最新のサービス・レベルにアップグレードすることができます。したがって、フル・イメージ・サービス・パックを入手する必要はなくなります。次に、サービス・パックの更新を入手するために、アップグレードされた管理イメージからの再インストールを行うように各ユーザーに指示することができます。あるいは、ソフトウェア・デプロイメント方式を使用する場合は、インストール・パッケージを再配置することができます。アップグレードされた管理イメージからのすべての新規クライアント・インストールには、System i Access for Windows の更新済みバージョンも自動的に含まれます。

注: 管理インストールでは、Run from source (ソースからの実行) と呼ばれるフィーチャーが提供されます。このフィーチャーにより、クライアント・ユーザーは管理イメージから直接、各フィーチャーを実行することができます。System i Access for Windows は、Windows Installer の Run from source フィーチャーをサポートしません。

### 関連タスク

33 ページの『Group Policy を使用した Active Directory 上での配置』

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。Windows Installer パッケージを配置するには、Group Policy オブジェクト (GPO) を作成し、それを特定のドメイン、サイト、または組織単位と関連付けます。次に、インストール・パッケージが GPO 内で作成されます。このパッケージを、GPO のリンク先のコンテナの各メンバーに配布してください。

### 管理インストール・イメージの作成:

ネットワーク・ドライブ、Active Directory、または SMS からインストール・パッケージを配置するための管理イメージを作成することができます。

System i Access for Windows の管理ソース・イメージを作成するには、以下のステップに従います。

1. コマンド・プロンプトで、`setup.exe /a` を実行して、管理インストールを開始します。
2. 「Network Location (ネットワーク・ロケーション)」ダイアログで、管理イメージ用の宛先ネットワーク・ディレクトリーを選択します。このディレクトリーに、各ユーザーのインストール・ソースとして使用するための正しいアクセス許可が付与されていることを確認してください。このディレクトリーは、NetServer ロケーションまたはネットワーク・ドライブ・ロケーションのいずれでも構いません。
3. 「インストール」をクリックします。

管理ソース・イメージは、ネットワーク・ロケーションの下で作成されます。

#### 管理インストール・イメージへのパッチの適用:

ダウンロード・サイトからパッチを適用して、管理イメージを更新することができます。各ユーザーは、更新済み管理イメージから System i Access for Windows を再インストールするときに、最新の更新情報を取得します。このロケーションからの新規インストールには、最新のサービス修正も含まれます。

管理ソース・イメージにパッチを適用するには、以下のステップに従います。

**注:** DVD からコピーされたソース・イメージにパッチを適用することはできません。管理インストール・イメージを作成する必要があります。

1. System i Access for Windows Service Packs ページ (<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/access/casp.html>) から該当する Update.exe ファイルをダウンロードします。
2. Update.exe ファイルを管理イメージ・ルート・ディレクトリーにコピーします。
3. `Update /v"/a cwbininstall.msi"` コマンドを実行します。

`cwbininstall.msi` が Update.exe と異なるロケーションにある場合は、パスを `cwbininstall.msi` に渡す必要があります (例: `Update /v"/a path_to_cwbininstall¥cwbininstall.msi"`)。

パスにスペースが含まれている場合は、次の例のように、引用符を使用します。内側の引用符は、円記号 (¥) を使用してエスケープさせる必要があることに注意してください (例: `Update /v"/a ¥"C:¥Admin Image¥cwbininstall.msi¥"`)。

#### ネットワーク・ドライブからの配置:

各ユーザーがアクセスできるネットワーク・ドライブ上のインストール・パッケージをセットアップすることができます。

**注:**

1. Windows ネットワーク・ドライブからのインストール時には、各ユーザーは i5/OS から System i ナビゲーターのプラグインをインストールすることはできません。

各ユーザーは、System i ナビゲーター環境タスクの「プラグインのインストール」を使用して、インストール後に System i ナビゲーターのプラグインをインストールすることができます。

2. System i Access for Windows を初めてインストールする場合は、サービス・レベルの検査機能が、最初のインストールが行われたドライブおよびディレクトリーから、新規サービス・パックと新規リリースを自動的に受け取ります。サービス・パックまたは新規リリースを別の場所に保管する予



定の場合、またはサービス・パックおよびリリースの自動アップグレード用にインストール・ソースを変更する場合は、インストールの完了後に、「System i Access for Windows のプロパティ」の「サービス」ページを使用します。

各ユーザーにネットワーク・ドライブからの配置をさせるには、以下の手順を実行します。

1. 調整すべきインストール・イメージを検出します。
2. インストール・イメージをネットワーク上の配置ロケーションにコピーします。
3. 各ユーザーにどの言語のインストールを許可するかを決定し、該当の MRI29xx ディレクトリーのみを配置ロケーションにコピーします。使用可能な各国語のリストおよび対応する MRI29xx コードについては、表 6を参照してください。
4. オプション: インストールのデフォルトの動作を変更するためにインストール・イメージを調整します。
5. 以下の手順を使用して System i Access for Windows をインストールするように各ユーザーに指示します。
  - a. ドライブを、インストール・イメージのある位置にマップします。
  - b. `setup.exe` をダブルクリックしてセットアップ・プログラムを開始するか、またはコマンド・プロンプトから `setup` を入力します。各ユーザーは、1 つ以上のトランスフォームをインストールに適用する必要がある場合は、コマンド行から TRANSFORMS プロパティを指定する必要があります (例: `setup /vTRANSFORMS=transform1.mst,transform2.mst,...`)。ここで、`transform1.mst`、`transform2.mst` などは、適用するトランスフォームです。

表 6. 各国語に対応する MRI29xx コード

言語コード	各国語
2902	エストニア語
2903	リトアニア語
2904	ラトビア語
2905	ベトナム語
2906	ラオ語
2909	ベルギー英語
2911	スロベニア語
2912	クロアチア語
2913	マケドニア語
2914	セルビア語
2922	ポルトガル語
2923	オランダ語
2924	英語
2925	フィンランド語
2926	デンマーク語
2928	フランス語
2929	ドイツ語
2930	日本語
2931	スペイン語
2932	イタリア語
2933	ノルウェー語

表 6. 各国語に対応する MRI29xx コード (続き)

言語コード	各国語
2937	スウェーデン語
2938	英語大文字 DBCS
2939	ドイツ語各国間共通文字セット
2940	フランス語各国間共通文字セット
2942	イタリア語各国間共通文字セット
2954	アラビア語
2956	トルコ語
2957	ギリシャ語
2958	アイスランド語
2961	ヘブライ語
2962	日本語漢字
2963	ベルギー・オランダ語
2966	ベルギー・フランス語
2972	タイ語
2974	ブルガリア語
2975	チェコ語
2976	ハンガリー語
2978	ポーランド語
2979	ロシア語
2980	ブラジル・ポルトガル語
2981	カナダ・フランス語
2984	英語 DBCS
2986	韓国語
2987	中国語 (繁体字)
2989	中国語 (簡体字)
2992	ルーマニア語
2994	スロバキア語
2995	アルバニア語
2996	ポルトガル語各国間共通文字セット
2998	ベルシア語

**バッチ・プログラムの使用:**

事前定義パラメーターを使用して `setup.exe` を実行するためのバッチ (.bat) ファイルを作成して、インストール・プロセスを自動化することができます。この場合は、ユーザーはコマンド・プロンプトでオプションを指定する必要はありません。

.bat ファイルには、『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』のトピックにリストされている `setup.exe` 用のいずれかの有効なパラメーターを組み込むことができます。

いくつかの組織的基準に応じて、さまざまなトランスフォームをさまざまなユーザーに適用する予定がある場合は、.bat ファイルの使用を検討してください。TRANSFORMS 共通プロパティを設定してコマンド

行でトランスフォームを指定しなければならないため、各ユーザーは正確なパラメーターを入力する必要があります。お客様は各ユーザーが正しい選択項目を入力したことを信頼する必要があります。代替方法は、`setup.ini` のコマンド行オプションを設定することです。ただし、この場合の欠点は、同じソース・イメージから実行しているすべてのクライアントに同じトランスフォーム・セットが適用されることです。個別の `.bat` ファイルを作成して、さまざまな設定値を定義し、各ユーザーに適切な `.bat` ファイルを実行させることができます。

#### 関連概念

61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』  
ユーザーは、`setup.exe` コマンドのコマンド行パラメーターを使用してインストールされるフィーチャーをインストール、アップグレード、または変更することができます。

#### リモートでスケジュールされたタスクの使用:

Windows オペレーティング・システムのスケジュールされたタスク機能をリモート・アクセスで使用する  
と、ユーザーは管理者特権なしで、System i Access for Windows のインストールおよびアップグレード、  
ならびにサービス・パックのインストールを行うことができます。

通常、管理者としてサインオンする場合は、Windows オペレーティング・システムに組み込まれている制限のために、System i Access for Windows のインストールおよびサービス・パックの適用のみを行うことができます。ネットワーク管理者は、ローカル・コンピューターにスケジュールされたタスクを作成し、そのタスクをリモート・コンピューターのアカウントにコピーして、保守用にタスク・ファイルを作成し、それを必要に応じてユーザーのコンピューターに追加できます。このタスクは、リモート・コンピューターの既存の管理者アカウントのもとで実行します。この場合、サインオンの必要はありません。タスク・ファイルを E メール・メッセージで送受信し、ご使用のコンピューター上で「スケジュールされたタスク」フォルダーを共有できます。そうすることによって、ユーザーは「マイ ネットワーク」を使用して、リモートからそのフォルダーにアクセスできるようになります。

**重要:** リモートでスケジュールされたタスクを確実に実行して System i Access for Windows のインストールまたはアップグレードを行うためには、ご使用のローカル・コンピューター (スケジュールされたタスクが作成される場所)、リモート・コンピューター (スケジュールされたタスクの宛先)、およびソース・インストール・イメージがある System i またはネットワーク・サーバー上に、同じ名前と同じパスワードの管理者アカウントがなければなりません。

次の説明は、Windows XP の「スケジュールされたタスク」機能に基づいています。

System i Access for Windows をインストールするためにスケジュールされたタスクを作成するには、次のようにします。

1. 「スタート」メニューを開き、「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「スケジュールされたタスク」をダブルクリックします。
3. 「Add Scheduled Task (スケジュールされたタスクの追加)」をダブルクリックします。これにより、Scheduled Task Wizard (スケジュールされたタスクのウィザード) が開始されます。「次へ」をクリックして先に進みます。
4. アプリケーション選択ダイアログで、「参照」をクリックします。
5. 「ファイル名」フィールドで、`cwblaunch.exe`、`setup.exe`、または `Update.exe` への絶対パスを入力します。
  - a. リモート・コンピューターのプロセッサのタイプに基づいて適切なソース・イメージが自動的に決定されるようにしたい場合には、`cwblaunch.exe` を指定します。

- b. リモート・コンピューターのプロセッサのタイプがわかっている場合、またはタスクが複数のコンピューター間で配布されることになっていてすべてのターゲット・コンピューターに同じタイプのプロセッサがある場合には、`setup.exe` を指定します。
- c. このタスクを使用してリモート・コンピューターにパッチをインストールする計画がある場合は、`Update.exe` を指定します。

ソース・インストール・イメージがある場所に応じて、次のいずれかを入力します。

- a. ソース・インストール・イメージが System i またはネットワーク・サーバーにある場合は、次の例のように、ソース・ディレクトリーへの UNC パスを入力します。

```
¥¥systeminame¥QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥cwblaunch.exe
```

```
¥¥servername¥image32¥setup.exe
```

- b. ソース・インストール・イメージがリモート・コンピューターのハード・ディスク上で使用可能である場合には、リモート・コンピューター上のソース・ディレクトリーへのパスを入力します。例えば、インストール・イメージのコピーがリモート・コンピューターの `C:¥image` で使用可能な場合には、`C:¥image¥setup.exe` と入力します。

**注:** メッセージ「パスが存在しない (Path does not exist)」が表示された場合は、指定したパスがスケジュールされたタスクを作成しているローカル・コンピューター上で見つからなかったということです。この問題を解決するには、ご使用のローカル・コンピューターへのインストール・イメージを、リモート・コンピューターのパスに一致するディレクトリーにコピーしてください。例えば、リモート・コンピューターのイメージが `C:¥image` にある場合は、ローカル・コンピューターのインストール・イメージを `C:¥image` にコピーします。このスケジュールされたタスクを複数のコンピューター間で配布する計画がある場合は、すべてのコンピューターにインストール・イメージのコピーが同じパスで存在していることを確認してください。

- 6. 「開く」をクリックして先に進みます。
- 7. 次のダイアログで、タスクの名前を選択します。例えば、「System i Access for Windows のインストール (Install System i Access for Windows)」です。
- 8. 「**Perform this task (このタスクの実行)**」の下でスケジューリング・オプションを選択します。

**ヒント:** System i Access for Windows の初回のインストール、アップグレード、および除去を行う場合は、「**One time only (一回限り)**」を選択することをお勧めします。タスクでサービス・パックをインストールしようとする場合は、「**Monthly (毎月)**」を選択することをお勧めします。

- 9. 「次へ」をクリックして先に進みます。
- 10. タスクの開始日時を指定します。「次へ」をクリックして先に進みます。
- 11. ユーザー名とパスワードを入力します。ユーザー名が管理者グループのメンバーであること、および同じユーザー名がリモート・コンピューター上に存在していることを確認します。
- 12. 「次へ」をクリックして、スケジュールされたタスクを作成します。
- 13. ウィザードの最後のダイアログで、「**Open advanced properties for this task when I click Finish (「終了」のクリック時にこのタスクの拡張プロパティーを開く)**」オプションにチェック・マークを付けて、「終了」をクリックします。新規タスク用の「プロパティー」ウィンドウが表示されます。
- 14. 「タスク」タブの「テキスト実行」ボックスで、以下のパラメーターを付加します。
  - a. `/s /v/qn` と入力して、インストーラーをサイレント・モードで起動します。

- l b. オプション: インストールの終了後にリモート・コンピューターがリブートされないようにしたい場合は、REBOOT=S を入力します。そうでない場合は、インストールがサイレント・モードで実行された後、リモート・コンピューターが通知なしに再始動します。
- l c. オプション: setup.exe によってサポートされている追加のパラメーターを入力します。例えば、このタスクでリモート・コンピューターの System i Access for Windows をアンインストールする場合は、REMOVE=ALL を入力してください。
- l d. オプション: 「プロパティ」ウィンドウの残りの設定を確認します。  
「テキスト実行」ボックスは、次の例のようになります。  
¥¥systeminame¥QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥cwb1launch.exe /s /v/qn ADDLOCAL=req,emu
- l 15. 「OK」をクリックして、スケジュールされたタスクの構成を終了します。プロンプトが出されたら、パスワードを入力します。

l タスクが作成された後には、リモート・コンピューターの「スケジュールされたタスク」フォルダーにアクセスしてスケジュールされたタスクをコピーする必要があります。

l リモート・コンピューターの「スケジュールされたタスク」フォルダーにアクセスするには、次のようにします。

- l 1. 「スタート」メニューを開き、「マイ コンピュータ」をクリックします。
- l 2. 「その他」セクションの下で、「マイ ネットワーク」をクリックします。
- l 3. リモート・コンピューターがワークグループ内にあるかドメイン内にあるかによって次のいずれかを選択します。
  - l a. リモート・コンピューターがワークグループ内にある場合は、以下のステップに従います。
    - l 1) 「ネットワーク タスク」セクションから「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします。
    - l 2) アクセスしたいリモート・コンピューターをダブルクリックします。
  - l b. リモート・コンピューターがドメイン内にある場合は、以下のステップに従います。
    - l 1) 「Entire Network (ネットワーク全体)」をクリックしてから、「Microsoft Windows Network (Microsoft Windows ネットワーク)」をダブルクリックします。
    - l 2) ドメインをダブルクリックします。
    - l 3) アクセスしたいリモート・コンピューターをダブルクリックします。

l 注: リモート・コンピューターにアクセスするためにユーザー名の入力を求めるプロンプトが出された場合には、現在のログインに使用したアカウントと同じユーザー名およびパスワードを使用してください。

- l 4. 「スケジュールされたタスク」をダブルクリックして、フォルダーを開きます。

l スケジュールされたタスクをご使用のローカル・コンピューターからリモート・コンピューターにコピーするには、次のようにします。

- l 1. ご使用のローカル・コンピューター上で「スケジュールされたタスク」フォルダーを開きます。

l ヒント: 「スケジュールされたタスク」フォルダーは、システム・ディレクトリーの下の「タスク」と呼ばれるディレクトリーであり、通常は C:¥Windows です。

- l 2. コピーするスケジュールされたタスクを右クリックして、「コピー」をクリックします。
- l 3. リモートの「スケジュールされたタスク」フォルダーを右クリックし、「貼り付け」を選択します。

4. リモートでスケジュールされたタスクのアカウント情報を調整する必要がある場合があります。その場合には、次の手順に従います。
  - a. リモート・コンピューターのスケジュールされたタスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
  - b. 「**Run as (名前を指定して実行)**」で、ご使用のローカル・コンピューターの名前ではなくリモート・コンピューターの名前が設定されていることを確認します。例えば、リモート・コンピューターの名前が PC01 で、使用されている管理者アカウントが Admin である場合は、「Run as (名前を指定して実行)」は PC01¥Admin に設定する必要があります。
  - c. 「**OK**」をクリックします。プロンプトが出されたら、リモート・アカウントのパスワードを入力します。このパスワードはご使用のローカル・アカウントと同じでなければなりません。

タスクは、リモート・コンピューターで、スケジュールされた日時に実行されます。

リモートでスケジュールされたタスクをただちに実行するには、次のようにします。

1. リモートの「スケジュールされたタスク」フォルダーを開きます。
2. タスクを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**実行**」を選択します。

リモートでスケジュールされたタスクを削除するには、次のようにします。

1. リモートの「スケジュールされたタスク」フォルダーを開きます。
2. タスクを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**削除**」を選択します。

#### 注:

1. リモートでスケジュールされたタスクは、PC の管理者アカウントの下で実行されます。スケジュールされたタスクを作動させるには、System i プラットフォーム上に同じ管理者ユーザー ID とパスワードが存在していなければなりません。PC か System i プラットフォームのいずれかでパスワードが変更になった場合は、すべてのスケジュールされたタスクを編集または削除して、新しい管理者パスワードで再作成する必要があります。
2. システム上に管理者アカウントが存在しない場合は、NetServer のゲスト・ユーザー・プロファイルを使用して、管理者アカウントの代わりに、PC から行われるすべてのインストール要求をサポートできます。ゲスト・ユーザー・プロファイルは、セキュリティ上のリスクを引き起こすことがあります。ゲスト・ユーザー・プロファイルの作成については、『i5/OS NetServer のゲスト・ユーザー・プロファイルの設定』を参照してください。

#### 関連概念

64 ページの『サービス・パックを複数の PC にインストールするための準備』  
最新の PTF およびサービス・パックを確実にインストールすることによって、既に修正が適用された問題について不必要にサービスに連絡することを避け、System i Access for Windows クライアントに、より安定した稼働環境を作ることができます。

9 ページの『PTF の入手およびインストール』  
ご使用のシステムに対して最新の PTF とサービス・パックを入手すれば、サービスに不要な連絡をすることなく、より安定した稼働環境を作ることができます。

#### Active Directory:

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。一群のユーザーまたはコンピューター用のパッケージを作成してから、そのパッケージをグループ・メンバーに配布することができます。

## Active Directory でのトランスフォームの適用

トランスフォームにより、お客様のニーズに合うようにインストール・パッケージを調整することができます。インストール・パッケージを配置するときに 1 つ以上のトランスフォームを適用することができます。組織単位ごとに個別の GPO を作成し、別のトランスフォーム・リストを選択する場合は、さまざまなトランスフォーム・セットを個々の組織単位に適用することができます。トランスフォームの詳細については、『インストール・パッケージの調整方法』を参照してください。

## Active Directory でのインストール・ロギング・レベルの定義

MSI パッケージを Active Directory 環境で配置するときに、コマンド行オプションを指定することはできません。ログ・ファイルをターゲット・コンピューター内に作成したい場合は、インストール・ロギングのレベルを指定するために Windows Installer Logging マシン・ポリシーを設定する必要があります。詳細ログを取得するには、このポリシーを `voicewarmup` に設定します。このポリシーの設定時に \* 文字を使用することはできません。詳細については、『Windows Installer ポリシーの使用』を参照してください。

System i Access for Windows をコンピューターに割り当てると、アプリケーションはシステム・アカウントの下でインストールされます。したがって、結果のログ・ファイルはシステム一時ディレクトリーに保管されます。デフォルトのシステム一時ディレクトリーは、Windows 2000 では `C:\$WINNT\Temp`、Windows XP および Windows Vista では `C:\$WINDOWS\Temp` です。

### 関連概念

39 ページの『インストール・パッケージを調整する方法』

インストールの動作をカスタマイズするさまざまな設定だけでなく、ユーザーがインストールできる System i Access for Windows のフィーチャーを制御することができます。この制御は、トランスフォームまたはコマンド行パラメーターを使用して行うことができます。

### 関連タスク

57 ページの『Windows Installer ポリシーの使用』

Windows Installer ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。

## Group Policy を使用した Active Directory 上での配置:

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。Windows Installer パッケージを配置するには、Group Policy オブジェクト (GPO) を作成し、それを特定のドメイン、サイト、または組織単位と関連付けます。次に、インストール・パッケージが GPO 内で作成されます。このパッケージを、GPO のリンク先のコンテナの各メンバーに配布してください。

**前提条件:** インストール・パッケージを Active Directory 上に配置する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認します。

- Active Directory 環境が構成済みである。
- クライアントのコンピューターに Microsoft Windows 2000 (SP3 以降の Service Pack 付き)、Windows XP Professional、または Windows Vista がインストール済みである。
- Windows Installer バージョン 3.0 以降が、クライアントのコンピューター上にインストール済みである。

Microsoft Windows XP Service Pack 2 がインストールされているコンピューターには、Windows Installer バージョン 3.0 が備わっています。

Microsoft Windows Vista がインストールされているコンピューターには、Windows Installer バージョン 4.0 が備わっています。

Windows Installer 3.0 再配布可能ファイルは、Microsoft Download center (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=5fbc5470-b259-4733-a914-a956122e08e8>) にリストされている Microsoft オペレーティング・システムに使用できます。

- Windows 2000 SP3
- Windows 2000 SP4
- Windows XP
- Windows XP SP1
- Windows Server 2003

#### 制約事項:

- System i Access for Windows は、コンピューターへの割り当てのみをサポートします。ユーザーへの公開および割り当てはサポートされていません。
- System i ナビゲーターのプラグインをインストールすることはできません。
- Group Policy を使用した配置を行う場合は、コマンド行パラメーターを設定することはできません。共通プロパティを設定する場合は、トランスフォームを使用してプロパティ・テーブルを変更する必要があります。Group Policy は MSI パッケージの配置のみをサポートするので、setup.ini を使用してコマンド行パラメーターを事前定義することはできません。

以下の手順を実行する前に、次のことに注意してください。

#### 注:

- xelinstlog.txt と呼ばれるインストール・ログ・ファイルが作成されます。
- Active Directory 上に配置する場合は、サイレント・インストールが常に使用されます。

**Group Policy を使用して System i Access for Windows をデプロイするには、以下の手順に従います。**

1. 調整すべきインストール・イメージ (複数の場合もある) を検出します。
2. インストールのデフォルトの動作を変更するためにインストール・イメージ (複数の場合もある) を調整します。
3. ネットワーク・サーバー上に System i Access for Windows の配布ポイントを作成します。これは、クライアント・コンピューター用のインストール・ソースになります。
  - a. ネットワーク・サーバーで、共有フォルダーを作成します。
  - b. System i Access for Windows のフル・イメージを共有フォルダーにコピーします。圧縮インストール・イメージまたは管理イメージをコピーすることができます。1 つ以上の MRI ディレクトリーが配布ポイントにコピーされることを確認します。
  - c. ターゲット・コンピューターがインストール・パッケージにアクセスできるように、すべてのユーザーに読み取り許可を付与します。
4. オプション: ご使用のドメイン・コントローラー内のドライブを、上記のステップで作成されたネットワーク共有にマップします。
5. インストール・パッケージを GPO 内のリモート・コンピューターに配置します。
  - a. System i Access for Windows の配置先のドメイン、サイト、または組織単位用に新規 GPO を作成するか、または既存の GPO を編集します。新規 GPO を作成するか、または既存の GPO を編集するには、以下のステップに従います。



- 1) ドメイン・コントローラーとして働くコンピューターで、「**Active Directory Users and Computers (Active Directory のユーザーおよびコンピューター)**」を開きます。「Active Directory Users and Computers (Active Directory のユーザーおよびコンピューター)」にアクセスするには、「スタート」メニューで、「プログラム」→「管理ツール」の順に選択します。
- 2) ターゲットのドメイン、サイト、または組織単位 (OU) を右クリックしてから、「プロパティ」をクリックします。
- 3) 「**Group Policy**」タブ付きページを開き、以下のいずれかを実行します。
  - 「新規」をクリックして、GPO を作成します。
  - リストから既存の GPO を選択し、「編集」をクリックします。Group Policy Object Editor が開きます。
- b. Group Policy Object Editor で、「**Computer Configuration (コンピューターの構成)**」→「**Software Settings (ソフトウェアの設定)**」→「**Software Installation (ソフトウェアのインストール)**」の順に進みます。
- c. 「**Software Installation (ソフトウェアのインストール)**」を右クリックし、「新規」→「パッケージ」の順に選択します。
- d. 「**Open (開く)**」ダイアログで、以下のいずれかの方法により、配布ポイントのロケーションに進みます。
  - UNC パス (例えば、`¥¥server_name¥folder_name`) を指定します。
  - 配布ポイントにマップされるドライブの文字 (例えば、X:) を指定します。`cwbininstall.msi` を選択します。
- e. 「Deploy Software (ソフトウェアのデプロイ)」で、「**Assigned (割り当て済み)**」を選択します。
- f. 「**Advanced published (拡張公開済み)**」または「**Assigned (割り当て済み)**」を選択します。
- g. オプション: 「**Modifications (変更)**」タブ付きページで、適用する 1 つ以上のトランスフォームを選択するために「**Add (追加)**」をクリックします。トランスフォーム・ファイルがリモート・コンピューターでアクセス可能なネットワーク・ドライブ上 (できれば、ソース・イメージがある配布ポイント上) にあることを確認します。

インストール・パッケージは、GPO に関連付けられているコンテナ内のコンピューターに配布されます。System i Access for Windows は、各クライアント PC の次の再始動時に自動的にインストールされます。

#### 関連概念

39 ページの『インストール・パッケージを調整する方法』

インストールの動作をカスタマイズするさまざまな設定だけでなく、ユーザーがインストールできる System i Access for Windows の機能を制御することができます。この制御は、トランスフォームまたはコマンド行パラメーターを使用して行うことができます。

25 ページの『管理インストール・イメージ』

管理ソース・イメージを作成するために System i Access for Windows の管理インストールを実行することができます。このイメージを各ユーザーがアプリケーションをインストールする元のネットワーク上に配置するか、またはデプロイメント・システムを使用する場合はこのイメージを配布パッケージのソースにすることができます。

#### 関連タスク

57 ページの『Windows Installer ポリシーの使用』

Windows Installer ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。

## Active Directory での Windows Installer ポリシーの設定:

Windows Installer システム・ポリシーを設定して、ドメインまたは組織単位のクライアント・コンピューター上で Windows Installer の動作を制御することができます。

Group Policy を使用して、Windows Installer システム・ポリシーを設定します。ポリシーは、管理テンプレート・ノードを使用して Group Policy Object (GPO) 内で構成されます。これらのポリシーについては、『Windows Installer ポリシーの使用』を参照してください。

Active Directory の Group Policy を使用して Windows Installer ポリシーを設定するには、以下の手順に従います。

1. System i Access for Windows の配置先のドメイン、サイト、または組織単位用に新規 GPO を作成するか、または既存の GPO を編集します。新規 GPO を作成するか、または既存の GPO を編集するには、以下のステップに従います。

a. ドメイン・コントローラーとして働くコンピューターで、「Active Directory Users and Computers (Active Directory のユーザーおよびコンピューター)」を開きます。「Active Directory Users and Computers (Active Directory のユーザーおよびコンピューター)」にアクセスするには、「スタート」メニューで、「プログラム」→「管理ツール」の順に選択します。

b. ターゲットのドメイン、サイト、または組織単位 (OU) を右クリックしてから、「プロパティ」をクリックします。

c. 「Group Policy」タブ付きページを開きます。以下のいずれかを実行します。

- GPO を作成するには、「新規」をクリックします。

- 既存の GPO を編集するには、リストから GPO を選択し、「編集」をクリックします。

Group Policy Object Editor が開きます。

2. Group Policy Object Editor で、マシン・ポリシーを設定する場合は「Computer Configuration (コンピューター構成)」、ユーザー・ポリシーを設定する場合は「User Configuration (ユーザー構成)」を選択します。

3. 「Administrative Templates (管理テンプレート)」→「Windows Components (Windows コンポーネント)」→「Windows Installer」の順に進みます。Windows Installer の使用可能なポリシーのリストが表示されます。

### 関連タスク

57 ページの『Windows Installer ポリシーの使用』

Windows Installer ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。

## SMS を使用した配置:

配置方法として Microsoft の Systems Management Server (SMS) を使用する場合は、新規 SMS パッケージを作成して System i Access for Windows を配布することができます。

SMS パッケージには、クライアント・コンピューター上で System i Access for Windows をインストールするための setup.exe を呼び出すプログラムを組み込む必要があります。SMS を使用して System i Access for Windows を配布するためのパッケージを作成するには、以下の手順に従います。

注: 以下の手順では、SMS 2003 を使用します。

1. ソース・インストール・ファイルが常駐するロケーションを決めます。SMS は、このロケーションをパッケージ用のソースとして使用します。

2. 調整すべきインストール・イメージを検出します。
  3. オプション: インストールのデフォルトの動作を変更するためにインストール・イメージを調整します。
  4. インストール・イメージが SMS に使用可能になるようにします。ソース・イメージの内容全体をネットワーク共有にコピーするか、または管理イメージを作成することができます。  
トランスフォームを基本インストールに適用する場合は、.MST ファイルをソース・イメージのロケーションにコピーします。
- 注: SMS サーバーは、イメージ・ソースにアクセスできなければなりません。
5. SMS パッケージを作成し、必要なコマンド行オプションを含む関連プログラムを定義します。以下の手順では、パッケージを作成するための最も基本的な設定について説明します。
    - a. SMS Administrator Console を開きます。
    - b. 「パッケージ」フォルダーを右クリックし、「新規」 → 「パッケージ」と選択します。
    - c. 「全般」タブで、パッケージの名前を入力します。
    - d. 「Data Source (データ・ソース)」タブで、「**This Package Contains Source Files (このパッケージはソース・ファイルを含む)**」を選択します。
    - e. 「設定」をクリックします。「Set Source directory (ソース・ディレクトリーの設定)」ダイアログが開きます。ソース・イメージのロケーションを表示します。
    - f. 新規パッケージ内にプログラムを作成します。
    - g. 新規プログラムを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
    - h. 「全般」タブで、以下のプロパティを指定します。
      - 「**コマンド行**」で、setup.exe を入力します。
      - 「**After running (実行後)**」リストで、「**No Action Required (アクション不要)**」を選択します。REBOOT 共通プロパティを Suppress または ReallySuppress に設定しない限り、System i Access for Windows インストーラーは、初回のインストール時またはアップグレード時のシステム・リブートをスケジュールに入れることに注意してください。使用できる共通プロパティのリストについては、『共通プロパティ』を参照してください。
    - i. 「Environment (環境)」タブで、以下のオプションを設定します。
      - 各ユーザーがインストール・ウィザードと対話できるようにしたい場合は、「**Program can run (プログラム実行可能)**」で、「**Only When A User Is Logged On (ユーザーのログオン時のみ)**」を選択します。
      - 「**Run with administrative rights (管理権限による実行)**」が選択されていることを確認します。該当のユーザーに管理権限がなく、かつこのオプションが選択されない場合は、System i Access for Windows のインストールは行われません。
    - j. 「Advanced (拡張)」タブで、「**When This Program Is Assigned To A Computer (このプログラムがコンピューターに割り当てられる時点)**」フィールドの「**Run Once For The Computer (コンピューターに対して 1 回だけ実行)**」を選択します。
    - k. 「OK」をクリックして、プログラム設定値を保管します。
  6. パッケージを 1 つ以上の配布ポイントに配布します。
    - a. 新規パッケージを拡張表示し、「**Distribution Points (配布ポイント)**」を右クリックし、「**New (新規)**」 → 「**Distribution Points (配布ポイント)**」と選択します。New Distribution Points Wizard (新規配布ポイント・ウィザード) が開始されます。

- l b. 「次へ」をクリックして、「Copy Package (パッケージのコピー)」ページを表示します。ソフトウェア・パッケージの配布ポイントとして働く 1 つ以上のサーバーを「Distribution points (配布ポイント)」リストから選択します。
- l c. 「終了」をクリックします。
- l d. 配布ポイントへのパッケージの配布が完了したことを確認します。
  - l 1) SMS Administrator Console で、「System Status (システム状況)」 → 「Package Status (パッケージ状況)」を拡張表示します。
  - l 2) System i Access for Windows 用のパッケージを選択します。「Installed (インストール済み)」の列には、値 1 が表示されているはずですが。
- l 7. パッケージをアドバタイズします。パッケージのアドバタイズメントを作成するには、まず、パッケージがアドバタイズされるコレクションを構成する必要があります。
  - l a. SMS Administrator Console に進み、「Advertisements (アドバタイズメント)」フォルダーを右クリックし、「New (新規)」 → 「Advertisement (アドバタイズメント)」と選択します。
  - l b. 「Package (パッケージ)」リストから、該当のパッケージを選択します。
  - l c. 「Program (プログラム)」リストから、該当のプログラムを選択します。
  - l d. 「Collection (コレクション)」ボックスで、ターゲット・コレクションを選択します。サブコレクションを組み込むには、「Include Members Of Subcollections (サブコレクションのメンバーの組み込み)」を選択します。
  - l e. 「Schedule (スケジュール)」タブで、アドバタイズメント用のスケジュール・プロパティを設定します。
  - l f. 「OK」をクリックして、アドバタイズメントを保管します。
  - l g. パッケージ・アドバタイズメントが完了したことを確認します。
    - l 1) SMS Administrator Console で、「System Status (システム状況)」 → 「Advertisement Status (アドバタイズメント状況)」を拡張表示します。
    - l 2) System i Access for Windows パッケージ用のアドバタイズメントを選択します。要約情報パネルで、1 つのプログラムが受信され、開始されたことを確認します。

#### 関連資料

47 ページの『共通プロパティ』

共通プロパティを使用して、インストールのデフォルト動作の変更 (例えば、デフォルトのインストール・ディレクトリの変更、PC52550 エミュレーターのデフォルト・バージョンの変更、リポート・プロンプトのオン/オフなど) を行うことができます。共通プロパティは、コマンド行で設定するか、あるいはトランスフォームまたは setup.ini を用いて定義することができます。

#### 調整すべきインストール・イメージの検出:

3 つのインストール・イメージがあり、PC 用のプロセッサのタイプに基づいています。32 ビットのプロセッサ、64 ビットの Itanium プロセッサ、および 64 ビットの AMD プロセッサ用にそれぞれ適した 3 つのイメージがあります。

ご使用の PC に合う正しいインストール・イメージの場所は、使用するインストール・ソースによって決まります。

- l • ライセンス・プログラム 5761-XE1 を使用する場合は、39 ページの表 7 を使用して適切なインストール・イメージを判別します。
- l • *e(ロゴ)server iSeries 400* セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 を使用する場合は、39 ページの表 8 を使用して適切なインストール・イメージを判別します。

すべての言語が、Windows¥Image32、Windows¥Image64a、または Windows¥Image64i のそれぞれに収められ、DVD で提供されます。

表7. ライセンス・プログラム・プロダクト 5761-XE1 をソースとして使用する場合のインストール・イメージの場所

プロセッサ・タイプ	インストール・イメージの場所
32 ビット	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image32
64 ビット AMD	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64a
64 ビット Itanium	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64i

表8. e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 を使用する場合のインストール・イメージの場所

プロセッサ・タイプ	インストール・イメージの場所
32 ビット	Windows¥Image32
64 ビット AMD	Windows¥Image64a
64 ビット Itanium	Windows¥Image64i

### インストール・パッケージを調整する方法:

インストールの動作をカスタマイズするさまざまな設定だけでなく、ユーザーがインストールできる System i Access for Windows のフィーチャーを制御することができます。この制御は、トランスフォームまたはコマンド行パラメーターを使用して行うことができます。

### トランスフォーム

Windows Installer により、管理者は、インストール・パッケージを配置するときにインストーラーのデフォルトの動作を変更するトランスフォームと呼ばれるメカニズムを使用することができます。トランスフォームにより、管理者は、ユーザーがインストールできるフィーチャーの制限、共通プロパティの事前設定、アプリケーションのデフォルト宛先ロケーションの変更、およびその他のカスタマイズを行うことができます。

トランスフォームにより実際にソース・イメージが変更されることはありません。トランスフォームは、インストール時に基本 MSI データベース cwbininstall.msi に適用される一連の変更を含むファイルです。トランスフォームが適用されても、MSI データベースは変更されません。代わりに、トランスフォームに含まれる変更がインストール時に行われ、MSI データベースの内容をオーバーライドします。トランスフォーム・ファイルは PC 上でキャッシュに入れられ、基本 MSI パッケージが呼び出されるたびに繰り返し適用されます。トランスフォームは、アプリケーションとは別々にアンインストールすることはできません。トランスフォームには、.MST というファイル拡張子が付きます。

注: トランスフォームは cwbininstall.msi にのみ適用する必要があります。System i Access for Windows と共に出荷される MSI パッケージ (cwbininstall.msi 以外) のトランスフォームは、サポートされていません。

無償のソフトウェアまたは MSI Packaging Tool を使用してトランスフォームを作成することができます。詳細については、『トランスフォームの作成に使用できるツール』および『Orca を使用したトランスフォームの作成』を参照してください。

## コマンド行パラメーター

コマンド行パラメーターを指定することにより、インストールの動作をカスタマイズすることができます。ソース・イメージに含まれる `setup.ini` ファイルにより、`setup.exe` で使用されるコマンド行パラメーターを事前定義することができます。これにより、エンド・ユーザーがプロンプトで正確なパラメーターを入力する必要がなくなります。

## 調整インストール・イメージ・ウィザード

これまでのリリースでは、調整インストール・イメージ・ウィザードはインストール・イメージからコンポーネントを除外するために使用され、その後に調整インストール・イメージがユーザーに配布されました。この機能は使用できなくなったため、トランスフォームを使用して、調整インストール・イメージ・ウィザードによって提供される機能を獲得する必要があります。

### 関連概念

32 ページの『Active Directory』

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。一群のユーザーまたはコンピューター用のパッケージを作成してから、そのパッケージをグループ・メンバーに配布することができます。

### 関連タスク

33 ページの『Group Policy を使用した Active Directory 上での配置』

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。Windows Installer パッケージを配置するには、Group Policy オブジェクト (GPO) を作成し、それを特定のドメイン、サイト、または組織単位と関連付けます。次に、インストール・パッケージが GPO 内で作成されます。このパッケージを、GPO のリンク先のコンテナの各メンバーに配布してください。

## トランスフォームの作成に使用できるツール:

他のベンダーからのいくつかのツールだけでなく、Orca と呼ばれる無償ツールのように、トランスフォームの作成に使用できるツールがいくつかあります。

### Orca

Orca は、Windows Installer Software Development Kit (SDK) から入手可能な無償ツールです。これは、トランスフォームの作成だけでなく、Windows Installer パッケージの作成および編集を行うための MSI データベース・エディターです。

Orca を入手するには、Microsoft Platform SDK Components for Windows Installer Developers が必要です。Microsoft ダウンロード・サイト (<http://www.microsoft.com/downloads>) から最新の Platform SDK をダウンロードすることができます。あるいは、Microsoft Platform SDK Components for Windows Installer Developers を入手するための手順について、Windows Installer SDK オンライン資料 (<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/Aa370834>) を参照することができます。

### MSI パッケージング・ツール

サード・パーティー・ベンダーからのいくつかのツールを使用することによって、管理者がトランスフォームを作成しやすくなります。一般的に MSI パッケージング・ツールまたは MSI Authoring Environments として知られているものです。これらのツールにより、管理者は、Orca より洗練された、トランスフォーム・ファイルを生成するユーザー・インターフェースを使用することができます。

一部のツールでは「ポイントとクリック」によって自動的にトランスフォームの作成を行うことができ、他のツールでは、ユーザーがアプリケーションのインストールをシミュレートして、ユーザーが選択した中から自動的に .MST ファイルを作成することができます。トランスフォームの作成方法について詳しくは、MSI パッケージング・ツールに関連する資料を参照してください。

#### 関連情報

 Microsoft ダウンロード・サイト

 Windows Installer SDK 資料

#### **Orca を用いたトランスフォームの作成:**

トランスフォームを使用して、各ユーザーがインストールできる一連のフィーチャーを制限し、共通プロパティを設定することができます。

下記の説明は、Orca を使用してトランスフォームを作成するためのものです。MSI Packaging Tool を使用する場合は、代わりに、ソフトウェア・ベンダーによって提供される資料を参照してください。

MSI ファイルは表集合を含みリレーショナル・データベースであるため、行の追加、除去、または変更によって表レベルで変更が行われます。ここで説明している変更には通常、既存のレコードの変更 (機能の設定値を変更する場合または共通プロパティのデフォルト値をオーバーライドする場合) または新規レコードの追加 (デフォルトでは定義されない共通プロパティを設定する場合) が必要とされます。

#### **重要**

**注:** ここで説明している以外の方法で、MSI データベースの行の削除または変更を行なわないでください。

Orca を使用してトランスフォームを作成するには、以下のステップに従います。

1. 「Orca」を開きます。
2. ファイル・メニューから、「開く」を選択し、cwinstall.msi を表示します。cwinstall.msi の表が表示されます。
3. トランスフォーム・メニューから、「New Transform (新規トランスフォーム)」を選択します。
4. 表の列で、変更する表を開きます。
5. オプション: 各ユーザーがインストールできる一連のフィーチャーを制限します。
6. オプション: 共通プロパティを設定します。
7. トランスフォーム・メニューから、「Generate Transform (トランスフォームの生成)」を選択します。
8. 「Save Transform As (トランスフォームに名前を付けて保存)」ダイアログで、トランスフォーム・ファイル用の名前を選択し、ファイルを保存します。
9. 「Orca」を閉じます。

#### 関連タスク

55 ページの『setup.ini を使用したインストールの変更』  
setup.ini で使用するユーザー・インターフェース・レベル、インストール・ロギングのレベル、およびトランスフォームを指定することができます。

#### **各ユーザーがインストールできる一連のフィーチャーの制限:**

トランスフォームおよびフィーチャー・テーブルを使用して、各ユーザーがインストールできる一連のフィーチャーを制限することができます。

1 フィーチャー・テーブルをカスタマイズする前に、フィーチャー・ツリー構造およびフィーチャー間に存在  
1 する従属関係についてよく知っておく必要があります。

1 1 つのフィーチャーに関するすべての必須従属関係は、そのフィーチャーが選択された場合にインストール  
1 されます。次の表は、フィーチャーが他のどのフィーチャーに従属しているかを示したものです。

1 表9. フィーチャーの従属関係

1 フィーチャー	1 従属しているフィーチャー
1 5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター	1 なし
1 .NET Data Provider	1 なし
1 AFP プリンター・ドライバー	1 なし
1 AFP Workbench Viewer	1 なし
1 データ転送	1 なし
1 データ転送 Excel アドイン	1 データ転送
1 ディレクトリー更新	1 なし
1 ヘッダー、ライブラリー、および資料	1 なし
1 受信リモート・コマンド	1 なし
1 System i ナビゲーター	1 OCI、JRE、Toolbox for Java、ODBC
1 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 • 基本操作</li> <li>1 • 実行管理機能</li> <li>1 • 構成およびサービス</li> <li>1 • ネットワーク</li> <li>1 • 統合サーバー管理</li> <li>1 • セキュリティー</li> <li>1 • ユーザーおよびグループ</li> <li>1 • データベース</li> <li>1 • ファイルシステム</li> <li>1 • バックアップ</li> <li>1 • コマンド</li> <li>1 • パッケージおよび製品</li> <li>1 • モニター</li> <li>1 • 論理システム</li> <li>1 • AFP Manager</li> <li>1 • アプリケーション管理</li> </ul>	1 System i ナビゲーター
1 Java Programmer's Tools	1 JRE、Toolbox for Java、ODBC
1 JRE	1 なし
1 Lotus Notes® 123	1 なし
1 ODBC	1 なし
1 OLE DB Provider	1 なし
1 オペレーション・コンソール	1 OCI、5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレー 1 ター (PCOMM でない場合)
1 必須プログラム	1 なし
1 SCS プリンター・ドライバー	1 なし



表9. フィーチャーの従属関係 (続き)

フィーチャー	従属しているフィーチャー
Secure Sockets Layer (SSL)	なし
Toolbox for Java	JRE

注:

- JRE は、インストール可能コンポーネントとしてフィーチャー・ツリーには表示されません。JRE リソースは、System i ナビゲーターおよび Java Programmer's Tools の一部としてインストールされます。
- req フィーチャーの「レベル」列を変更してはなりません。
- フィーチャー emus、emuk、emup、および emut は、意図的に表示されません。これらのフィーチャーの「表示」または「レベル」の値を変更してはなりません。
- 共通プロパティ CWBINSTALLTYPE を「全機能 (Complete)」に設定した場合は、レベル値が 0 のフィーチャーを除くすべてのフィーチャーがインストールされます。
- 共通プロパティ CWBINSTALLTYPE を「PC5250 ユーザー (PC5250User)」に設定した場合は、レベルが 50 以下のすべてのフィーチャーがインストールされます (レベル値が 0 のフィーチャーを除く)。

各ユーザーがインストールできる一連のフィーチャーを制限するには、以下のステップに従います。

レベル値および属性値を必要に応じて変更します。

- インストールするフィーチャーを事前選択するには、その**レベル値**を 1 に変更します。
  - 基本インストール、制限付きインストール、またはサイレント・インストールの場合は、フィーチャーがインストールされます。
  - フル・ユーザー・インターフェース・インストールの場合は、フィーチャーは「カスタム」ダイアログで事前選択されますが、ユーザーがこのフィーチャーを選択解除することができます。フィーチャーを選択解除できないことを確認したい場合は、**属性値**を 24 に変更して、「必須」のマークを付けます。
- フィーチャーを無効とせずに選択解除するには、その**レベル値**を 125 に変更します。
  - 基本インストール、制限付きインストール、およびサイレント・インストールの場合は、フィーチャーがインストールされません。
  - フル・ユーザー・インターフェース・インストールの場合は、フィーチャーは「カスタム」ダイアログで事前選択されませんが、ユーザーがインストールするためにフィーチャーを選択することができます。
- フル・ユーザー・インターフェース・インストール時にフィーチャーを非表示にするには、その**表示値**を 0 に変更します。
  - これによりフィーチャーのインストールが無効にされることはありませんが、このフィーチャーはカスタム・インストールのフィーチャー選択ツリーには表示されません。フィーチャーがインストールされるか否かは、フィーチャーのレベル値に応じて、またはフィーチャー名が ADDLOCAL プロパティで渡されたかどうかに応じて決まります。
  - 基本インストール、制限付きインストール、およびサイレント・インストールの場合は、「表示」列を変更しても効力を持ちません。
- フィーチャーを完全に無効とするには、その**レベル値**を 0 に変更します。

- | - フル・ユーザー・インターフェース・インストールの場合は、フィーチャーは表示されず、かつインストールされません。
- | - 基本インストール、制限付きインストール、およびサイレント・インストールの場合は、フィーチャーはインストールされません。
- | - ADDLOCAL でフィーチャー名を渡しても、フィーチャーはインストールされません。

#### | **フィーチャー・ツリー:**

| このトピックでは、System i Access for Windows インストール・パッケージに含まれるフィーチャー、ならびにフィーチャーの制限によく使用される「レベル」列と「属性」列のデフォルト値を示します。

| 次の表のフィーチャーは、フィーチャー選択ツリーに表示される順序と同じ順序で分類されています。ネストされたフィーチャーは、その親フィーチャーの名前が「親フィーチャー」列に示されています。

| フィーチャー表の「レベル」列と「属性」列には、デフォルト値が示されています。これらの値は、トランスフォームを使用したフィーチャーの制限により変更されます。「タイトル」列には、フィーチャー選択ツリーに示される各フィーチャーのタイトルが含まれます。

| 表 10. フィーチャー・ツリー

タイトル	フィーチャー	親フィーチャー	レベル	属性
必須プログラム	req		1	24
オプション・フィーチャー	optfeatures		100	8
ディレクトリー更新	dir	optfeatures	100	8
受信リモート・コマンド	irc	optfeatures	100	8
System i ナビゲーター	inav		100	8
基本操作	inavbo	inav	100	8
実行管理機能	inavwm	inav	125	8
構成およびサービス	inavcfg	inav	125	8
ネットワーク	inavnet	inav	125	8
統合サーバー管理	inavisa	inav	125	8
セキュリティ	inavsec	inav	125	8
ユーザーおよびグループ	inavug	inav	125	8
データベース	inavdb	inav	125	8
ファイルシステム	inavfs	inav	125	8
バックアップ	inavback	inav	125	8
コマンド	inavcmd	inav	125	8
パッケージおよび製品	inavpp	inav	125	8
モニター	inavmon	inav	125	8
論理システム	inavlog	inav	125	8
AFP Manager	inavafp	inav	125	8
アプリケーション管理	inavad	inav	125	8
データ・アクセス	DataAccess		100	8
データ転送基本サポート (ライセンス必須)	dt	DataAccess	100	8
データ転送 Excel アドイン	dtexcel	dt	100	8

表 10. フィーチャー・ツリー (続き)

タイトル	フィーチャー	親フィーチャー	レベル	属性
ODBC	odbc	DataAccess	100	8
OLE DB Provider	oledb	DataAccess	100	8
.NET Data Provider	dotnet	DataAccess	125	8
Lotus® 123 File Format Support	lotus123	DataAccess	125	8
AFP Workbench Viewer	viewer		100	8
Toolbox for Java	tbj		100	8
5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター (ライセンス必須)	emu		1	8
Secure Socket Layer (SSL)	ssl		125	8
プリンター・ドライバー	prtdrivers		125	8
AFP プリンター・ドライバー	afp	prtdrivers	125	8
SCS プリンター・ドライバー	scs	prtdrivers	125	8
オペレーション・コンソール	oc		101	8
プログラマー・ツールキット	toolkit		125	8
ヘッダー、ライブラリー、および資料	hld	toolkit	125	8
Java Programmer's Tools	jpt	toolkit	100	8

注:

- 0 より大きい表示値をもつフィーチャーのみが、この表に列挙されています。表示列にデフォルト値 0 が示されているすべてのフィーチャーは、インストーラーによって内部的に使用されるように意図されています。したがって、これらのフィーチャーは、フィーチャー選択ツリーには表示されず、決してトランスフォームされることはありません。
- 100 に等しいかまたはそれより小さいレベルをもつフィーチャーは、ユーザーがフィーチャー選択ツリーからフィーチャーを選択解除しない限り、インストールされます。フィーチャー選択ツリーが表示されないインストール (制限付きインターフェース・モード、基本インターフェース・モード、またはユーザー介入なしインターフェース・モード) では、これらのフィーチャーは常にインストールされます。各ユーザーがフィーチャー選択ツリーの中のフィーチャーを選択解除できないようにするためには、フィーチャーのレベルを 100 以下に設定し、属性値を 24 に設定します。
- 100 を超えるレベルをもつフィーチャーは、ADDLOCAL プロパティを介してまたはフィーチャー選択ツリーから明示的に選択されない限り、インストールされません。フィーチャーを完全に無効とするには、そのレベル値を 0 に設定します。
- フィーチャーが親であるときに、子も選択されるようにするには、子フィーチャーの属性値を 26 に設定します。これにより、子フィーチャーはその親のアクションに従います。
- すべてのフィーチャーには、msidbFeatureAttributesDisallowAdvertise 属性 (10 進数 8) を設定する必要があります。これは、System i Access for Windows が Windows Installer のアドバタイズ機能をサポートしないためです。
- req 機能は必ずインストールする必要があります。したがって、req 機能の属性値を変更してはなりません (req の属性値は msidbFeatureAttributesDisallowAdvertise 属性 (10 進数 8) と msidbFeatureAttributesUIDisallowAbsent 属性 (10 進数 16) の組み合わせです)。

msidbFeatureAttributesUIDisallowAbsent 属性は、req フィーチャーの「Absent (不在)」オプションを許可しません。このオプションを使用すると、req フィーチャーが常に強制的にインストールされます。

#### トランスフォームを使用した共通プロパティの設定:

インストール時にコマンド行で共通プロパティを指定する代わりに、トランスフォームを使用して共通プロパティを設定することができます。ソフトウェア配置方法で MSI パッケージのコマンド行パラメーターを渡すことができない場合には、これが役立ちます。

トランスフォームを使用して共通プロパティを設定するには、プロパティ・テーブルを変更します。これにより、共通プロパティのデフォルト値を変更することができます。使用可能な共通プロパティおよびその値については、『共通プロパティ』を参照してください。

注: 共通プロパティをカスタマイズする前に、以下の考慮事項に注意してください。

1. 専用プロパティの値を変更してはなりません。専用プロパティは内部使用のみを目的としています。
2. InstallShield に使用するための一部の共通プロパティは変更してはなりません。『共通プロパティ』のトピックにリストされている共通プロパティのみをカスタマイズしてください。
3. コマンド行で設定された共通プロパティの値は、トランスフォームに設定された値をオーバーライドします。

共通プロパティを設定するには、以下の手順に従います。

1. プロパティ・テーブルを開きます。
2. オプション: 共通プロパティのデフォルト値を変更します。共通プロパティのデフォルト値を変更するには、「値」の列に新しい値を入力します。
3. オプション: プロパティ・テーブルで定義されていない共通プロパティを追加します。

一部の共通プロパティはデフォルトでは定義されないため、テーブル内のリストには表示されません。プロパティ・テーブルで定義されていない共通プロパティを使用するには、テーブルの最下行をダブルクリックして追加します。「プロパティ」フィールドにそのプロパティの名前を入力して、「値」フィールドに値を設定します。

4. オプション: カスタム共通プロパティを追加します。ユーザー自身の共通プロパティをプロパティ・テーブルに追加し、それを使用して一部の動作をカスタマイズすることができます。

#### 注意

注: カスタム共通プロパティの追加を選択した場合には、インストールに関する問題について IBM では責任を負うことはできません。

#### ログ・ファイルのデフォルト・オプションの変更:

デフォルトでは、ログ・ファイル `xe1instlog.txt` および `xe1instlogmsi.txt` は、インストール時に `temp` ディレクトリの下で作成されます。コマンド行または `setup.ini` を使用して、ログ・ファイルの名前およびロケーションを変更することができます。

ログ・ファイルには以下の情報が含まれます。

## | **xeinstlog.txt**

| インストール時のカスタム・アクションからのトレース情報のみを含む累積ログ。このログ・ファイルのデフォルト・オプションまたはターゲット・ロケーションを変更することはできません。

## | **xeinstlogmsi.txt**

| インストール時のカスタム・アクションからの MSI アクション情報およびトレース情報を含む。このログ・ファイルには、詳細出力を除くすべての情報が記録されます。コマンド行または `setup.ini` を使用して、このログ・ファイルのデフォルト・オプション、ターゲット・ロケーション、およびファイル名を変更することができます。

| `setup.ini` またはコマンド行パラメーターを使用して、`xeinstlogmsi.txt` のデフォルト・オプションを変更することができます。`xeinstlogmsi.txt` のデフォルト・ログ・オプションを変更する手順については、`setup.ini` を使用したインストールの変更を参照してください。

| コマンド行パラメーターを使用して `xeinstlogmsi.txt` のデフォルト・オプションを変更するには、コマンド `setup /v"/l<logging parameters> log_path%file_name.ext"` を入力します。

| 最も一般的なロギング・パラメーターは次のとおりです。

- | • \*: 状況メッセージ、警告、およびエラー・メッセージをログに記録します。
- | • v: 冗長モードをオンにします。
- | • x: 追加デバッグ情報をログに記録します。

| 例: `setup /v"/l*v C:%MyPath%log.txt"` により、`MyPath` フォルダの下で `log.txt` と呼ばれるログ・ファイル (これには状況メッセージ、警告、およびエラー・メッセージが含まれる) が生成され、詳細情報がログに記録されます。

| 注: パスを囲む引用符は、外側の引用符の妨げにならないように円記号 (¥) を使用してエスケープさせる必要があります。

| /l オプションによって使用されるロギング・パラメーターの全リストを取得するには、コマンド行に `msiexec` と入力します。

| ディレクトリー・パスにスペースを含める場合は、引用符を使用する必要があります。例: `setup /v"/l*v ¥"C:%My Path%log.txt¥"`

| 宛先ディレクトリーを指定しない場合、ログは、セットアップが開始されているパスと同じパスの下で作成されます。

## | **関連タスク**

| 55 ページの『`setup.ini` を使用したインストールの変更』  
| `setup.ini` で使用するユーザー・インターフェース・レベル、インストール・ロギングのレベル、および  
| トランスフォームを指定することができます。

## | **共通プロパティ:**

| 共通プロパティを使用して、インストールのデフォルト動作の変更 (例えば、デフォルトのインストール・ディレクトリーの変更、PC52550 エミュレーターのデフォルト・バージョンの変更、リポート・プロンプトのオン/オフなど) を行うことができます。共通プロパティは、コマンド行で設定するか、あるいはトランスフォームまたは `setup.ini` を用いて定義することができます。

| コマンド行インターフェースで共通プロパティを設定するには、必要に応じて以下の構文を使用します。  
| ここで、PUBLICPROPERTY は、以下に示すいずれかの共通プロパティです。

- | • 1 つのプロパティを設定するには、`setup /vPUBLICPROPERTY=value` を指定します。
- | • インスタンス別に 1 つのプロパティを設定するには、`setup /vCWBINSTALLTYPE=PC5250User` を指定します。
- | • 複数のプロパティを設定するには、`setup /v"PUBLICPROPERTY1=value PUBLICPROPERTY2=value"` を指定します。
- | • インスタンス別に複数のプロパティを設定するには、`setup /v" CWBINSTALLTYPE=Custom CWBPRIMARYLANG=Mri2938 CWBPC5250VERSION=T"` を指定します。

| プロパティを処理する場合は、ここに示されている共通プロパティのみを変更する必要があります。共通プロパティの名前は、示されているとおりに正確に入力する必要があります。

| 以下の共通プロパティについて説明します。

- | • 『CWBINSTALLTYPE』
- | • 『CWBPC5250VERSION』
- | • 49 ページの 『CWBSHOWWELWIZ』
- | • 49 ページの 『CWBPRIMARYLANG』
- | • 50 ページの 『CWBINSTALLPLUGINS』
- | • 50 ページの 『CWBSILENTPLG』
- | • 51 ページの 『ADDLOCAL (Windows Installer プロパティ)』
- | • 51 ページの 『REMOVE (Windows Installer プロパティ)』
- | • 52 ページの 『REBOOT (Windows Installer プロパティ)』
- | • 52 ページの 『REBOOTPROMPT (Windows Installer プロパティ)』
- | • 53 ページの 『INSTALLDIR (InstallShield プロパティ)』
- | • 53 ページの 『TARGETDIR』

#### | **CWBINSTALLTYPE**

| **目的:** 初回のインストールのセットアップ・タイプを設定します。

| **有効範囲:**

| 初回のインストールに限り有効です。

| **デフォルト:**

| デフォルトのセットアップ・タイプは「Complete (全機能)」です。

| **値:** Complete、Custom、PC5250User

| **例** 「全機能」インストール・セットアップ・タイプの場合は、`setup /vCWBINSTALLTYPE=Complete` と入力します。

| **補足的な注:**

- | 1. この値は大文字小文字が区別されません。
- | 2. CWBINSTALLTYPE プロパティは、System i Access for Windows の前のリリースからのアップグレードの場合および保守インストールでは、無視されます。

#### | **CWBPC5250VERSION**

| **目的:** PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターのバージョンを設定します。

| **有効範囲:**

| 初回のインストール、保守インストール (PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターがインストールされていない場合)、およびアップグレードに有効です。

| **デフォルト:**

| このプロパティが使用されない場合は、PC のコード・ページが、インストールするエミュレーターのバージョンの判別に使用されます。

| **値:**

| **K** PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターの韓国語版をインストールします。

| **P** PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターの中国語 (簡体字) 版をインストールします。

| **S** PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターの標準版をインストールします。

| **T** PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターの中国語 (繁体字) 版をインストールします。

| **例** PC5250 の韓国語版をインストールするには、`setup /vCWBPC5250VERSION=K` と入力します。

| **補足的な注:**

1. PC5250 をインストールし、保守インストールを行う場合は、このプロパティは無視されません。別のバージョンをインストールするには、PC5250 の現行バージョンを除去してから、このプロパティを使用して保守インストールを再始動します。
2. PC5250 をインストールし、新規リリースへのアップグレードを行う場合は、このプロパティは無視されます。別のバージョンをインストールするには、PC5250 の現行バージョンを除去してから、このプロパティを使用して保守インストールを開始します。
3. このプロパティを設定すると、フィーチャー名を `ADDLOCAL` に渡さなくても、PC5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーターのフィーチャーがインストール用に事前選択されます。

| **CWBSHOWWELWIZ**

| **目的:** ウェルカム・ウィザードをいつ表示するかを指定します。

| **有効範囲:**

| 初回のインストールおよびアップグレードに有効です。

| **デフォルト:**

| Yes

| **値:**

| **Yes**

| ウェルカム・ウィザードは、PC が再始動するたびに表示されます。

| **No** ウェルカム・ウィザードは表示されません。

| **例** PC が再始動するたびにウェルカム・ウィザードが表示されるように指定するには、`setup /vCWBSHOWWELWIZ=yes` と入力します。

| **CWBPRIMARYLANG**

| **目的:** インストールするデフォルトの 1 次言語を指定します。

有効範囲:

このプロパティは、初回のインストール、アップグレード、およびサイレント・インストールに有効です。

デフォルト:

ソース・インストール・イメージが LPP の場合は、デフォルトの言語は 1 次言語になります。これは、ソース・ディレクトリーの `mrsetup.ini` ファイルを検査して決められます。ソースが DVD またはその他のメディアである場合は、デフォルトの言語は、PC のロケールに合致する NLV、またはユーザーがユーザー・インターフェース用に選択した言語になります。

値:

**MRI29xx**

MRI29xx の言語リソースは PC 上にインストールされ、MRI29xx は System i Access for Windows の 1 次言語として設定されます。xx は言語 ID を示します。

**例** 特定の 1 次言語を選択し、1 次言語ダイアログをスキップするには、`setup /vCWBPRIMARYLANG=MRI29xx` と入力します。

補足的な注:

1. 「基本」、「制限付き」、または「ユーザー介入なし」の各レベルに対してこのプロパティがコマンド行を介して渡されない場合は、デフォルトの言語がインストールされます。
2. CWBPRIMARYLANG プロパティがコマンド行を介して渡される場合は、1 次言語ダイアログはスキップされます。
3. 非 MSI インストールからのアップグレードの際は、1 次言語ダイアログは表示されず、同じ言語がインストールされます。

**CWBINSTALLPLUGINS**

**目的:** インストール・プロセスで System i ナビゲーター・サード・パーティー・プラグインを検出およびインストールするかどうかを指定します。

有効範囲:

これは、初回のインストール、保守インストール、およびアップグレードに有効です。

デフォルト:

プラグインの検出およびインストールを許可します。

**値:** No、Yes

**例** プラグインの検出およびインストールをスキップするには、`setup /vCWBINSTALLPLUGINS=No` と入力します。

補足的な注:

この値は大文字小文字が区別されません。

**CWBSILENTPLG**

**目的:** サイレント・インストール (基本ユーザー・インターフェース、制限付きユーザー・インターフェース、およびユーザー介入なしインターフェースのインストール) の際にインストールする System i ナビゲーター・プラグインを指定します。

有効範囲:

これは、「制限付き」、「基本」、または「ユーザー介入なし」のインターフェース・モードで実行される初回のインストール、保守インストール、およびアップグレードに有効です。



| **デフォルト:**

| なし。

| **値:** cwbsilentplg.ini (インストールするプラグインのリストが含まれる) へのパス。ファイルの形式は次のとおりです。

| [Plugins] vendor.component=yes vendor.component=no

| vendor は会社名、component はプラグイン名です。

| **例** アップグレードまたは保守インストール時に IBM.BRMSPlugin をインストールし、LOTUS.QUICKPLACE プラグインを除去するには、パス C:¥mywork で cwbsilentplg.ini と呼ばれるファイルを作成します。このファイルには以下の情報が含まれます。

| [Plugins] IBM.BRMSPlugin=yes  
| LOTUS.QUICKPLACE=no

| 次に、コマンド行で、setup /vCWBSILENTPLG=c:¥mywork と入力します。

| **補足的な注:**

| サイレント・インストールを使用し、CWBSILENTPLG を指定しない場合は、インストールまたは除去されるプラグインはありません。非サイレント・インストールを実行する場合は、このプロパティは無視されます。

| **ADDLOCAL (Windows Installer プロパティ)**

| **目的:** ローカルにインストールされるフィーチャーのリスト。

| **有効範囲:**

| 初回のインストール、保守インストール、またはアップグレードに有効です。

| **デフォルト:**

| なし。共通プロパティが使用されない場合は、インストール・ウィザードまたはトランスフォーム (提供されている場合) の際に行われる選択により、インストールされるものが決められます。

| **値:**

| **ALL**

| フィーチャー・テーブルにリストされているすべてのフィーチャーをローカルにインストールします。

| **1 つ以上の有効なフィーチャー名**

| フィーチャー名のリストについては、61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』を参照してください。

| **例** 例については、61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』を参照してください。

| **補足的な注:**

1. フィーチャーはフィーチャー・テーブルにリストされている必要があります。
2. フィーチャー名では、大文字小文字が区別されません。
3. ADDLOCAL=ALL をプロパティ・テーブルに入力してはなりません。この値を入力すると、正しく除去できない、ローカルにインストールされたパッケージが生成されます。

| **REMOVE (Windows Installer プロパティ)**

| **目的:** 除去すべきフィーチャーを指定します。

| **有効範囲:**

| 製品がインストールされている場合にのみ有効です。

| **デフォルト:**

| なし。共通プロパティが使用されない場合は、インストール・ウィザードで行われる選択により、除去するフィーチャーが決められます。

| **値:**

| **ALL**

| 0 より大きいインストール・レベルのすべてのフィーチャーを除去します。インストール・レベルが 0 のフィーチャーは、除去されません。

| **例** 例については、61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』を参照してください。

| **補足的な注:**

1. フィーチャーはフィーチャー・テーブルにリストされている必要があります。フィーチャー名のリストについては、61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』を参照してください。
2. フィーチャー名では、大文字小文字が区別されません。

| **REBOOT (Windows Installer プロパティ)**

| **目的:** システムのリブートに関する特定のプロンプトを抑止します。

| **有効範囲:**

| これは、初回のインストール、アップグレード、および保守インストールに有効です。

| **デフォルト:**

| このプロパティが設定されない場合は、インストールの終了時に必要なリブートが行われるようスケジュールされます。

| **値:**

| **Force (または F)**

| インストールの終了時に常にリブートします。ユーザー・インターフェースがない場合は、システムは確認なしでリブートします。

| **Suppress (または S)**

| インストールの終了時にリブートを抑止します。

| **例** インストールの終了時にシステムがリブートしないようにするには、`setup /v"REBOOT=Suppress"` or `setup /v"REBOOT=S"` と入力します。

| **補足的な注:**

1. 必須プログラムのフィーチャーまたは AFP Viewer フィーチャーがインストールまたは再インストールされるたびに、System i Access for Windows インストール・プログラムは、システム・リブートをスケジュールに入れます。
2. サイレント初回インストール、サイレント・アップグレード、またはサイレント再インストール (サービス・パックまたは修復) では、Windows Installer は、確認のためのプロンプトを出さずに PC を再始動します。システムのリブートを抑止するには、このプロパティを S または Suppress に設定します。

| **REBOOTPROMPT (Windows Installer プロパティ)**

| **目的:** リブートのためのプロンプトをユーザーに対して表示しません。

| **有効範囲:**  
| これは、「基本」、「制限付き」、または「フル」のユーザー・インターフェース・モードで実行  
| される初回のインストール、アップグレード、および保守インストールにのみ有効です。

| **デフォルト:**  
| このプロパティが設定されず、インストーラーがシステム・リブートをスケジュールに入れる場  
| 合は、ダイアログがインストールの終了時に表示されます。

| **値:**  
| **Suppress (または S)**  
| Windows Installer によって実行されるリブートは、ユーザーとの対話なしに自動的に行われま  
| す。このプロパティを設定しても、必要でなければリブートは開始されません。ユーザーに  
| 対するリブートのためのプロンプト表示が抑止されるだけです。

| **例** ユーザーに対するリブートのためのプロンプト表示を抑止するには、`setup /vREBOOTPROMPT=S` と  
| 入力します。

| **補足的な注:**  
| サイレント・インストールでは、このプロパティは効力をもちません。

#### | **INSTALLDIR (InstallShield プロパティ)**

| **目的:** System i Access for Windows 用のインストール・ディレクトリーを設定します。

| **有効範囲:**  
| これは、初回のインストールに限り有効です。

| **デフォルト:**  
| INSTALLDIR を指定しない場合は、System i Access for Windows は C:\Program Files\IBM\Client  
| Access にインストールされます。

| **値:** すべての有効なパス

| **例** System i Access for Windows を C:\InstallPath ディレクトリーにインストールするには、`setup`  
| `/vINSTALLDIR=X:\Install_Path` と入力します。ここで、*X* は宛先ドライブ名、*Install\_Path* はター  
| ゲット・ディレクトリーです。

| ディレクトリー・パスにスペースが含まれている場合は、次の例のように、二重引用符を使用しま  
| す。1 つの組みは *v* パラメーター用、もう 1 つの組みは INSTALLDIR プロパティ用です。内  
| 側の引用符は、円記号 (¥) を使用してエスケープさせる必要があることに注意してください (例:  
| `setup /v"INSTALLDIR=¥" C:\Install Path¥"`)。

#### | **TARGETDIR**

| **目的:** 管理インストールの実行時に管理イメージ用の宛先ディレクトリーを設定します。

| **有効範囲:**  
| これは管理インストールに有効です。

| **デフォルト:**  
| このプロパティが管理インストール時に設定されない場合は、Windows Installer は、最初に検出  
| した接続済みネットワーク・ドライブに合わせてこのプロパティを設定します。

| **値:** 有効なパス。

| **例** 管理イメージ用の宛先ディレクトリーを設定するには、`setup /a v/TARGETDIR=X:\Admin_image` と  
| 入力します。ここで、*X* は宛先ドライブ名、*Admin\_image* はターゲット・ディレクトリーです。

ディレクトリー・パスにスペースが含まれている場合は、次の例のように、二重引用符を使用します。1 つの組みは `/v` パラメーター用、もう 1 つの組みは `TARGETDIR` プロパティ用です。内側の引用符は、円記号 (¥) を使用してエスケープさせる必要があることに注意してください (例: `setup /a /v"TARGETDIR=¥"C:¥Admin Image¥"`)。

## 関連タスク

36 ページの『SMS を使用した配置』

配置方法として Microsoft の Systems Management Server (SMS) を使用する場合は、新規 SMS パッケージを作成して System i Access for Windows を配布することができます。

69 ページの『更新されたフル・イメージからのクライアントの再インストール』

更新されたフル・イメージからクライアントを再インストールすることによって、サービス・パックを配布することができます。各クライアントをアップグレードするには、最新のサービス・レベル修正を含む更新済みイメージが必要です。

## インストール時のユーザー・インターフェースのレベルの定義:

ユーザー・インターフェース・レベルは、インストール・ユーザー・インターフェースが実行されるレベルです。ユーザー・インターフェース・レベルは、「フル」、「制限付き」、「基本」、および「ユーザー介入なし (サイレント)」の 4 つのレベルに設定することができます。デフォルトのレベルは、フル・ユーザー・インターフェースです。

フル・ユーザー・インターフェースでは、「インストール・ウィザード」が表示されます。ユーザーは、インストール・オプションを変更することができます。進行状況表示バーが表示されます。すべてのエラー・メッセージと警告メッセージが表示されます。

制限付きユーザー・インターフェースでは、ウィザード・ダイアログを除くすべてのダイアログが表示されます。ユーザーは、インストール・オプションを変更することができません。

基本ユーザー・インターフェースでは、進行状況表示バーおよびエラー・メッセージのみが表示されます。ユーザーは、インストール・オプションを変更することができません。

サイレント・インストール (ユーザーが介入しないインターフェース) では、いずれのダイアログも表示されません。インストールの進行に関する表示はありません。ユーザーは、インストール・オプションを変更することができません。

ユーザー・インターフェース・レベルは `setup.ini` 内で指定するか、またはコマンド行でユーザーが設定することができます。`setup.ini` 内でユーザー・インターフェース・レベルを設定するには、`setup.ini` を使用したインストールの変更を参照してください。

コマンド行でユーザー・インターフェース・レベルを指定するには、以下のいずれかを実行します。

- フル・ユーザー・インターフェース・レベルでインストールを開始するには、`setup /v/qf` と入力します。これはデフォルトであり、`/q` オプションを指定しないセットアップ開始と同等です。
- 制限付きユーザー・インターフェース・レベルでインストールを開始するには、`setup /v/qr` と入力します。
- 基本ユーザー・インターフェース・レベルでインストールを開始するには、`setup /v/qb` と入力します。
- ユーザーが介入しないインターフェースでインストールを開始するには、`setup /v/qn` と入力します。

| **重要:** /qr、/qb、および /qn オプションを使用すると、インストールの開始時に表示される「Installation Language (インストール言語)」選択ダイアログの表示が抑止されません。「Installation Language (インストール言語)」選択ダイアログの表示を回避するには、次の例のように /s パラメーターを付加します。

| setup /v/qb /s

### | **関連タスク**

| 『setup.ini を使用したインストールの変更』

| setup.ini で使用するユーザー・インターフェース・レベル、インストール・ロギングのレベル、および  
| トランスフォームを指定することができます。

### | **setup.ini を使用したインストールの変更:**

| setup.ini で使用するユーザー・インターフェース・レベル、インストール・ロギングのレベル、およびト  
|ランスフォームを指定することができます。

| setup.ini を変更するには、以下のステップに従います。

| 1. インストール・イメージのロケーションを表示し、setup.ini を開きます。

| 2. オプション: ユーザー・インターフェース・レベルを定義します。

| a. [Startup] セクションで、CmdLine=/1\* "%temp%\%xe1instlogmsi.txt" ステートメントを見つけます。

| b. /q オプションを CmdLine キー名に追加します。

| • 制限付きユーザー・インターフェースの場合は /qr を入力します。

| • 基本ユーザー・インターフェースの場合は /qb を入力します。

| • ユーザーが介入しない (完全サイレント) インターフェースの場合は /qn を入力します。

| 3. オプション: インストール・ロギングのレベルを定義します。

| a. [Startup] セクションで、CmdLine=/1\* "%temp%\%xe1instlogmsi.txt" ステートメントを見つけます。

| b. 必要に応じて /l オプションのパラメーターを変更します。

| • 詳細ログを取得するには、/l\* を /l\*v に変更します。

| • MSI ログを作成する必要がない場合は、CmdLine キー名から /l オプションおよびそのすべての  
| パラメーターを削除します。

| • ログ・ファイルのデフォルト宛先を変更するには、"%temp%\%xe1instlogmsi.txt" パラメーターを  
| 所望のディレクトリー名およびファイル名に変更します。スペースを含む場合はパスを引用符で  
| 囲んでください。例えば、/l "c:\%my directory%\%mylog.txt" のようにします。

| 4. オプション: 適用するトランスフォームを指定します。同じイメージを用いて実行しているユーザーに  
| はすべて、同じトランスフォーム・リストが適用されます。

| a. [Startup] セクションで、CmdLine=/1\* "%temp%\%xe1instlogmsi.txt" ステートメントを見つけます。

| b. TRANSFORMS CmdLine キー名を追加します。例えば、

| TRANSFORMS=transform1.mst,transform2.mst,... のようにします。

| 以下に例を示します。

| [Startup]

| CmdLine=/1\*v "C:\%MyPath%\%xe1instlogmsi.txt" /qb TRANSFORMS=MyTransform.mst

| この例では、ログ・ファイル xe1instlogmsi.txt は詳細な情報を伴って生成され、C:\%MyPath に保管されま  
| す。また、インストールは基本ユーザー・インターフェース・モードで開始され、トランスフォーム  
| MyTansform.mst が適用されます。

## 関連タスク

41 ページの『Orca を用いたトランスフォームの作成』

トランスフォームを使用して、各ユーザーがインストールできる一連の機能を制限し、共通プロパティを設定することができます。

54 ページの『インストール時のユーザー・インターフェースのレベルの定義』

ユーザー・インターフェース・レベル は、インストール・ユーザー・インターフェースが実行されるレベルです。ユーザー・インターフェース・レベルは、「フル」、「制限付き」、「基本」、および「ユーザー介入なし (サイレント)」の 4 つのレベルに設定することができます。デフォルトのレベルは、フル・ユーザー・インターフェースです。

46 ページの『ログ・ファイルのデフォルト・オプションの変更』

デフォルトでは、ログ・ファイル `xelinstlog.txt` および `xelinstlogmsi.txt` は、インストール時に `temp` ディレクトリの下で作成されます。コマンド行または `setup.ini` を使用して、ログ・ファイルの名前およびロケーションを変更することができます。

### ユーザーへのインストール方法の指示:

IBM System i Access for Windows をユーザーの PC 上にインストールするには、ユーザーは `setup.exe` プログラムを実行します。Active Directory などのソフトウェア配置方法を使用する場合は、アプリケーションがリモート・コンピューター上に自動的にインストールされるため、この情報をユーザーに与える必要はありません。

インストール・イメージまたは管理インストールで `setup.exe` コマンドを実行する方法についての指示をユーザーに与えます。指定する必要があるすべてのプロパティをユーザーに指示してください。詳細については、『コマンド行でのインストール、アップグレード、または変更する機能の指定』を参照してください。

トランスフォームを使用している場合、ユーザーがコマンド行でそのトランスフォームを指定する必要があります。または、管理者が `setup.ini` 内に使用するトランスフォームを指定することができます。

### Windows Installer ポリシー:

Windows Installer のシステム・ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。このことにより、Windows Installer ベースのアプリケーションのインストールまたはアンインストールを行えないようにしたり、制限されたユーザーの権限を高めてインストールを実行させるというような設定を構成することができます。

Windows Installer ポリシーには 2 種類あります。マシン・ポリシーとユーザー・ポリシーです。よく使用されるいくつかのポリシーについて、以下で簡単に説明します。

#### ユーザー・ポリシー

##### AlwaysInstallElevated

このプロパティを 1 に設定して、ユーザーの権限を高めてインストールを行えるようにします。このポリシーを有効にするためには、マシン・ポリシーも 1 に設定しなければなりません。

##### TransformsAtSource

このプロパティを 1 に設定して、ユーザーのプロファイルの「アプリケーション・データ」フォルダーにトランスフォームを保管する代わりに、Windows Installer がインストール・ソース中のトランスフォームを検索するようにします。

## マシン・ポリシー

### AlwaysInstallElevated

このプロパティを 1 に設定して、ユーザーの権限を高めてインストールを行えるようにします。このポリシーを有効にするためには、ユーザー・ポリシーも 1 に設定しなければなりません。

### DisableMSI

このポリシーを使用して、管理資格情報のないユーザーが Windows Installer のアプリケーションをインストールまたは再インストールできないようにするか、または Windows Installer のサービスを完全に使用不可にします。

すべてのインストール操作を許可するには、DisableMSI を 0 に設定します。制限されたユーザーは、System i Access for Windows をインストールすることはできません。

管理されたインストールおよび高められたインストールのみを許可するには、DisableMSI を 1 に設定します。

Windows Installer を完全に使用不可にするには、DisableMSI を 2 に設定します。

### DisablePatch

Windows Installer がパッチを適用しないようにするには、このポリシーを 1 に設定します。

### TransformsSecure

ユーザーが書き込みアクセス権をもたないロックされた場所にトランスフォームをキャッシュするように Windows Installer に通知するには、このポリシーを 1 に設定します。

Windows Installer ポリシーの詳細なリストについては、MSDN System Policy Web ページ (<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/Aa372058>) を参照してください。

## 関連情報

 [MSDN System Policy Web ページ](http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/Aa372058)

## Windows Installer ポリシーの使用:

Windows Installer ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。

Windows Installer ポリシーには 2 種類あります。マシン・ポリシーとユーザー・ポリシーです。一部のポリシーは、効力をもたせるためにマシン・ポリシーとユーザー・ポリシーの両方に設定する必要があります。

ユーザー・ポリシーは、ローカル・レジストリー内に構成することができ、レジストリー・キー (HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥Policies¥Microsoft¥Windows¥Installer) の下に置かれます。

マシン・ポリシーは、レジストリー・キー (HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Policies¥Microsoft¥Windows¥Installer) の下で構成することができます。

Group Policy コンソールを使用して Windows Installer ポリシーを設定するには、以下の手順に従います。

1. Group Policy エディターを開きます。このためには、「実行」ダイアログを開き、gpedit.msc と入力します。
2. マシン・ポリシーを設定する場合は「Computer Configuration (コンピューター構成)」、ユーザー・ポリシーを設定する場合は「User Configuration (ユーザー構成)」を選択します。

3. 「Administrative Templates (管理テンプレート)」 → 「Windows Components (Windows コンポーネント)」 → 「Windows Installer」の順に進みます。Windows Installer の使用可能なポリシーのリストが表示されます。
4. 設定するポリシーをダブルクリックします。
5. 「プロパティ」ウィンドウで、「使用可能」または「使用不可」にチェック・マークを付け、「OK」をクリックして新規設定を適用します。

#### 関連概念

32 ページの『Active Directory』

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。一群のユーザーまたはコンピューター用のパッケージを作成してから、そのパッケージをグループ・メンバーに配布することができます。

#### 関連タスク

33 ページの『Group Policy を使用した Active Directory 上での配置』

Active Directory は、Group Policy Software Installation 機能を使用したりリモート・コンピューターへの MSI ベースのアプリケーションの配布をサポートします。Windows Installer パッケージを配置するには、Group Policy オブジェクト (GPO) を作成し、それを特定のドメイン、サイト、または組織単位と関連付けます。次に、インストール・パッケージが GPO 内で作成されます。このパッケージを、GPO のリンク先のコンテナの各メンバーに配布してください。

36 ページの『Active Directory での Windows Installer ポリシーの設定』

Windows Installer システム・ポリシーを設定して、ドメインまたは組織単位のクライアント・コンピューター上で Windows Installer の動作を制御することができます。

64 ページの『PTF の入手およびインストール』

System i Access for Windows 用の修正は、配布用のプログラム一時修正 (PTF) にパッケージ化されたサービス・パックに組み込まれています。管理者は、サーバー用に最新の PTF とサービス・パックを入手して、サービスに不要な連絡をすることなく、System i Access for Windows クライアントの稼働環境をより安定させ、既知の問題を修正することができます。

## System i Access for Windows の PC へのインストール

このトピックの情報は、PC に System i Access for Windows をインストールする手順を確認する場合に使用します。

- System i Access for Windows の PC へのインストールは、ライセンス・プログラム 5761-XE1、System i Access for Windows DVD、またはインストール・ソースとして使用するために管理者が準備したロケーションから行うことができます。

**重要:** System i Access for Windows をインストールする前に、すべてのアプリケーションを終了することをお勧めします。これには、バックグラウンドで実行されていることがあるアプリケーション (例えば、スワイウェア、アドウェア、アンチウィルス、その他のマルウェア検出プログラムなど) が含まれます。

- System i Access for Windows をインストールする前に、インストールの注意点のトピックに示されている考慮事項を確認してください。

System i Access for Windows を PC にインストールするには、ご使用の環境に該当するタスクを完了してください。

#### 関連概念



20 ページの『インストールの注意点』

System i Access for Windows をご使用のコンピューターにインストールする前に、以下の情報を考慮してください。

22 ページの『SSL に関する考慮事項』

System i Access for Windows をご使用のコンピューターにインストールする前に、以下の情報を考慮してください。

### インストール・イメージの検出:

3 つのインストール・イメージがあり、PC 用のプロセッサのタイプに基づいています。32 ビットのプロセッサ、64 ビットの Itanium プロセッサ、および 64 ビットの AMD プロセッサ用にそれぞれ適した 3 つのイメージがあります。

ご使用の PC に合う正しいインストール・イメージの場所は、使用するインストール・ソースによって決まります。

### インストール・ソースとしてのライセンス・プログラム 5761-XE1 の使用:

- | System i Access for Windows ライセンス・プログラムをインストール・ソースとして使用する場合は、
- | cwblaunch.exe または setup.exe を使用してインストールを開始することができます。

いずれかの方法を使用してインストール・ウィザードを開始する場合は、3 つのインストール・イメージのいずれかが使用されます。これらのインストール・イメージは、PC 用のプロセッサのタイプに基づいています。32 ビットのプロセッサ、64 ビットのプロセッサ、および 64 ビットのプロセッサ用にそれぞれ適した 3 つのイメージがあります。

- | インストール・ウィザードの開始に使用する方法に関係なく、コマンド行を使用して共通のプロパティおよびパラメーターをプログラムに渡すことにより、インストール・ウィザードでのインストール項目の選択を自動化することができます。詳細については、コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更のトピックを参照してください。

- | 1. cwblaunch.exe または setup.exe のいずれを使用するか決めます。

#### **cwblaunch.exe**

cwblaunch.exe は、ご使用の PC 内のプロセッサを判別し、プロセッサに合う正しいインストール・イメージを使用してインストールを自動的に開始します。

#### **setup.exe**

このオプションを使用する前に、プロセッサ・タイプを知っておく必要があります。

- | 2. オプション: cwblaunch.exe を実行します。
  - a. ネットワーク・ドライブを i5/OS 上の QIBMYProdData¥Access¥Windows にマップします。
  - b. cwblaunch.exe をダブルクリックします。
  - c. このウィザードを使用して、インストールを完了します。
- | 3. オプション: setup.exe を実行します。
  - a. ご使用のプロセッサ・タイプを判別します。
    - 1) 「マイ コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
    - 2) プロセッサ・タイプは、「全般」タブにリストされています。

b. PC プロセッサ・タイプに基づいて、使用するインストール・イメージを決定します。

表 11. インストール・イメージ

プロセッサ・タイプ	インストール・イメージの場所
32 ビット	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image32
64 ビット AMD	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64a
64 ビット Itanium	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64i

c. ネットワーク・ドライブを、ご使用の PC に適するインストール・イメージの場所にマップします。

d. ご使用の PC に合う正しいインストール・イメージで setup.exe を実行します。

#### 関連概念

61 ページの『コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更』

ユーザーは、setup.exe コマンドのコマンド行パラメーターを使用してインストールされるフィーチャーをインストール、アップグレード、または変更することができます。

#### インストール・ソースとしての e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 の使用:

- | e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 をインストール・
- | ソースとして使用する場合は、cwblaunch.exe または setup.exe を使用してインストールを開始することが
- | できます。

いずれかの方法を使用してインストール・ウィザードを開始する場合は、3 つのインストール・イメージのいずれかが使用されます。これらのインストール・イメージは、PC 用のプロセッサのタイプに基づいています。32 ビットのプロセッサ、64 ビットの Itanium プロセッサ、および 64 ビットの AMD プロセッサ用にそれぞれ適した 3 つのイメージがあります。

- | インストール・ウィザードの開始に使用する方法に関係なく、コマンド行を使用して共通のプロパティお
- | よびパラメーターをプログラムに渡すことにより、インストール・ウィザードでのインストール項目の選択
- | を自動化することができます。詳細については、コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変
- | 更のトピックを参照してください。

- | 1. cwblaunch.exe または setup.exe のいずれを使用するか決めます。

#### | cwblaunch.exe

- | cwblaunch.exe は、ご使用の PC 内のプロセッサを判別し、プロセッサに合う正しいインス
- | トール・イメージを使用してインストールを自動的に開始します。

#### setup.exe

- | このオプションを使用する前に、プロセッサ・タイプを知っておく必要があります。

- | 2. オプション: cwblaunch.exe を実行します。

- | a. 「マイ コンピュータ」で DVD の内容を表示します。
- | b. cwblaunch.exe をダブルクリックします。
- | c. このウィザードを使用して、インストールを完了します。

- | 3. オプション: setup.exe を実行します。

- | a. ご使用のプロセッサ・タイプを判別します。
  - 1) 「マイ コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
  - 2) プロセッサ・タイプは、「全般」タブにリストされています。

b. PC プロセッサ・タイプに基づいて、使用するインストール・イメージを決定します。

表 12. インストール・イメージ

プロセッサ・タイプ	インストール・イメージの場所
32 ビット	Windows¥Image32
64 ビット AMD	Windows¥Image64a
64 ビット Itanium	Windows¥Image64i

c. ご使用の PC に合う正しいインストール・イメージで setup.exe を実行します。

#### ユーザー独自のインストール DVD の作成:

System i Access for Windows をインストールするためのユーザー独自の DVD を作成するには、i5/OS 上に 5761-XE1 System i Access for Windows をインストールしてから、QIBM¥ProdData¥Access¥Windows を DVD に焼き付けます。

シングル・プロセッサ・タイプの場合は、インストール・イメージのみを用いて DVD を作成することができます。32 ビットのインストール・イメージのみを組み込む場合は、QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image32 を焼き付けます。64 ビットの AMD イメージのみを組み込む場合は、QIBM¥ProdData¥Access¥windows¥Image64a を焼き付けます。64 ビットの Itanium イメージのみを組み込む場合は、QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64i を焼き付けます。

また、DVD に組み込む言語を決めることができます。組み込む言語ごとに、System i Access for Windows 用の System i プラットフォーム上に当該言語をインストールします。

関連情報については、60 ページの『インストール・ソースとしての e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 の使用』を参照してください。

#### インストール・ソースとして複数の PC にインストールする準備が整えられたインストール・イメージの使用:

管理者は、インストール・ソースが置かれている場所およびインストールの開始方法をユーザーに指示します。インストールの開始方法は、管理者が選択した配置方法のタイプによって異なります。

#### コマンド行パラメーターを使用したインストール動作の変更:

ユーザーは、setup.exe コマンドのコマンド行パラメーターを使用してインストールされるフィーチャーをインストール、アップグレード、または変更することができます。

注: 以下の例では、setup.exe コマンドを使用します。各パラメーターは、cwblaunch.exe コマンドに対しても同様に機能します。

インストールする前に、ユーザーは、インストール・イメージを含むディレクトリーに合わせて各ディレクトリーを変更する必要があります。このイメージにマップされたネットワーク・ドライブがなければなりません。ない場合は、インストール・イメージの場所は以下のとおりです。

表 13. インストール・イメージの場所

プロセッサ・タイプ	インストール・ソース	インストール・イメージの場所
32 ビット	e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース I	Windows¥Image32
	ライセンス・プログラム 5761-XE1	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image32
64 ビット AMD	e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース I	Windows¥Image64a
	ライセンス・プログラム 5761-XE1	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64a
64 ビット Itanium	e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース I	Windows¥Image64i
	ライセンス・プログラム 5761-XE1	QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image64i

- フィーチャーをインストール、アップグレード、または追加するには、`setup /vADDLOCAL=featurename` と入力します。ここで、*featurename* はフィーチャーの内部名です。フィーチャー名のリストについては、表 14を参照してください。
- 複数のフィーチャーを組み込むには、次の例のように、コンマで各フィーチャーを区切ります (例: `setup /vADDLOCAL=dir,irc,emu`)。
- すべてのフィーチャーをインストール、アップグレード、または追加するには、`setup /vADDLOCAL=ALL` と入力します。
- インストールまたはアップグレードの後でフィーチャーを除去するには、`setup /vREMOVE=featurename` と入力します。ここで、*featurename* はフィーチャーの内部名です。フィーチャー名のリストについては、表 14を参照してください。
- 製品を除去するには、`setup /vREMOVE=ALL` と入力します。
- 適用するトランスフォームを指定するには、`Setup /vTRANSFORMS=transform1.mst,transform2.mst,...` と入力します。

注: 2 つ以上のオプションを組み合わせて */v* パラメーターに入れる場合、またはオプションの値にスペースが含まれている場合は、次の例のように、アポストロフィでオプションを囲む必要があります。

```
setup /v"ADDLOCAL=dir TRANSFORMS=MyTransform.mst"
```

表 14. フィーチャー名

フィーチャー	フィーチャーの内部名
必須プログラム	req
ディレクトリー更新	dir
受信リモート・コマンド	irc
データ転送	dt
データ転送 Excel アドイン	dtexcel
ODBC	odbc
OLE DB Provider	oledb
Lotus 123 File Format Support	lotus123
.NET Data Provider	dotnet

表 14. フィーチャー名 (続き)

フィーチャー	フィーチャーの内部名
AFP Workbench Viewer	viewer
5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター	emu
Secure Socket Layer (SSL)	ssl
AFP プリンター・ドライバー	afp
SCS プリンター・ドライバー	scs
オペレーション・コンソール	oc
ヘッダー、ライブラリー、および資料	hld
System i ナビゲーター (基本サポート)	inav
基本オペレーション	inavbo
実行管理機能	inavwm
構成およびサービス	inavcfg
ネットワーク	inavnet
統合サーバー管理	inavisa
セキュリティー	inavsec
ユーザーおよびグループ	inavug
データベース	inavdb
ファイルシステム	inavfs
バックアップ	inavback
コマンド	inavcmd
パッケージおよび製品	inavpp
モニター	inavmon
論理システム	inavlog
AFP Manager	inavafp
アプリケーション管理	inavad
Toolbox for Java	tbj
注: フィーチャーの名前は大文字小文字が区別されません。	

## 1 コマンド行からの共通プロパティの設定

1 コマンド行から共通プロパティを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
1 setup /vPUBLIC_PROPERTIES=value
```

1 共通プロパティのリストについては、47 ページの『共通プロパティ』のトピックを参照してください。

## 1 ユーザー・インターフェース・レベルの制御

1 ユーザー・インターフェース・レベルの制御については、54 ページの『インストール時のユーザー・インターフェースのレベルの定義』のトピックを参照してください。

### 関連タスク

28 ページの『バッチ・プログラムの使用』

事前定義パラメーターを使用して `setup.exe` を実行するためのバッチ (.bat) ファイルを作成して、インストール・プロセスを自動化することができます。この場合は、ユーザーはコマンド・プロンプトでオプションを指定する必要はありません。

59 ページの『インストール・ソースとしてのライセンス・プログラム 5761-XE1 の使用』

System i Access for Windows ライセンス・プログラムをインストール・ソースとして使用する場合は、`cwblaunch.exe` または `setup.exe` を使用してインストールを開始することができます。

## サービス・パックを複数の PC にインストールするための準備

最新の PTF およびサービス・パックを確実にインストールすることによって、既に修正が適用された問題について不必要にサービスに連絡することを避け、System i Access for Windows クライアントに、より安定した稼働環境を作ることができます。

- | System i Access for Windows のサービス・レベル検査機能は、i5/OS に適用した PTF があれば検出し、
- | その修正をダウンロードします。

サービス・パックは、Windows Installer のパッチとしても使用できます。パッチは、サービス・パックの修正をインストールするために System i Access for Windows のローカル・インストールに適用できます。あるいは、ネットワーク・インストール・ポイントを更新状態に保ちエンド・ユーザーがそこから修正を取得できるようにするために管理ソース・イメージに適用できます。

**重要:** System i ナビゲーターのプラグインに対する PTF は、System i Access for Windows のサービス・パックとは別に提供されます。

サービス・パックの更新を実行できるのは、機密保護管理者権限を持つユーザーのみです。ただし、管理者は、エンド・ユーザーに管理者権限なしでサービス・パックの更新タスクを実行する許可を与えることはできません。

### 関連タスク

29 ページの『リモートでスケジュールされたタスクの使用』

Windows オペレーティング・システムのスケジュールされたタスク機能をリモート・アクセスで使用すると、ユーザーは管理者特権なしで、System i Access for Windows のインストールおよびアップグレード、ならびにサービス・パックのインストールを行うことができます。

### | PTF の入手およびインストール:

- | System i Access for Windows 用の修正は、配布用のプログラム一時修正 (PTF) にパッケージ化されたサービス・パックに組み込まれています。管理者は、サーバー用に最新の PTF とサービス・パックを入手し
- | て、サービスに不要な連絡をすることなく、System i Access for Windows クライアントの稼働環境をより
- | 安定させ、既知の問題を修正することができます。

- | サービス・パック PTF は、システム上の System i Access for Windows インストール・イメージを更新し
- | ます。このイメージに基づくすべてのクライアント・インストールにおいて、ホストの最新のサービス・パ
- | ック・レベルが反映されます。

- | **注:** インストール、サービス・パックの更新、および新規リリースへのアップグレードを行えるのは、機密
- | 保護管理者権限を持つユーザーのみです。ただし、管理者権限を持たないエンド・ユーザーに、スケ
- | ュールされたタスクをリモートでアクセスする許可を与えることはできません。あるいは、
- | AlwaysInstallElevated ポリシーを設定することができます。説明については、『Windows Installer ポリ
- | シーの使用』を参照してください。



- | サービス・パックを入手およびインストールするには、以下のステップに従います。
- | ご使用のシステムにインストールする最新の PTF を入手します。
- | • PTF 注文の送信 (SNDPTFORD) コマンドを使用して、ご使用のシステムの PTF を注文します。
- | サービス・パック PTF は通常、電子的に送信できるサイズの限界を超えているので、送達方法パラメーター DELIVERY を \*ANY に変更することで、メディアに入れた PTF を受け取ることができます。
- | • Fix Central を使用して、ご使用のシステムの PTF を入手します。
- | • サービス・パック CD を電子的に注文し、それを、インストール元の仮想光ディスク装置の統合ファイル・システムに直接置きます。このオプションを使用するには、IBM サービスとの事前の取り決めが必要です。
- | これらの PTF 注文オプションについて詳しくは、<http://www.ibm.com/servers/eserver/support/iseries/index.html> (<http://www.ibm.com/servers/eserver/support/iseries/index.html>) を参照します。「Popular links (一般リンク)」の下で、「Fixes (修正)」を選択します。

| ホスト・システムに PTF をインストールした後は、サービス・レベルの検査機能を使用して、クライアント PC にサービス・パックを配布できます。

#### | 関連タスク

- | 57 ページの『Windows Installer ポリシーの使用』
- | Windows Installer ポリシーを使用して、クライアント・コンピューター上の Windows Installer の動作を制御することができます。

#### | 関連情報

- |  Fix Central (<http://www.ibm.com/eserver/support/fixes/fixcentral/main/iseries/>)
- |  IBM System i サポート (<http://www.ibm.com/servers/eserver/support/iseries/index.html>)

#### | サービス・レベルの検査機能:

- | サービス・レベルの検査は、System i Access for Windows の 1 機能です。この機能を使用して、システム上で System i Access for Windows と関連コンポーネントへの更新を検出したり、クライアント PC にサービス・パックを配布したりすることができます。
- | サービス・レベルの検査機能では、i5/OS を自動的に検査して、すべてのインストール済みコンポーネントへの更新の有無を調べます。有効な更新がある場合は、ユーザーに対して通常は、更新を適用するかどうかを尋ねるアラートが表示されます。これにより、マイナー・アップグレード・モードでインストール・ウィザードが開始され、該当する機能が更新されます。
- | サービス・レベルの検査用に以下のオプションを設定することができます。
- | • サービス・レベルの検査の実行時点
- | • サービス・レベルを検査する日付
- | • サービス・レベルを検査するまでの日数
- | • サービス・レベルの検査を遅らせる (ログオン後に) 時間 (分)
- | 注: 上記の機能に対して、ポリシーで制限を設定できます。例えば、ポリシーでサービス・レベルの検査間隔 (日数) を制御するために特定の値を設定した場合、上記のパラメーターを変更してこの値を無効にすることはできません。

## 関連概念

9 ページの『PTF の入手およびインストール』

ご使用のシステムに対して最新の PTF とサービス・パックを入手すれば、サービスに不要な連絡をすることなく、より安定した稼働環境を作ることができます。

### サービス・レベルの検査のプロパティの設定:

サービス・レベルの検査のプロパティにより、ダウンロードする新規の修正について、サービス・レベルの検査を行う時点および頻度を指定することができます。

サービス・レベルの検査のプロパティを設定するには、次のようにします。

1. System i Access for Windows プログラム・グループの **System i Access for Windows** 「プロパティ」アイコンをダブルクリックします。
2. 「サービス」タブをクリックします。
3. 値を変更して、「OK」をクリックします。

注: SCHEDCHECK パラメーターで、頻度設定値をオーバーライドします。(SCHEDCHECK について詳しくは、製品に付属しているオンライン・ヘルプ・システムである「*IBM System i Access for Windows ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。)

### サービス・レベルの検査のスケジューリング:

サービス・レベルの検査が一定の間隔で実行されるようにスケジュールに入れるためのバッチ・ファイルを作成することができます。

サービス・レベルの検査が一定の間隔で実行されるようにスケジュールに入れるには、サービス・レベルの検査を実行する .bat ファイルを作成してから、**at** コマンドを使用して、バッチ・ファイルを実行すべき時点を指定します。

1. スケジューラーが呼び出す .bat ファイルを作成します。

- サービス・レベルの検査で「System i Access for Windows のプロパティ」の「サービス」タブのパラメーターを使用させるには、.bat ファイルに次のような文字列を書き込みます。

```
c:¥...¥Client~1¥CWBACKVER.EXE LOGIN
```

- スケジュール・エントリーが開始するたびにサービス・レベルの検査を実行させるには、.bat ファイルに次のような文字列を書き込みます。

```
c:¥...¥Client~1¥CWBACKVER.EXE SCHEDCHECK
```

2. サービス・レベルの検査をスケジュールに入れるには、**at** コマンドを使用します。例えば、次のように入力します。

```
at 10:00/INTERACTIVE/EVERY:15 "c:¥scheddir¥ckverscd.bat"
```

これによって、毎月 15 日の午前 10 時に、サービス・レベルの検査が開始します。

注: この例では、ディレクトリー `c:¥scheddir` 内の `ckverscd.bat` という .bat ファイルを使用しています。  
.bat ファイル名とそれが入るディレクトリーは、任意に指定できます。

スケジュール・エントリーが開始すると、デスクトップでコマンド・プロンプト・ウィンドウが開きます。サービス・レベルの検査は、ユーザーにメッセージ・ボックスとインストール・ウィザードのプロンプトを出します。ユーザー・インターフェースは、Windows 管理者がサービス・レベルの検査を実行するときに表示されるインターフェースと同じです。



## サービス・パックおよびリリース・アップグレードの制御:

System i Access for Windows により、製品の新しいサービス・レベルを各ユーザーがインストールできる時点を制御することができます。サービス・レベルは、サービス・パックまたはリリース・アップグレードのいずれでも構いません。

この制御は、SP.TXT という名前のファイルの存在および内容に基づいています。ご使用のワークステーションの修正サービス・レベルを検査するプログラムは、サービス・ソース・ディレクトリー内のインストール・イメージと同じディレクトリー内の SP.TXT ファイルを探します。サービス・パックおよびリリース・アップグレードの場合は、このファイルは ¥¥servername¥QIBM¥ProdData¥Access¥Windows¥Image32、Image64a、および Image64i 内にあります。

表 15. SP.TXT の内容

SP.TXT の先頭行	説明
N	ユーザーは新しいサービス・レベルをインストールできません。
Y	ユーザーは新しいサービス・レベルをインストールできます。
U	ユーザーはアップグレードをインストールできますが、サービス・パックをインストールできません。
S	ユーザーはサービス・パックをインストールできますが、アップグレードをインストールできません。

SP.TXT ファイルがインストール・ディレクトリー内に存在しない場合は、ワークステーション・ユーザーは新しいサービス・レベルをインストールすることができます。

### 例:

各ユーザーがサービス・パックまたはリリース・アップグレードをインストールすることを許可しない SP.TXT の例:

```
=====  
N  
=====
```

各ユーザーがサービス・パックまたはリリース・アップグレードをインストールすることを許可する SP.TXT の例:

```
=====  
Y (optional)  
text that the administrator wants  
you to read before applying a  
corrective service level.  
=====
```

### ダウンロード・サイトからのサービス・パック:

#### サービス・パックのダウンロード・サイト:

PC 上で実行できるサービス・パックは、System i Access for Windows サービス・パックのページおよび IBM FTP サイトから入手できます。

サービス・パックは、2 つの形式 (フルインストール・イメージおよびパッチ) で入手できます。フルインストール・サービス・パックには、最新の修正を用いて更新されたすべてのソース・インストール・ファイルが含まれています。このフル・イメージをダウンロードしてから各ユーザーにこの新規イメージから再インストールさせるか、または配置方法を使用する場合はこのイメージを再配置することができます。フル・

イメージから再インストールすることにより各ユーザーにサービス・パックをインストールさせたい場合は、各ユーザーは `setup.exe` を再度実行する必要があります。1 つ以上のトランスフォームがアプリケーションの初期インストール時に適用された場合は、これらのトランスフォームは効力を保ちます。

パッチはアプリケーション・ソース・ファイルに対する修正のみを含むファイルであるため、サイズはフル・イメージより小さくなります。サービス・パック・パッチをダウンロードする場合は、これを使用して既存の管理イメージにパッチを適用し、そこから System i Access for Windows のローカル・インストールをエンド・ユーザーに更新させることができます。あるいは、各ユーザーがローカル PC にパッチを直接適用できるようにすることができます。

パッチは、`.exe` フォーマットで配布されます。

- System i Access for Windows サービス・パックのページ: <http://www.ibm.com/servers/eserver/series/access/casp.html>

- IBM FTP サイト: <ftp://ftp.software.ibm.com>

`as400/products/clientaccess/win32/v6r1m0/servicepack` までナビゲートします。

#### 関連概念

9 ページの『PTF の入手およびインストール』

ご使用のシステムに対して最新の PTF とサービス・パックを入手すれば、サービスに不要な連絡をすることなく、より安定した稼働環境を作ることができます。

#### 管理インストール・イメージへのパッチの適用:

ダウンロード・サイトからパッチを適用して、管理イメージを更新することができます。各ユーザーは、更新済み管理イメージから System i Access for Windows を再インストールするときに、最新の更新情報を取得します。このロケーションからの新規インストールには、最新のサービス修正も含まれます。

管理ソース・イメージにパッチを適用するには、以下のステップに従います。

**注:** DVD からコピーされたソース・イメージにパッチを適用することはできません。管理インストール・イメージを作成する必要があります。

1. System i Access for Windows Service Packs ページ (<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/access/casp.html>) から該当する `Update.exe` ファイルをダウンロードします。

2. `Update.exe` ファイルを管理イメージ・ルート・ディレクトリーにコピーします。

3. `Update /v"/a cwbininstall.msi"` コマンドを実行します。

`cwbininstall.msi` が `Update.exe` とは異なるロケーションにある場合は、パスを `cwbininstall.msi` に渡す必要があります (例: `Update /v"/a path_to_cwbininstall¥cwbininstall.msi"`)。

パスにスペースが含まれている場合は、次の例のように、引用符を使用します。内側の引用符は、円記号 (¥) を使用してエスケープさせる必要があることに注意してください (例: `Update /v"/a ¥"C:¥Admin Image¥cwbininstall.msi¥"`)。

#### Active Directory でのサービス・パックの配布:

Active Directory をネットワークでの配置方法として使用する場合は、サービス・パックをグループ・ポリシー・オブジェクト内の各ユーザーに配布することができます。

各クライアントをアップグレードするには、最新のサービス・レベル修正を含む更新済みイメージが必要です。

初期配置のソースとして DVD または IBM FTP サイトからのフルインストール・イメージを使用した場合は、<ftp://ftp.software.ibm.com/> から更新済みフル・イメージを取得し、サーバー内の旧イメージと置き換える必要があります。

初期配置のソースとして管理イメージを使用した場合は、イメージをアップグレードする最も簡単な方法は、Service packs サイトからサービス・パックのパッチ・フォーマットをダウンロードし、管理イメージにパッチを適用することです。あるいは、更新済みフル・イメージをダウンロードします。

注:

1. 常に同じタイプのイメージを使用して、各クライアントをアップグレードしてください。最初に管理イメージからの配置を行った場合は、管理イメージを使用してサービス・パックを配布する必要があります。
2. Active Directory を用いて個々のパッチを配布することはできません。

更新済みイメージを配置するには、以下の手順に従います。

1. 旧フル・イメージを更新済みイメージと置き換えるか、または管理イメージにパッチを適用します。管理イメージへのパッチの適用については、68 ページの『管理インストール・イメージへのパッチの適用』を参照してください。
2. 「**Group Policy Editor (グループ・ポリシー・エディター)**」を開き、インストール・パッケージを含むグループ・ポリシー・オブジェクトを編集します。
  - a. グループ・ポリシー・オブジェクトが作成されたコンテナを右クリックします。
  - b. 「プロパティ」をクリックします。
  - c. 「**Group Policy (グループ・ポリシー)**」タブを選択し、インストール・パッケージを含むグループ・ポリシー・オブジェクトを選択します。
  - d. 「編集」をクリックして、Group Policy Editor を開きます。
3. 「**Computer Configuration (コンピューターの構成)**」 → 「**Software Settings (ソフトウェアの設定)**」 → 「**Software Installation (ソフトウェアのインストール)**」の順に進みます。
4. System i Access for Windows 用のパッケージを右クリックします。
5. 「**All Tasks (すべてのタスク)**」 → 「**Redeploy (再配置)**」と選択します。

アプリケーションは、次回の再始動時に各ターゲット・コンピューター上でアップグレードされます。

**SMS でのサービス・パックの配布:**

Microsoft Systems Management Server をネットワークでの配置方法として使用する場合は、新規プログラムを配布して、サービス・パックを各ユーザーに配布することができます。

サービス・パックは 2 つの方法で配布することができます。更新済みフル・イメージを用いてクライアントを再インストールする方法と、個々のパッチを配布する方法です。

**更新されたフル・イメージからのクライアントの再インストール:**

更新されたフル・イメージからクライアントを再インストールすることによって、サービス・パックを配布することができます。各クライアントをアップグレードするには、最新のサービス・レベル修正を含む更新済みイメージが必要です。

初期配置のソースとして DVD または IBM FTP サイトからのフルインストール・イメージを使用した場合は、Web サイト <ftp://ftp.software.ibm.com/> から更新済みフル・イメージを取得する必要があります。

初期配置のソースとして管理イメージを使用した場合は、イメージをアップグレードする最も簡単な方法は、Service packs サイトからパッチをダウンロードし、管理イメージにパッチを適用することです。あるいは、更新済みフル・イメージをダウンロードします。

ご使用のパッケージを更新するには、以下の 3 つの方法があります。

- パッケージの元のソースを更新されたフル・イメージと置き換える
- ソースとして元の管理イメージを使用している場合は、そのイメージにパッチを適用する
- 更新するパッケージ用に別のソースをもつ

ほとんどの場合、元のソースを更新されたイメージと置き換えるか、または元の管理イメージにパッチを適用するのが、最良の解決方法です。しかし、新たに別のソースをもつ利点として、新しいパッケージのアドバタイズメントを受け取っていても元のソースを必要とするクライアントがいた場合に、元のソースに引き続きアクセスできるという点があります。いったんサービス・パックのアドバタイズメントが配布されれば、クライアントは新しいソースをポイントします。

**注:** 常に同じタイプのイメージを使用して、各クライアントをアップグレードしてください。最初に管理イメージからの配置を行った場合は、管理イメージを使用してサービス・パックを配布する必要があります。

更新済みイメージを配置するには、以下の手順に従います。

1. 旧フル・イメージを更新済みイメージと置き換えるか、または管理イメージにパッチを適用します。説明については、68 ページの『管理インストール・イメージへのパッチの適用』を参照してください。
2. 更新パッケージを作成します。更新済みイメージからサービス・パックを配布するには、SMS パッケージを作成する必要があります。以下の手順では、パッケージを作成するための基本的な設定について説明します。
  - a. SMS Administrator Console を開きます。
  - b. 「パッケージ」フォルダーを右クリックし、「新規」 → 「パッケージ」と選択します。
  - c. 「全般」ページで、パッケージの名前を指定します。
  - d. 「Data Source (データ・ソース)」ページで、「**This Package Contains Source Files (このパッケージはソース・ファイルを含む)**」を選択します。
  - e. 「設定」をクリックします。「Set Source directory (ソース・ディレクトリの設定)」ウィンドウが開きます。更新済みソース・イメージのロケーションを表示します。
  - f. 新規パッケージ内にプログラムを作成します。
  - g. 新規プログラムを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
  - h. 「全般」ページで、以下のプロパティを構成します。
    - 「**コマンド行**」フィールドで、`setup.exe` と入力します。`setup.exe` には、任意の有効なコマンド行引数を入力することができます。例えば、サイレント・インストールを指定するには、`setup /s /v/qn` と入力します。
    - 「**After running (実行後)**」リストで、「**No Action Required (アクション不要)**」を選択します。REBOOT 共通プロパティを S に設定しない限り、System i Access for Windows インストーラーは通常、アップグレード後のシステム・リブートをスケジュールに入れます。詳細については、共通プロパティのリストを参照してください。
  - i. 「**Environment (環境)**」ページで、以下のオプションを設定します。
    - 各ユーザーがインストール・ウィザードと対話できるようにしたい場合は、「**Program can run (プログラム実行可能)**」で、「**Only When A User Is Logged On (ユーザーのログオン時のみ)**」を選択します。

- 「**Run with administrative rights (管理権限による実行)**」が選択されていることを確認します。

該当のユーザーに管理権限がなく、かつこのオプションが選択されない場合は、System i Access for Windows のインストールは行われません。

- j. 「**Advanced (拡張)**」ページで、「**When This Program Is Assigned To A Computer (このプログラムがコンピューターに割り当てられる時点)**」フィールドの「**Run Once For The Computer (コンピューターに対して 1 回だけ実行)**」を選択します。
  - k. 「**OK**」をクリックして、プログラム設定値を保管します。
3. パッケージを配布ポイントに配布します。

#### 関連資料

47 ページの『共通プロパティ』

共通プロパティを使用して、インストールのデフォルト動作の変更 (例えば、デフォルトのインストール・ディレクトリの変更、PC52550 エミュレーターのデフォルト・バージョンの変更、リブート・プロンプトのオン/オフなど) を行うことができます。共通プロパティは、コマンド行で設定するか、あるいはトランスフォームまたは `setup.ini` を用いて定義することができます。

#### クライアントへのパッチの配布:

フル・イメージをクライアントに配置する代わりに、クライアント PC にローカルに適用されるように個々のパッチを配布することができます。パッチはフル・イメージより小さいため、処理能力は少なくて済みます。

ソフトウェア SMS を使用してパッチをインストールするには、以下のステップに従います。

1. ダウンロード Web サイトから最新のサービス・パックのパッチを取得します。
2. 更新パッケージを作成します。
3. 新規パッケージ用のプログラムを作成します。
  - a. SMS Administrator Console を開きます。
  - b. 「**パッケージ**」フォルダーを右クリックし、「新規」 → 「パッケージ」と選択します。
  - c. 「**全般**」ページで、パッケージの名前を指定します。
  - d. 「**Data Source (データ・ソース)**」ページで、「**This Package Contains Source Files (このパッケージはソース・ファイルを含む)**」を選択します。
  - e. 「**設定**」をクリックします。「**Set Source directory (ソース・ディレクトリの設定)**」ウィンドウが開きます。更新済みソース・イメージのロケーションを表示します。
  - f. 新規パッケージ内にプログラムを作成します。
  - g. 新規プログラムを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
  - h. 「**全般**」ページで、以下のプロパティを構成します。
    - 「**コマンド行**」フィールドで、`Update.exe` と入力します。サイレント・インストールの場合は、`update /s /v/qn` と入力します。
    - 「**After running (実行後)**」リストで、「**No Action Required (アクション不要)**」を選択します。REBOOT 共通プロパティを S に設定しない限り、System i Access for Windows インストーラーは通常、アップグレード後のシステム・リブートをスケジュールに入れます。
  - i. 「**Environment (環境)**」ページで、以下のオプションを設定します。
    - 各ユーザーがインストール・ウィザードと対話できるようにしたい場合は、「**Program can run (プログラム実行可能)**」で、「**Only When A User Is Logged On (ユーザーのログオン時のみ)**」を選択します。

- l • 「**Run with administrative rights (管理権限による実行)**」が選択されていることを確認します。
  - l 該当のユーザーに管理権限がなく、かつこのオプションが選択されない場合は、System i Access for Windows のインストールは行われません。
  - l j. 「**Advanced (拡張)**」ページで、「**When This Program Is Assigned To A Computer (このプログラムがコンピューターに割り当てられる時点)**」フィールドの「**Run Once For The Computer (コンピューターに対して 1 回だけ実行)**」を選択します。
  - l k. 「**OK**」をクリックして、プログラム設定値を保管します。
4. パッケージを配布ポイントに配布します。

#### l 個々のパッチを各ユーザーが使用できるようにする:

- l サービス・パック・パッチをローカル・インストールに適用することができます。ローカル・インストールを更新するためのパッチを各ユーザーが使用できるようにすることができます。
- l パッチを各ユーザーが使用できるようにするには、Update.exe を NetServer 共有フォルダー、または各ユーザーがアクセス可能なネットワーク・ドライブにコピーします。
- l 各ユーザーは、Update.exe を実行してパッチを適用します。Update.exe を開始すると、進行状況表示バーが表示されます。Windows Installer は、インストールされているフィーチャーのみを更新します。

## PC へのサービス・パックのインストール

最新のサービス・パックを確実にインストールすることによって、既に修正が適用された問題について不必要にサービスに連絡することを避け、System i Access for Windows クライアントに、より安定した稼働環境を作ることができます。

System i Access for Windows ではすべてのコード修正が 1 つのサービス・パックに組み込まれています。最新のサービス・パックには、現行サービス・パックに含まれる新しい修正に加えて、以前のサービス・パックからのすべての修正が含まれます。サービス・パックを使用可能にする主な方法は、サービス・パックを PTF としてパッケージ化することです。

サービス・パック PTF がライセンス・プログラム 5761-XE1 に適用されているときは、元の System i Access for Windows のインストール・イメージは更新されます。この更新されたインストール・イメージからインストールされるクライアントがあれば、新しい System i Access for Windows のリリースに加えてサービス・パック・レベルが同時に得られます。

インストール・ソース・ディレクトリーが、PTF が適用される System i に設定される場合は、バージョン検査機能が PTF を検出し、修正を用いて PC を更新します。System i ナビゲーターのプラグインに関して、プラグイン用のソース・ディレクトリーに修正が適用される場合は、System i ナビゲーターのプラグインも更新されます。

#### 重要:

- System i ナビゲーターのプラグインに対する PTF は、System i Access for Windows のサービス・パックとは別に提供されます。
- サービス・パックの更新を実行できるのは、機密保護管理者権限を持つユーザーのみです。

権限に関する情報、および PTF とサービス・パックに関する詳細な指示と情報については、以下のトピックを選択して参照してください。

#### 関連概念

9 ページの『PTF の入手およびインストール』

ご使用のシステムに対して最新の PTF とサービス・パックを入手すれば、サービスに不要な連絡をすることなく、より安定した稼働環境を作ることができます。

#### サービス・レベルの検査を使用したサービス・パックのインストール:

サービス・レベルの検査機能は、システム内の使用可能な更新情報を検索し、ローカル PC 上に System i Access for Windows のサービス・パックを自動的にインストールします。

管理者が、定期的かつ自動的に実行するためにサービス・レベルの検査機能をスケジュールに入れている可能性があります。サービス・レベルの検査機能の構成方法によっては、サービス・レベルの検査機能に System i Access for Windows を更新させるかどうかを尋ねるプロンプトが出されるか、またはサービス・パックのインストールがユーザーのアクションを必要とせずに開始されることがあります。

サービス・レベルの検査機能を手動で使用してサービス・パックをインストールするには、以下の手順に従います。

1. 「スタート」メニューを開きます。

2. 「プログラム」 → System i Access for Windows → 「サービス」 → 「サービス・レベルの検査」の順に進みます。使用可能な更新情報を含んだウィンドウが開きます。

#### 更新されたフルインストール・イメージからのサービス・パックのインストール:

管理者によって準備された更新済みフルインストール・イメージからの再インストールにより、System i Access for Windows のローカル・インストールを更新することができます。

フルインストール・イメージは、NetServer を介して共用される i5/OS 上の更新済みフル・イメージ、ネットワーク・ドライブ上に常駐するダウンロード Web サイトからダウンロードされたフル・イメージ・サービス・パック、または管理者によってパッチを適用された管理イメージとすることができます。

以下の手順に従って、フルインストール・イメージから再インストールすることにより、System i Access for Windows を新しいサービス・レベルに更新します。

1. System i Access for Windows の更新済みソース・イメージが置かれている場所を表示します。

2. Setup.exe を入力します。インストール・ウィザードがマイナー・アップグレード・モードで開始されます。マイナー・アップグレードの際は、進行状況表示バーのみが表示されます。

一部のフィーチャーのみを更新する場合は、`setup /v"REINSTALL=feat1,feat2,..REINSTALLMODE=vomus"` と入力します。ここで、*feat1*、*feat2* などは、更新するフィーチャーの名前です。

#### パッチ適用によるサービス・パックのインストール:

管理者は、個別のサービス・パック・パッチを使用して System i Access for Windows のクライアント・インストールを更新することを決めている可能性があります。

System i Access for Windows を更新するためにサービス・パック・パッチを適用するには、以下の手順に従います。

1. サービス・パック・パッチが置かれている場所を表示します。

2. Update.exe をダブルクリックします。これにより、更新が開始されます。サイレント・モードで Update.exe を起動するには、コマンド・プロンプトで `Update /s /v/qn` と入力します。

- | 注: このパッチがサイレント・モードで起動した場合は、PC が自動的にリブートされます。サイレント更新により PC が再始動しないようにするには、Update /s /v"/qn REBOOT=R" と入力します。
- | PC を手動で再始動する必要があります。
- | 3. 「更新」をクリックして、パッチのインストールを開始します。インストールの進行状況を示すダイアログが表示されます。
- | 4. 更新が完了したら、「終了」をクリックし、プロンプトが出された場合は PC を再始動します。

## System i ナビゲーター への新規機能の組み込み

プラグインを使用して、新規機能を System i ナビゲーター に組み込みます。ご使用のプラグインのインストール、アンインストール、除去、および更新を行うことができます。

プラグインはホスト・システムのソース・ディレクトリーにあり、これを使用すると、新規機能またはアプリケーションを System i ナビゲーター に組み込むことができます。その結果、一般に次のものが追加されます。

- フォルダーおよびオブジェクト (階層ツリーに)
- 選択項目 (System i ナビゲーター のメニューに)
- プロパティ・ページ (フォルダーまたはオブジェクト用のプロパティ・シートに)

- | インストール・プロセスの一部として、エンド・ユーザーにプラグインを配布することができます。プラグインがインストール・ソースに存在する場合は、製品インストールの終了時にそのプラグインのインストールを求めるプロンプトが出されます。

インストール・ソースにプラグインが存在しない場合は、System i ナビゲーターの「プラグインのインストール」タスクを使用して、またはサーバー上でプラグインがインストールされているソース・ロケーション (以下のディレクトリーのいずれか) から保守インストールを実行して、別個のインストール可能コンポーネントとしてプラグインをインストールすることができます。

プラグイン	位置
IBM	(i5/OS NetServer name)¥QIBM¥ProdData¥OpNavPlugin
サード・パーティー	(i5/OS NetServer name)¥QIBM¥UserData¥OpNavPlugin

注: System i ナビゲーターは、指定された場所から、インストールで使用できるプラグインをすべて表示します。ただし、クライアントとホストが同じバージョン、リリース、および修正 (VxRxMx) レベルでない場合は、オプションとしてインストール可能な System i Access for Windows のコンポーネントによっては表示されないものがあります。

インストール後、System i ナビゲーターの「プラグインのアップグレード/保守」機能を使用してプラグインを保守することができます。

CWBINSTALLPLUGINS プロパティを使用して、プラグインをインストールすることもできます。詳細については、共通プロパティを参照してください。

プラグインをサイレント・モードでインストールまたは除去するには、CWBSILENTPLG プロパティを使用します。詳細については、共通プロパティを参照してください。



## プラグインのアップグレードまたは保守

プラグインを更新するには、更新済みのファイルをホストのプラグイン・インストール・ソース・ディレクトリにコピーするだけです。更新ファイルをホストにコピーした後でクライアント PC を更新するには、次の 2 つの方法があります。

- 製品全体を保守する場合は、インストール・プログラムは、アップグレードを必要とするプラグインがないかソース・ディレクトリを検査します。アップグレードを必要とするプラグインがある場合は、インストール・プログラムは、プラグインを更新するためのプラグイン・インストール・プログラムを実行します。
- プラグインのみを保守する場合は、System i ナビゲーターの「プラグインのアップグレード/保守」機能を使用します。このオプションにより、プラグイン・ソースの更新を確認することができ、さらに新規コードを PC 上のインストール済みプラグインにダウンロードします。

### 1 プラグインの除去

1 System i ナビゲーターを使用してプラグインを除去するには、「プラグインのインストール」タスクで  
1 「プラグインの選択」チェック・ボックスのチェック・マークを外します。System i ナビゲーターを使用  
1 してプラグインを除去するには、サーバーへの接続が必要です。

1 コマンド行オプションを使用すると、サーバーに接続しなくても、プラグインを除去することができます。

1 個々にプラグインを除去するには、`cwbinplg /REMOVE=vendor.name` オプションを使用します。ここで、  
1 `vendor.name` はシステム上のプラグイン・フォルダーの名前です (例えば、`IBM.BRMSPlugin`)。

1 サーバーに接続せず、かつ製品全体を除去せずに、ワークステーション上にインストールされているすべて  
1 のプラグインを除去するには、`cwbinplg /REMOVEPROD` オプションを使用します。

1 注: System i Access を除去する場合は、すべてのプラグインも除去されます。

プラグインおよびその使用方法について詳しくは、『System i ナビゲーター・プラグインの開発』を参照してください。

### 個別フィーチャーのインストールまたは除去

1 「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」を使用して、System i Access for Windows の個  
1 別フィーチャーをインストールまたは除去します。これは保守インストール とも呼ばれます。

1 System i Access for Windows のフィーチャーを追加または除去するには、以下のステップに従います。

1. 「スタート」 → 「コントロール パネル」 → 「プログラムの追加と削除」 → 「IBM System i Access  
for Windows」 → 「変更」の順にクリックします。

注: Vista では、「プログラムの追加と削除」は「プログラムと機能」と呼ばれます。

2. 画面の指示に従い、「変更」を選択します。

3. フィーチャー名をクリックし、必要に応じて以下のいずれかを選択します。

- フィーチャーをインストールするには、「**This feature will be installed on local hard drive** (このフィーチャーはローカル・ハード・ディスク上にインストールされる)」または「**This feature, and all subfeatures, will be installed on local hard drive** (このフィーチャーとすべてのサブフィーチャーはローカル・ハード・ディスク上にインストールされる)」を選択します。
- フィーチャーを除去するには、「**This feature will not be available** (このフィーチャーは使用不可になる)」を選択します。

4. 「インストール」をクリックして、インストールされるフィーチャーを変更し、インストール・ウィザードの処理が完了するまで続行します。

## その他の言語バージョンのインストール

- 1 2 次言語サポートは現在、使用できませんが、クライアント・インストール・ウィザードにより、PC で 1 次言語として使用可能な任意の各国語バージョン (NLV) を選択することができます。
- 1 System i Access for Windows ライセンス・プログラムからインストールを行う場合は、i5/OS 上で複数の 1 2 次言語をインストールしてから、そのインストール時に、1 次言語として必要となる言語を選択することができます。IBM e(ロゴ)server iSeries 400 セットアップおよびオペレーション バージョン 5 リリース 1 からインストールを行う場合は、すべての言語が使用可能となり、1 次言語として必要となる言語を選択することができます。

### 関連タスク

75 ページの『個別フィーチャーのインストールまたは除去』

「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」を使用して、System i Access for Windows の個別フィーチャーをインストールまたは除去します。これは保守インストール とも呼ばれます。

### 関連情報

i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードまたは削除

## LDAP へのディレクトリー情報の公開


LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) へのディレクトリー情報の公開により、ディレクトリーに関する i5/OS 情報を LDAP に加えることができます。その結果、アプリケーションはこの情報を使用することができます。

System i ナビゲーター を使用して LDAP にディレクトリー情報を公開するには、以下のステップに従います。

1. System i ナビゲーター を開きます。
2. システム名を右クリックします。
3. 「プロパティ」 を選択します。
4. 「ディレクトリー・サービス」 タブを選択します。
5. LDAP ディレクトリー・サーバーに公開するユーザー情報を選択します。

System i ナビゲーター を使用してディレクトリー情報を LDAP に公開する方法については、『ディレクトリー・サーバーへの情報の公開』を参照してください。

ディレクトリー情報の LDAP への公開は、文字ベースのインターフェースを使用して実行することもできます。文字ベースのインターフェースを使用してディレクトリー情報を LDAP に公開する方法については、『アルファベット順 API』を参照してください。

LDAP および情報の公開に関する一般情報は、System i LDAP (<http://www.ibm.com/eserver/iseries/ldap>)  を参照してください。

## System i Access for Windows のアップグレード

- 1 既に System i Access for Windows V5R3M0 またはそれ以降のリリースをインストール済みの場合、この 1 情報を使用して、より新しいリリースへのアップグレード方法を確認してください。

より新しいリリースにアップグレードしたい時には、以下の点に注意する必要があります。

- バージョン検査プログラムを使用してアップグレードを開始する場合は、V5R4M0 または V5R3M0 の最新のサービス・パックがインストールされていなければなりません。
- アップグレードは、V5R3M0 以降でインストールされた場合にのみサポートされます。それより古いリリースでインストールされた場合には、予測できない結果が生じることがあります。
- Visual Basic Wizards および EZ-Setup は組み込まれなくなりました。これらのフィーチャーがインストールされている場合は、アップグレード時に除去されます。
- デフォルトのアップグレードでは、前にインストールされたものと同じフィーチャーがインストールされます。ただし、System i Access for Windows のアップグレード時に追加のフィーチャーのインストールまたはフィーチャーの除去を行うことにより、変更を加えることができます。
- V5R3 以降、System i ナビゲーター・アプリケーション開発のインストール可能フィーチャーに含まれていた機能は、System i ナビゲーター・ネットワークのインストール可能フィーチャーに含まれるようになりました。


- V6R1 へアップグレードする際に、V5R3M0 からアップグレードしているか、または V5R4M0 からアップグレードしており、System i Access Family の Web ページから利用可能な Windows Installer Technical Preview を使用しなかった場合には、次のことを考慮してください。

- 現在インストールされており、アップグレードの一部としてアンインストールされるフィーチャーをリストするダイアログが表示されます。これらのフィーチャーの中には、サポートされなくなったもの、ユーザーがインストールしないことを選択したもの、および一度アンインストールされてから新しいリリースの一部として再インストールする必要のあるものが含まれています。

このダイアログは、アップグレードの際に除去されるフィーチャーのみが隠されて使用されていない場合には何もリストされません。

- 前のインストールで製品フォルダーの名前を変更している場合は、このインストールにより新しい System i Access for Windows 製品フォルダーがデスクトップ上に作成され、「スタート」→「プログラム」で System i Access for Windows がリストされます。名前を変更したフォルダーおよびプログラムは、手動で削除しなければなりません。
- 前にインストールしたものと同一 1 次言語にのみ、アップグレードできます。1 次言語を変更するには、新しい 1 次言語を指定して、製品のアンインストールおよび再インストールを行ってください。
- 2 次言語はアップグレード時に除去されます。
- 前の製品のインストールが Windows Installer テクノロジーを使用して実行されていない場合には、さまざまなフィーチャーのために報告されたディスク・スペース要件が正確でない場合があります。

アップグレードするには、58 ページの『System i Access for Windows の PC へのインストール』のインストール手順に従ってください。System i Access for Windows をアップグレードする前に考慮すべき事項については、20 ページの『インストールの注意点』を参照してください。

- V6R1 へのアップグレードを開始する前に .NET がインストールされていて、.NET フレームワークのバージョンが 2.0 より前のバージョンの場合は、.NET Provider はアップグレード時に除去されます。これを防ぐためには、アップグレードの開始前に .NET フレームワーク 2.0 をインストールします。 .NET フレームワークのダウンロードとインストールについては、[www.msdn.com](http://www.msdn.com)  を参照してください。

## PC から System i Access for Windows をアンインストール

既に System i Access for Windows をインストール済みの場合、この情報を使用して、PC から System i Access for Windows をアンインストールします。

System i Access for Windows をアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. 情報を保管し、実行中のアプリケーションを閉じます。

2. デスクトップで、「マイ コンピュータ」をダブルクリックします。

3. Windows Vista を実行していない場合は、「コントロール パネル」 → 「プログラムの追加と削除」を開きます。

Windows Vista を実行している場合は、Vista 上で「コントロール パネル」 → 「プログラムと機能」を開きます。

4. インストール済みプログラムのリストから「IBM System i Access for Windows」を選択して、「削除」をクリックします。

## トラブルシューティング

System i Access for Windows のインストール時またはアンインストール時に問題が生じた場合は、通常のインストールまたはアンインストールの方法を使用しても製品を修復または除去できないことがあります。Microsoft では、このような状態に対応するクリーンアップ・ツールを用意しています。

このクリーンアップ・ツールについては、Windows Installer CleanUp ユーティリティについて  で説明されています。

このツールは、System i Access for Windows を用いてインストールされたファイルはいずれも除去しません。除去するのは、該当のプログラムに関連する Windows Installer 構成情報のみです。クリーンアップ・ユーティリティの実行後に、ユーザーは System i Access for Windows を再度インストールする必要があります。

注: System i Access for Windows のファイルの重複コピーを防ぐために、ユーザーはプログラムを前と同じ場所にインストールする必要があります。

## 関連情報

System i Access for Windows に関するその他の情報源が記載されています。

以下に、System i Access for Windows トピックに関連する Web サイトとオンライン・ヘルプを示します。

### Web サイト

IBM ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com>)

IBM の製品、サービス、サポート、およびダウンロードに関する情報については、このサイト (英語) をご覧ください。

IBM System i ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/systems/i/>)  
System i プラットフォームについての知識 (英語) を習得してください。

System i Access for Windows ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/systems/i/software/access/windows/>)

System i Access for Windows の詳細を確認する場合は、このサイト (英語) をご覧ください。

IBM System i Access ホーム・ページ  (<http://www.ibm.com/systems/i/software/access/>)

この Web サイト (英語) には、System i Access に関するオンライン製品情報が入っています。

### System i ナビゲーターのホーム・ページ ([http://www.ibm.com/eserver/iserries/oper\\_nav](http://www.ibm.com/eserver/iserries/oper_nav))

System i ナビゲーター は、Windows クライアント用の強力なグラフィカル・インターフェースです。リリースごとに System i ナビゲーター のどの機能が使用可能かを判別するには、System i information center の リリース別の System i ナビゲーター 機能のトピックを参照してください。

### IBM Software ホーム・ページ (<http://www.ibm.com/software>)

IBM ソフトウェア、試行およびベータ、ソフトウェア・ニュース、ソフトウェア購入に関する情報、ならびにソフトウェア・サポートの情報源として、このサイト (英語) を使用してください。

### Support for IBM System i (<http://www.ibm.com/systems/support/i>)

System i および i5/OS 用のテクニカル・サポートおよびリソース (英語)。

### IBM Redbooks™ ホーム・ページ (<http://www.redbooks.ibm.com>)

追加のスキル、技術情報、および資料については、このサイト (英語) を参照してください。

### IBMi5/OS NetServer ホーム・ページ (<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/netserver/>)

i5/OS NetServer については、このサイト (英語) を参照してください。

### System i Access for Windows README ファイル (<http://www.ibm.com/systems/i/software/access/windows/v6r1.html>)

重要な情報や製品の技術的な変更については、このサイト (英語) をご覧ください。

### Information APARs (<http://www.ibm.com/systems/i/software/access/windows/caiixe1.html>)

プログラム診断依頼書 (APAR 情報) は、資料、オンライン情報、重大な修正情報、またはその他の情報源にはない情報を通信するために使用される電子文書です (英語)。

## オンライン・ヘルプ

System i Access for Windows をインストールしたら、「**ユーザーズ・ガイド**」という便利な情報源をオンラインで利用できます。このガイドは、問題の発見と訂正の手引きとなり、各種の手順が含まれています。特定のトピックを検索するには、このガイドの索引を使用してください。ユーザーズ・ガイドは、多くの複雑な状況の案内役となり、大部分の問題を解決するのに役立ちます。

#### 関連概念

4 ページの『System i Access for Windows 用のシステムのセットアップ』

System i Access for Windows を使用するには、ソフトウェアをシステムと PC の両方にインストールし、構成する必要があります。

---

## System i Access for Windows: 使用

IBM System i Access for Windows の特徴は、さまざまな PC と System i 間の機能、アプリケーションおよびイネーブラーです。System i Access for Windows とともに使用可能ないくつかのフィーチャーにより、以下を行うことができます。

- .NET テクノロジーを利用して、IBM DB2 for i5/OS .NET Provider を用いて、データを読み取り、検索し、変更を行い、IBM System i Access for Windows プラットフォーム上のデータ・オブジェクトに対して SQL コマンドを実行します。

- SQL ステートメント、ストアド・プロシージャ、データ待ち行列、プログラム、およびコマンドを使用して、クライアント/サーバー・アプリケーションを開発し、さらに IBM DB2 for i5/OSOLE DB Provider を使用して、DB2 for i5/OS データベースの論理および物理ファイルへのレコード・レベルのアクセスを行うこともできます。
- 着信リモート・コマンド (IRC) を使用して、コマンドを、さまざまなシステムから、System i Access for Windows をインストールしてあるパーソナル・コンピュータに送信します。これらのコマンドは、受動システムで実行できます。
- Windows AFP Viewer Plug-in を使用して、System i 印刷出力の管理、表示、および印刷を行います。
- データ転送を使用して、PC クライアントと System i プラットフォーム間でデータを転送します。
- PC5250 を使用して、端末エミュレーションとプリンター・エミュレーションを利用します。
- System i ナビゲーター で System i プラットフォームを管理します。System i ナビゲーターにはマネージメント・セントラルがあり、複数のシステムを容易に管理することができます。
- オペレーション・コンソールを使用して System i プラットフォームのセットアップおよび保守を行います。
- Open Database Connectivity (ODBC) インターフェースを使用して、データベースを処理します。
- アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)、関連するコード・サンプル・プログラム、ヘッダー・ファイル、ライブラリー・ファイル、およびプログラマーズ・ツールキットで使用できる文書などのアプリケーション開発リソースを使用します。
- System i Support for Windows Network Neighborhood (i5/OS NetServer) によるファイルおよび印刷サービス機能を使用します。

System i Access for Windows の使用に関する詳細な説明については、製品に付属しているオンライン・ヘルプ・システムである「*IBM System i Access for Windows User's Guide*」を参照してください。

---

## 第 2 章 コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。





---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するお客様が System i Access のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AFP  
DB2i5/OS  
IBM  
Lotus  
Lotus NotesNetServer  
Redbooks  
System i

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。





Printed in Japan